I·O DATA

無線LANアクセスポイント内蔵
ブロードバンドルータ

WN-B11/BBR

取扱説明書

「はじめにお読みください」

株式会社 アイ・オー・データ機器

103104-01

【本書での呼び方】

呼び方	意味
Windows XP	Microsoft® Windows® XP Professional Operating Systemおよび Microsoft® Windows® XP Home Edition Operating Systemの総称
Windows 2000	Microsoft® Windows® 2000 Professional Operating System
Windows Me	Microsoft® Windows® Millennium Edition Operating System
Windows 98	Microsoft® Windows® 98 Operating Systemおよび Microsoft® Windows® 98 Second Edition Operating Systemの総称
Windows 95	Microsoft® Windows® 95 Operating System
Windows Me/98/95	Windows Me, Windows 98, Windows 95の総称
Windows NT 4.0	Microsoft® Windows NT® Operating System Version 4.0 Workstation
Windows XP/2000 /NT 4.0	Windows XP, Windows 2000, Windows NT 4.0の総称
Windows 2000/Me/98/ 95/NT 4.0	Windows 2000, Windows Me, Windows 98, Windows 95, Windows NT 4.0の総称
Windows	Windows XP, Windows 2000, Windows Me, Windows 98, Windows 95, Windows NT 4.0の総称

【ご注意】

1) 本製品および本書は株式会社アイ・オー・データ機器の著作物です。
したがって、本製品および本書の一部または全部を無断で複製、複写、転載、改変することは法律で禁じられています。
2) 本製品及び本書の内容については、改良のために予告なく変更することがあります。
3) 本製品及び本書の内容について、不審な点やお気づきの点がございましたら、弊社PLANTコールセンターまでご連絡ください。
4) 本製品を運用した結果の他への影響については、上記にかかわらず責任は負いかねますのでご了承ください。
5) 本製品は「外国為替及び外国貿易法」の規定により戦略物資等輸出規制製品に該当する場合があります。
国外に持ち出す際には、日本国政府の輸出許可申請などの手続きが必要になる場合があります。
6) 本製品は、医療機器、原子力設備や機器、航空宇宙機器、輸送設備や機器など人命に関る設備や機器、及び高度な信頼性を必要とする設備や機器としての使用またはこれらに組み込んでの使用は意図されておりません。これら、設備や機器、制御システムなどに本製品を使用され、本製品の故障により、人身事故、火災事故、社会的な損害などが生じても、弊社ではいかなる責任も負いかねます。設備や機器、制御システムなどにおいて、冗長設計、火災延焼対策設計、誤動作防止設計など、安全設計に万全を期されるようご注意願います。
7) 本製品は日本国内仕様です。本製品を日本国外で使用された場合、弊社は一切の責任を負いかねます。また、弊社は本製品に関し、日本国外への技術サポート、及びアフターサービス等を行っておりませんので、予めご了承ください。(This product is for use only in Japan. We bear no responsibility for any damages or losses arising from use of, or inability to use, this product outside Japan and provide no technical support or after-service for this product outside Japan.)
8) お客様は、本製品または、その使用権を第三者に対する再使用許諾、譲渡、移転またはその他の処分を行うことはできません。
9) 弊社は、お客様が【ご注意】の諸条件のいずれかに違反されたときは、いつでも本製品のご使用を終了させることができるものとします。

- I-O DATA,PLANTは、株式会社アイ・オー・データ機器の登録商標です。
- Microsoft,Windows,Windows NTは、米国 Microsoft Corporationの登録商標です。
- その他、一般に会社名、製品名は各社の商標または登録商標です。

もくじ

もくじ ····· i
本製品を導入すれば ····· v
本製品を導入するまでの流れ ····· vi
安全にお使いいただくために ····· vii
本製品の特長 ····· x
本製品で使用する電波について ····· xi

第1章 導入する前に ····· 1

箱の中の確認 ····· 2
本製品を導入する上で必要なもの ····· 4

第2章 本製品とパソコン/モデムを接続する・9
～ LANケーブルでの接続 ～

接続の手順 ····· 10
ステップ1 接続するための準備①
インターネットに接続できることを確認する ····· 11
ステップ2 接続するための準備②
本製品の各部の名称・機能を確認する ····· 12
ステップ3 接続するための準備③
本製品を設置する ····· 14
ステップ4 接続①
本製品をADSL/ケーブルモデムと接続する ····· 16
ステップ5 接続②
有線LANから設定する場合の接続 ····· 20

第3章 添付のPCカードを準備する ····· 23

PCカードの準備手順 ····· 24

第4章 設定用パソコンを設定する ····· 27
～ 設定用パソコンのLANアダプタ設定 ～

設定の流れ ····· 28
ステップ1 設定用パソコンの準備①
無線LAN設定（*無線LANから設定する場合のみ*）· 30
ステップ2 設定用パソコンの準備②
設定用パソコンのIPアドレスを設定する ····· 34
ステップ3 設定用パソコンの準備③
設定したIPアドレスを確認する ····· 47
ステップ4 設定用パソコンの準備④
Webブラウザを設定する ····· 52
ステップ5 設定用パソコンの準備⑤
Webブラウザから設定画面を起動する ····· 59

第5章 ADSLで使用する場合の設定 ····· 63
～ PPPoE認証のADSL接続設定 ～

ADSLで使用する場合の設定 ····· 64

第6章 CATVで使用する場合の設定 ····· 69
～ CATV(ケーブルモデム)接続設定 ～

CATVで使用する場合の設定 ····· 70

第7章 その他の設定 ····· 77

LAN側設定 ····· 78
（本製品のIPアドレスやDHCPサーバー機能を設定する）
無線LAN側設定 ····· 79
（本製品の無線LANを設定する）
MACアドレス接続制限 ····· 88
（接続できるパソコンを限定する）
仮想サーバー ····· 89
（Webサーバーなどをインターネット上で公開する）
特殊アプリケーション ····· 90
（特殊なアプリケーションのポート設定をする）
パケットフィルタ ····· 91
（使用できるアプリケーションを限定する）
ステータス ····· 96
（現在の接続・設定状態を確認する）
管理設定 ····· 100
（パスワード、セキュアホスト、DMZホストを設定する）
本体再起動 ····· 105
（本製品内部で再起動させる）
初期設定に戻す ····· 106
（設定をすべて初期の設定に戻す）
ファームウェア更新 ····· 107
（本製品のファームウェアを更新する）
[RESET]ボタンによる初期設定への戻し方 ····· 108
（本製品背面の[RESET]ボタンでの操作）

付録 1 困ったときには ····· 111

付録 2 TCP/IPの基礎知識 ····· 124

付録 3 用語解説 ····· 131

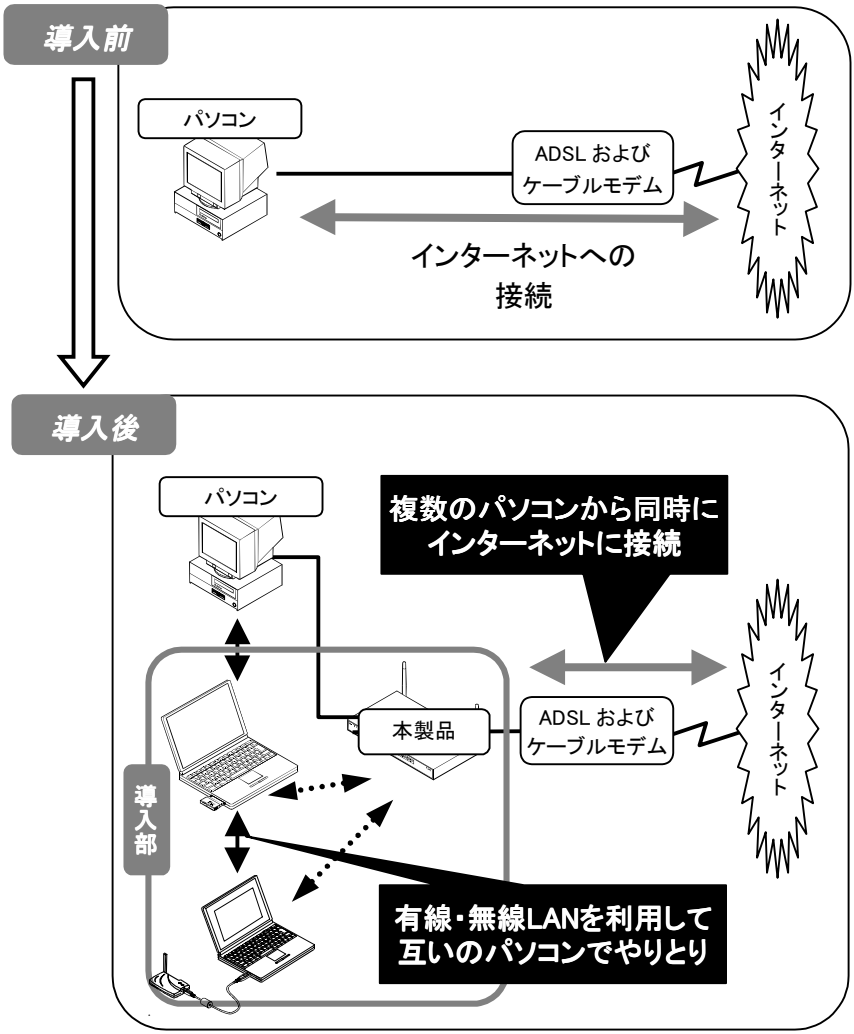
付録 4 仕様 ····· 140

PLANTコールセンターへのお問い合わせ ····· 143
ソフトウェアのバージョンアップ ····· 144
保証について ····· 145
修理について ····· 146

本製品を導入すれば

本製品を導入すれば、複数台のパソコンから同時に ADSL および CATV 経由でインターネットに接続できるようになります。
また、本製品に接続したパソコン同士で LAN を形成することになりますので、パソコン同士のデータのやりとりなどを LAN 経由でできるようにもなります。

導入例



本製品を導入するまでの流れ

本製品を使用するには、まず、本製品を設定する必要があります。
設定後、ADSL および CATV 経由でインターネットに接続できるようになります。以下のフローに沿って、お進みください。

導入する前に ‥【第1章 導入する前に】(1ページ)

本製品を導入する前に、必要な確認事項を説明します。
必ずお読みください。

本製品とパソコン/モデムの接続 ‥【第2章 本製品とパソコン/モデムを接続する】(9ページ)

本製品とモデムを接続します。有線LANから設定する場合は、有線LANの設定用パソコンも接続します。

添付のPCカードの準備 ‥【第3章 添付のPCカードを準備する】(23ページ)

添付のPCカードをご利用になれば、無線でパソコンから本製品に接続できます。

設定用パソコンの設定 ‥【第4章 設定用パソコンを設定する】(27ページ)

本製品を設定する設定用パソコンを設定します。設定は、有線LAN、無線LANのどちらからでも設定できます。

ADSL/CATVの設定 ‥【第5章 ADSLで使用する場合の設定】(63ページ)
‥【第6章 CATVで使用する場合の設定】(69ページ)

ADSLおよびCATVの設定を行います。
設定が終了すれば、インターネットなどに接続できます。

本製品をご活用ください。

安全にお使いいただくために

ここでは、お使いになる方への危害、財産への損害を未然に防ぎ、安全に正しくお使いいただくための注意事項を記載しています。
ご使用の際には、必ず記載事項をお守りください。

■警告および注意事項

⚠警告	この表示を無視して誤った取り扱いをすると、人体に多大な損傷を負う可能性が想定される内容を示しています。
⚠注意	この表示を無視して誤った取り扱いをすると、人が損傷を負う可能性又は物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

■絵記号の意味



この記号は注意（警告を含む）を促す内容を告げるものです。
記号の中や近くに具体的な内容が書かれています。

例） 「発火注意」を表す絵表示



この記号は禁止の行為を告げるものです。
記号の中や近くに具体的な内容が書かれています。

例） 「分解禁止」を表す絵表示



この記号は必ず行っていただきたい行為を告げるものです。
記号の中や近くに具体的な内容が書かれています。

例） 「電源プラグを抜く」を表す絵表示

⚠ 警告



本製品を使用する場合は、ご使用のパソコンや周辺機器のメーカーが指示している警告、注意表示を厳守してください。



本製品をご自分で修理・分解・改造しないでください。

火災や感電、やけど、故障の原因になります。
修理は弊社修理係にご依頼ください。分解したり、改造した場合、保証期間であっても有償修理となる場合があります。



煙が出たり、変な臭いや音がしたら、すぐに使用を中止してください。



本製品を接続する場合は、必ず本書で接続方法をご確認になり、以下のことをご注意ください。

- ケーブルにものをのせたり、引っ張ったり、折り曲げ・押しつけ・加工などは行わないでください。火災や故障の原因となります。
- 接続するコネクタやケーブルを間違えると、パソコン本体やケーブルから発煙したり火災の原因となることがあります。
- 給電されているLANケーブルは絶対に接続しないでください。給電されているLANケーブルを接続した場合には発煙したり、火災の原因となることがあります。

⚠注意

注意

本製品を使用中に誤った操作をしてデータが消失した場合でも、データの保証は一切いたしかねます。

故障に備えて定期的にバックアップをお取りください。

禁止

本製品は以下のような場所（環境）で保管・使用しないでください。

故障の原因となることがあります。

- ●振動や衝撃の加わる場所
- ●直射日光のあたる場所
- ●湿気やホコリが多い場所
- ●温湿度差の激しい場所
- ●熱の発生する物の近く（ストーブ、ヒータなど）
- ●強い磁力電波の発生する物の近く
  （磁石、ディスプレイ、スピーカ、ラジオ、無線機など）
- ●水気の多い場所（台所、浴室など）
- ●傾いた場所
- ●腐食性ガス雰囲気中（Cl_2、H_2S、NH_3、SO_2、NO_Xなど）
- ●静電気の影響の強い場所
- ●保温性・保湿性の高い（じゅうたん・カーペット・スポンジ・ダンボール箱・発砲スチロールなど）場所での使用（保管は構いません）

禁止

本製品は精密部品です。以下のことにご注意ください。

- ●落としたり、衝撃を加えない
- ●本製品の上に水などの液体や、クリップなどの小部品を置かない
- ●重いものを上にのせない
- ●そばで飲食・喫煙などをしない
- ●本製品内部に液体、金属、たばこの煙などの異物を入れない

本製品の特長

■ADSL/CATV ブロードバンド インターネット接続を共有

・無線 LAN により煩わしい配線が不要
・PPPoE は PAP も CHAP も対応
・ホスト名登録機能付き

■カンタン導入・ラクラク設定

・最適な無線チャンネルを検索し設置時のトラブルを軽減できます。
・ブラウザ設定対応
（Internet Explorer 5.0、Netscape 4.7 以降）
・DHCP サーバー機能により、LAN 内パソコンのネットワーク設定を簡素化

■安心のセキュリティ機能搭載

・無線 LAN 間では、従来の 64bitWEP 機能に加え、より強固な 128bitWEP 機能も搭載
※対応した無線 LAN アダプタが必要です。
・パケットフィルタリングによる簡易ファイヤウォール機能搭載
[IN]と[OUT]によるきめ細やかな設定が可能

■有線&無線 LAN でインターネットが共有できる 家中どこでもブロードバンドが楽しめる

・無線 LAN 接続により、エリア内であれば配線不要の自由なインターネット環境を楽しめます。
ケーブルレスの快適なフットワークをご満喫ください。

■チャットやネットゲームにもラクラク対応

・DMZ ホスト機能搭載
ネットワークゲームやチャットサービスにも対応可能。
・NAT/IP マスカレード機能により、複数のパソコンでインターネット接続を共有することができます。
・簡易ログ表示機能搭載

本製品で使用する電波について

本製品は、2.4GHz 帯域の電波を使用しています。
本製品を使用する上で、無線局の免許は必要ありませんが、以下および次ページの注意をご確認ください。

・以下の近くでは使用しないでください。

・電子レンジ／ペースメーカー等の産業・科学・医療用機器等
・工場の製造ライン等で使用されている移動体識別用の構内無線局（免許を要する無線局）
・特定小電力無線局（免許を要しない無線局）

上記の機器等は、無線LANと同じ電波の周波数帯を使用しています。
上記の近くで本製品を使用すると、電波の干渉を発生する恐れがあります。
そのため、通信ができなくなったり、速度が遅くなったりする場合があります。

・携帯電話・PHS・テレビ・ラジオを本製品の近くでは、できるだけ使用しないでください。

携帯電話・PHS・テレビ・ラジオ等は、無線LANとは異なる電波の周波数帯を使用しています。
そのため、本製品の近くでこれらの機器を使用しても、本製品の通信およびこれらの機器の通信に影響はありません。
ただし、これらの機器を無線LAN製品に近づけた場合は、本製品を含む無線LAN製品が発する電磁波の影響によって、音声や映像にノイズが発生する場合があります。

・間に鉄筋や金属およびコンクリートがあると通信できません。

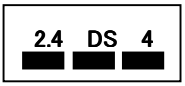
本製品で使用している電波は、通常の家屋で使用されている木材やガラス等などは通過しますので、部屋の壁に木材やガラスがあっても通信できます。
ただし、鉄筋や金属およびコンクリートなどが使用されている場合、電波は通過しません。部屋の壁にそれらが使用されている場合、通信することはできません。
同様にフロア間でも、間に鉄筋や金属およびコンクリート等が使用されていると通信できません。

2.4GHz帯使用の無線機器について

この機器の使用周波数帯では、電子レンジ等の産業・科学・医療用機器等のほか工場の製造ライン等で使用されている移動体識別用の構内無線局（免許を要する無線局）及び特定小電力無線局（免許を要しない無線局）が運用されています。

・この機器を使用する前に、近くで移動体識別用の構内無線局及び特定小電力無線局が運営されていないことを確認してください。
・万一、この機器から移動体識別用の構内無線局に対して電波干渉の事例が発生した場合には、速やかに使用周波数帯を変更するか、または電波の発射を停止した上、下記連絡先にご連絡いただき、混信回避のための処置等（例えば、パーティションの設置など）についてご相談してください。
・その他、この機器から移動体識別用の特定小電力無線局に対して電波干渉の事例が発生した場合など、何かお困りのことが起きた場合は、次の連絡先へお問い合わせください。

連絡先:PLANT コールセンター　電話:　金沢　076-260-3644
東京　03-3254-1144



2.4：2.4GHz 帯を使用する無線設備を表す
DS　：変調方式を表す
4　：想定される与干渉距離を表す（<=40m）
■■■：全帯域を使用し、かつ、移動体識別装置の帯域を回避可能であることを意味する。

第1章

導入する前に

この章では、本製品を導入する前の準備について、順を追って説明しています。

箱の中の確認

2ﾍﾟｰｼﾞ

箱の中身を確認します。

本製品を導入する上で必要なもの

4ﾍﾟｰｼﾞ

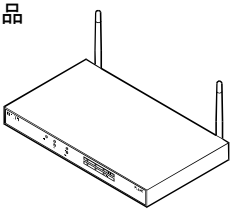
本製品を導入する上で必要な機器やソフトウェアについて説明します。

箱の中の確認

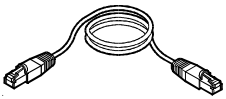
ご使用の前に以下のものがそろっていることをご確認ください。
万一、不足品がありましたら、弊社PLANTコールセンターまでお知らせください。

箱・梱包材は大切に保管し、修理などの輸送の際にご利用ください。

☐ 本製品

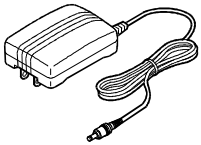


☐ LANケーブル（1本：約3m）
※ストレートケーブル
［カテゴリ5］

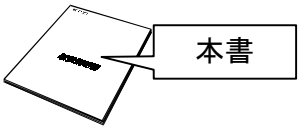


本製品とADSL/ケーブルモデムを接続する際、または本製品とパソコンを接続する際に使用

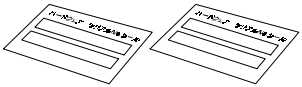
☐ ACアダプタ（1個）



☑ WN-B11/BBR取扱説明書（1冊）

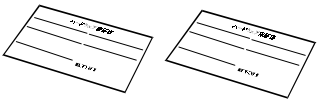


☐ ハードウェアシリアルNo.シール（2枚）
※本製品用（1枚）、
WN-B11/PCM用（1枚）

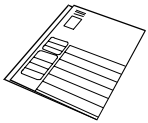


※ハードウェアシリアルNo.シールをハードウェア保証書とユーザー登録カードに貼ってください。

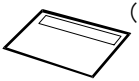
☐ ハードウェア保証書（2枚）
※本製品用（1枚）、
WN-B11/PCM用（1枚）



☐ ユーザー登録カード（1枚）

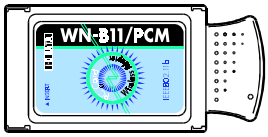


☐ 「無線LANについて」シール
（1枚）



以下は、添付の無線LAN PCカードアダプタ(WN-B11/PCM)をご利用になる場合にお使いください。

☐ 無線LAN PCカードアダプタ(1枚)



☐ ディスク(4枚)
[3.5インチ2HD(1.44MB)]

・設定ユーティリティ①
・設定ユーティリティ②
・設定ユーティリティ③



添付のPCカード(WN-B11/PCM)をWindows 2000/Me/98/95/NT 4.0でご使用になる場合に使用します。

・WN-B11/PCM Windows XP用
サポートソフト



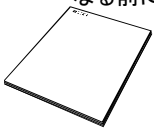
添付のPCカード(WN-B11/PCM)をWindows XPでご使用になる場合に使用します。

☐ WN-B11/PCM取扱説明書
(1冊)



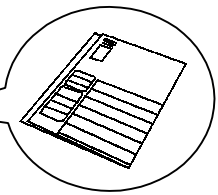
添付のPCカード(WN-B11/PCM)をWindows 2000/Me/98/95/NT 4.0でご使用になる場合にお読みください。

☐ 冊子「Windows XPでご使用になる前に」(1冊)



添付のPCカード(WN-B11/PCM)をWindows XPでご使用になる場合にお読みください。

ユーザー登録は済ませましたか？
「ユーザー登録カード」に登録方法が記載されています。
登録してから次ページへ進みましょう。



本製品を導入する上で必要なもの

本製品を導入して使用するには、以下のインターネット接続環境、および次ページ以降のパソコン・LAN環境が必要です。

インターネット接続環境

契約

インターネット・サービスを受けるには、ADSL、CATV のいずれかとインターネットサービスプロバイダ(ISP)との契約が必要です。
本製品を導入する前に契約しておいてください。



参考

契約後に取得した IP アドレス(ユーザ ID)について

契約後に、プロバイダからインターネットに接続するための[IP アドレス](あるいは[ユーザ ID])を取得します。
取得する IP アドレスは、「固定の IP アドレス」、「サーバーからの自動割り当て」などプロバイダによって異なります。
取得した[IP アドレス](あるいは[ユーザ ID])が1つでも、本製品の[NAT/IP マスカレード機能]を利用して複数台のパソコンでインターネットを利用することができます。

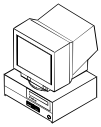
インターネットへの接続確認

本製品を使用する前に、パソコンをモデムに接続して、インターネットに正常に接続できることを確認しておいてください。

資料の準備

本製品を設定する際（詳細は【第４～６章】参照）にも、インターネットサービスプロバイダから入手した設定用の資料が必要ですので、準備しておいてください。

本製品が対応しているパソコン



※本製品は、基本的に“LANインターフェイスを搭載し、TCP/IPが正常に動作する機器”であれば対応しています。（OSには特に依存しません。）

パソコン	・NEC PC98-NX シリーズ ・DOS/V マシン※1

※1　弊社では、OADG 加盟メーカーの DOS/V マシンで動作確認を行っています。

※弊社では、以下のOSでご利用いただく場合のみをサポート範囲とさせていただいており、UNIX系OSやLinuxなどでご利用いただく場合のサポートは行っておりませんので、ご了承ください。

サポート対象OS一覧	・日本語 Windows XP ・日本語 Windows 2000 ・日本語 Windows Me ・日本語 Windows 98(Second Edition 含む) ・日本語 Windows 95 ・日本語 Windows NT 4.0

設定時に必要なソフトウェア

本製品を使用するには、最初に本製品の設定が必要です。
設定は、本製品を設定する１台のパソコン（**設定用パソコン**）
でのみ行いますが、設定用パソコンには以下が必要です。

・Webブラウザ

以下のバージョンのいずれかのWebブラウザが必要です。
お持ちで無い場合は、別途ご用意ください。

・Internet Explorer を使用する場合→バージョン 5.0 以上
・Netscapeを使用する場合　　→バージョン4.7以上





参考

添付の PC カード（WN-B11/PCM）を取り付けたパソコンから設定を行う場合は、本製品を使用する前に、[WN-B11/PCM 取扱説明書]を参照し、先に PC カードの設定（動作環境の確認や[設定ユーティリティ]のインストール作業など）を済ませてください。

参考

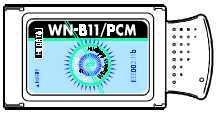
無線 LAN アダプタから設定を行った場合、本製品の無線設定を変更すると、無線 LAN アダプタ側の設定を変更後の値に合わせるまで通信が途切れてしまいます。
お手持ちの有線 LAN アダプタがある場合には、有線 LAN から設定することをおすすめします。

本製品に接続可能な有線LAN機器

※次ページ【本製品のLAN接続について】も参照してください。

本製品には、ADSL/ケーブルモデム接続用のコネクタ[WAN]と
有線LANとの接続用の3つのコネクタ[1、2、3]があります。
パソコンは最大3台まで直接LANケーブルで接続できます。4台以上接続する場合は、別途ハブが必要です。

本製品と通信可能な無線LAN機器



IEEE802.11b規格準拠の無線LAN製品と通信できます。

《弊社製品例》

- ・WN-B11/PCM （添付の弊社製無線LAN PCカード）
- ・WN-B11/USB （別売の弊社製無線LAN USBアダプタ）
- ・WN-B11/PCI （別売の弊社製無線LAN PCIアダプタ）

注意！

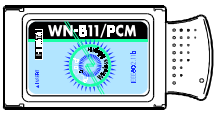
・本製品は無線 LAN 上ではアクセスポイントとして動作します。そのため、弊社製アクセスポイント「WN-B11/AXP」および他のアクセスポイント（本製品同士も含む）とは通信できません。
※アクセスポイント同士の通信はできません。
・弊社製無線 LAN PC カード PCWN-W10 とは通信できません。
・弊社製コードレスネットワーク『シンフォニーシリーズ』（WN-S/560,WN-S/PCI, PCWN-S）とは通信できません。

本製品のLAN接続について

本製品とADSLおよびケーブルモデム（CATVモデム）との接続は、LANケーブルを用いた有線LAN接続で行います。
また、本製品とパソコンとの接続は、無線LANアダプタによる無線LAN接続、またはLANケーブルを用いた有線LAN接続で行います。

・無線LAN接続する場合

無線LANアダプタが必要です。
パソコンにPCカードスロットがある場合は、
添付のPCカード（WN-B11/PCM）をお使いください。



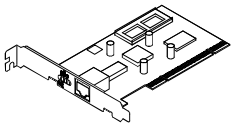
※ 最初にWN-B11/PCMのインストールが必要です。
詳細は、別冊【WN-B11/PCM取扱説明書】
（Windows XPでご利用になる場合は冊子【Windows XPでご利用になる場合】）を参照してください。

すでに無線LANアダプタをお使いの場合は、本製品と無線LANの設定を合わせることにより、そのままお使いいただけます。

・有線LAN接続する場合

・LANコネクタ（アダプタ）

パソコンにLANコネクタ（アダプタ）を搭載していない場合は、別途、LANアダプタが必要です。



※LANアダプタをご利用時には、パソコンに取り付け、必要なソフトウェアをインストールしておく必要があります。（詳細は、LANアダプタなどの取扱説明書を参照してください。）

・LANケーブル

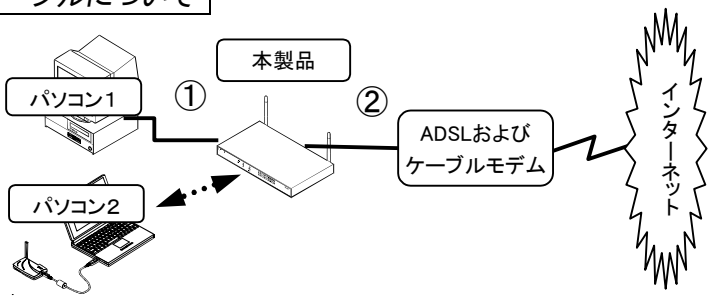
※次ページ【LANケーブルについて】も参照してください。

有線LAN接続の場合は本製品に接続するためのLANケーブルが必要です。
（パソコンが複数台の場合には台数分のLANケーブルが必要です。）

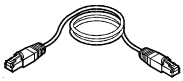
・ハブ

本製品を４台以上の有線LANパソコンでご使用になる場合は、別途ハブも必要です。（本製品に直接３台までのパソコンを接続できます。）

LANケーブルについて



①パソコン⇔本製品間のケーブル



LANケーブル

無線 LAN 接続の場合は必要ありません。
有線 LAN 接続する場合は、添付の LAN ケーブルがご使用可能です。
なお、２台目以降の有線 LAN パソコンと本製品を接続するケーブルは、パソコンの台数分の LAN ケーブルが必要です。別途、ご用意ください。

②本製品⇔ADSL モデム（またはケーブルモデム）間のケーブル



ADSLおよびケーブルモデムとパソコンの接続に使用していたLANケーブル

本製品とモデムは必ず LAN ケーブルで接続する必要があります。
通常は添付の LAN ケーブルがご使用可能です。
接続するケーブルは、ADSL およびケーブルモデムとパソコン間を接続していたケーブルと同等のケーブルをご使用ください。

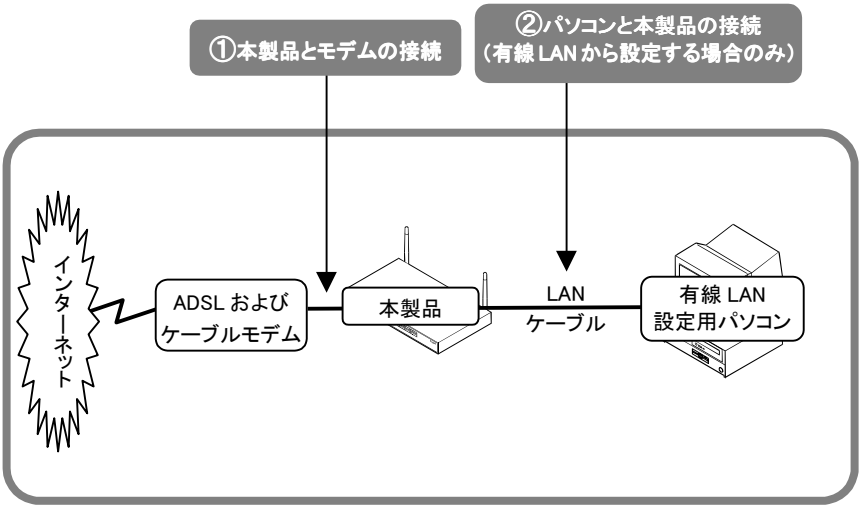
第2章

本製品とパソコン/モデムを接続する

～ *LAN* ケーブルでの接続 ～

この章では、本製品を導入するための接続方法を説明します。
最初に本製品とモデムを接続します。
有線LANから設定する場合は、有線LANのパソコン１台**（設定用パソコン）**も本製品に接続します。

この章で行うこと



接続の手順

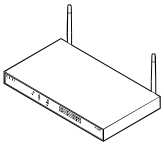
以下のステップに従って、本製品とモデム、および有線LANの設定用パソコンを接続します。

ステップ1 ……【インターネットに接続できることを確認する】(11 ページ)

本製品を接続する前に、ADSL/CATV 経由でインターネットに接続できることを確認しておきます。

ステップ2 ……【本製品の各部の名称・機能を確認する】(12 ページ)

本製品の各部の名称・機能を確認します。

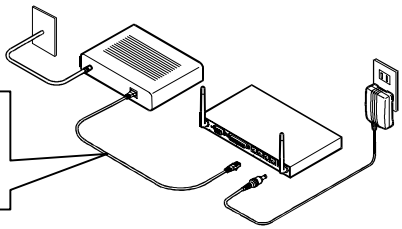


ステップ3 ……【本製品を設置する】(14 ページ)

本製品の設置に関する注意点を確認します

ステップ4 ……【本製品を ADSL/ケーブルモデムと接続する】(16 ページ)

本製品を ADSL/ケーブルモデムに接続します。

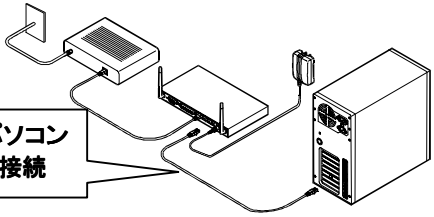


本製品と ADSL/ケーブルモデムとの接続

ステップ5 ……【有線 LAN から設定する場合の接続】(20 ページ)

設定用有線 LAN パソコンを本製品に接続します。

※無線 LAN から設定する場合は必要ありません。



本製品と設定用パソコン（有線 LAN）との接続

ステップ 1

接続するための準備①

インターネットに接続できることを確認する

まず、本製品を接続する前に、パソコンを現在使用中のADSLモデム、ケーブルモデムに接続してインターネットに接続してください。なお、パソコンの設定は、プロバイダから入手した資料に従って設定してください。

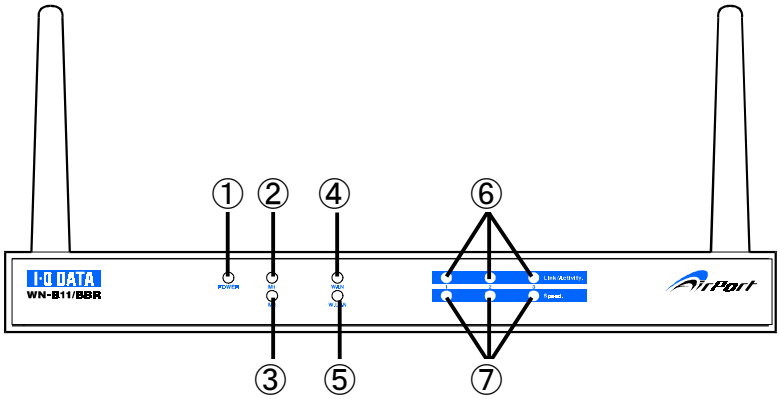


ステップ 2

接続するための準備②

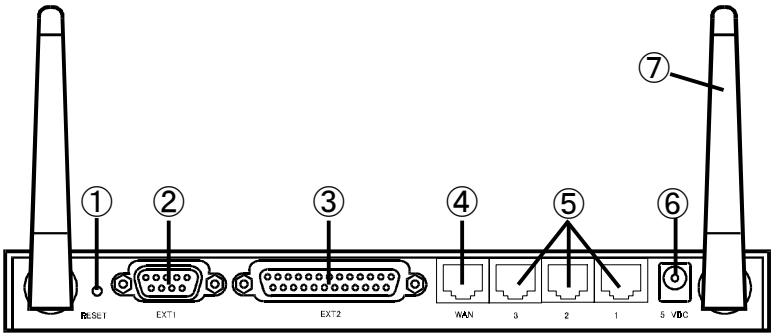
本製品の各部の名称・機能を確認する

■前面パネル■



No	ランプ	色	意味
①	POWER	緑	点灯：電源が入っている状態
②	M1	橙	点滅：システムが正常動作中の状態
③	M2	橙	点灯：WAN側が接続中の状態（IPアドレス手動設定時は除く） 点滅：システムが設定中・ファームウェアの更新中の状態
④	WAN	緑	点灯：WAN側が接続されている状態 点滅：WAN側でデータの送受信が行われている状態
⑤	W.LAN	緑	点滅：無線LANでデータの送受信が行われている状態
⑥	1,2,3 Link/Activity	緑	点灯：有線LANが接続されている状態 点滅：有線LANでデータの送受信が行われている状態
⑦	1,2,3 Speed	緑	点灯：100BASE-TXで接続されている状態 消灯：10BASE-Tで接続されてる状態、または、LANケーブルが接続されていない状態

■背面■



No	名称	用途
①	RESET	本製品の設定内容を工場出荷値に戻します。 詳細は【[RESET]ボタンによる初期設定への戻し方】108ページを参照してください。
②	EXT1	使用しません。 ※将来の拡張用です。
③	EXT2	使用しません。 ※将来の拡張用です。
④	WAN	ADSLおよびケーブルモデムとLANケーブルで接続するためのコネクタです。 ※接続されたLANケーブルが、ストレートかクロスかを自動認識します。
⑤	1，2，3	パソコンやハブ（ローカルネットワーク側）を接続するためのコネクタです。 10Mbpsと100Mbpsを自動認識します。 ※接続されたLANケーブルが、ストレートかクロスかを自動認識します。
⑥	DC IN [5V DC]	添付のACアダプタを接続します。 DC 5Vを使用します。
⑦	アンテナ	電波の送受信部です。 ※本製品と通信できる機器については、6ページ参照

ステップ
3

接続するための準備③
本製品を設置する

本製品を設置する際には、周辺の環境に充分注意してください。
本製品は、電波によって通信を行いますので、環境によっては正常に通信できなくなる場合があります。

使用および設置場所に関する注意

・本製品は以下のように設置してください。

・本製品および本製品と通信する機器同士はなるべく見通せるようにしてください。間に障害物（金属や建物や樹木その他）があると、通信できない、あるいは到達距離が短くなる場合があります。
また、本製品と通信する機器間に電磁波を発生する機器（高圧電線等）があると、そこから発する磁界によって到達距離が短くなる場合があります。

・本製品の AC アダプタその他電源ケーブル等からはできるだけ離してください。

・以下の近くでは使用しないでください。

・電子レンジ／ペースメーカー等の産業・科学・医療用機器等

・工場の製造ライン等で使用されている移動体識別用の構内無線局（免許を要する無線局）

・特定小電力無線局（免許を要しない無線局）

上記の機器などは、無線 LAN と同じ電波の周波数帯を使用しています。
上記の近くで本製品を使用すると、電波の干渉を発生する恐れがあります。
そのため、通信ができなくなったり、速度が遅くなったりする場合があります。

・携帯電話・PHS・テレビ・ラジオを本製品の近くでは、できるだけ使用しないでください。

携帯電話・PHS・テレビ・ラジオ等は、無線 LAN とは異なる電波の周波数帯を使用しています。

そのため、本製品の近くでこれらの機器を使用しても、本製品の通信およびこれらの機器の通信に影響はありません。

ただし、これらの機器を無線 LAN 製品に近づけた場合は、本製品を含む無線 LAN 製品が発する電磁波の影響によって、音声や映像にノイズが発生する場合があります。

・通信間に鉄筋や金属およびコンクリートがあると通信できません。

本製品で使用している電波は、通常の家屋で使用されている木材やガラス等などは通過しますので、部屋の壁に木材やガラスがあっても通信できます。

ただし、鉄筋や金属およびコンクリートなどが使用されている場合、電波は通過しません。部屋の壁にそれらが使用されている場合、通信することはできません。

同様にフロア間でも、間に鉄筋や金属およびコンクリート等が使用されていると通信できません。

ステップ 4

接続①

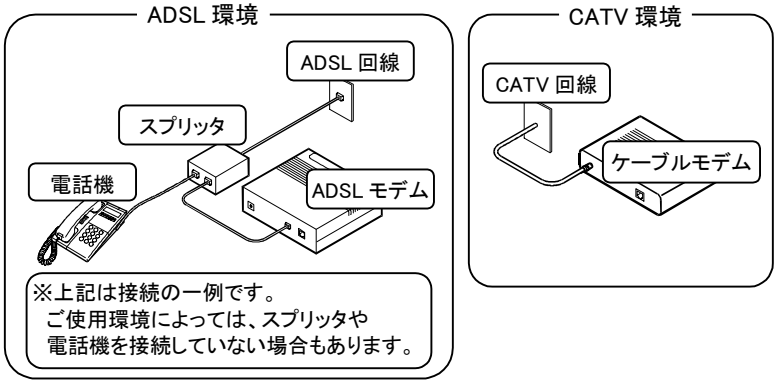
本製品をADSL/ケーブルモデムと接続する

本製品をADSL/ケーブルモデムと接続します。

ADSL/CATV 接続時に必要なもの

本製品を接続する際には、以下をご用意ください。

・ADSLまたはCATV環境（既に回線に接続済みの環境）



・*本製品*

・*専用ACアダプタ*	本製品添付品
・*LANケーブル*	ADSL、ケーブルモデムと本製品との接続用
・*LANケーブル*	パソコンとの接続用（添付品） （無線の場合は使用しません。）
・*LANアダプタ*	本製品添付品(WN-B11/PCM)など

・*設定用パソコン*

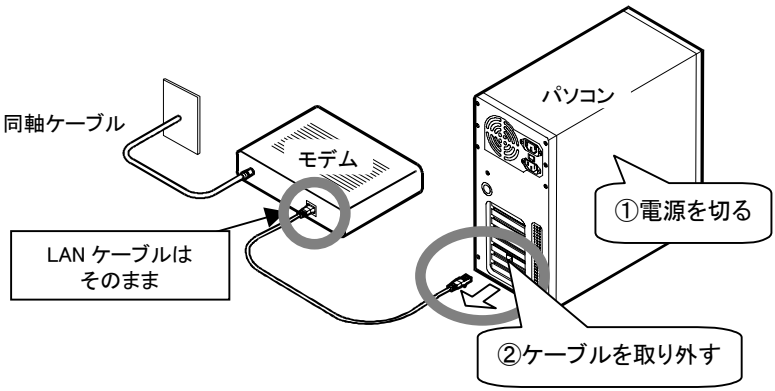
本製品を ADSL/ケーブルモデムに接続する

本製品をモデムに接続します。

・ ここでは、【ステップ1】(11 ページ)でインターネットに接続できることを確認した後からの作業を説明します。
・ 以下の説明中で使用しているイラストは、ケーブルモデムを例にしていますが、ADSL モデムの場合も同様の手順です。

1 インターネットに接続できることを確認します。

2 Windowsを終了後、パソコンの電源を切り、
パソコン側のLANケーブルを取り外します。

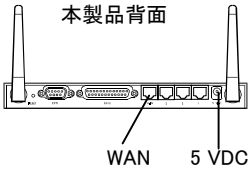


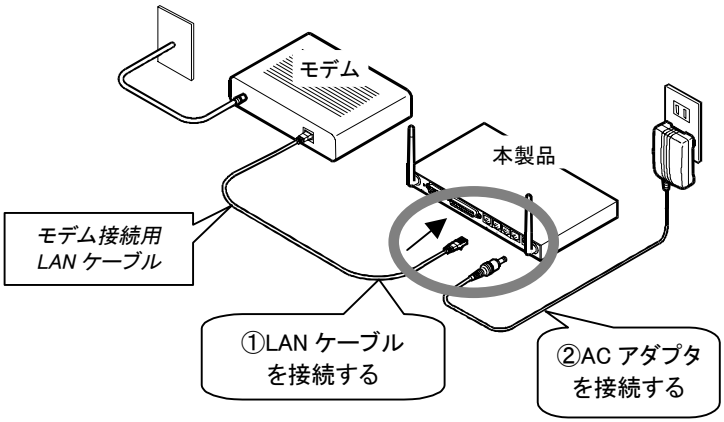
注意！

・モデムの電源を入れ直す場合は、各プロバイダの指示に従ってください。
・LAN ケーブルはモデムに接続したままにしておいてください。
この後、その LAN ケーブルで本製品を接続しますので、モデム側はそのまま接続しておいてください。

3 モデムの電源が入っていることを確認します。

4 本製品の[WAN]コネクタに
モデムのLANケーブルを接続します。
[5 VDC]コネクタに本製品に添付のACアダプタを接続し、電源コンセントに接続します。

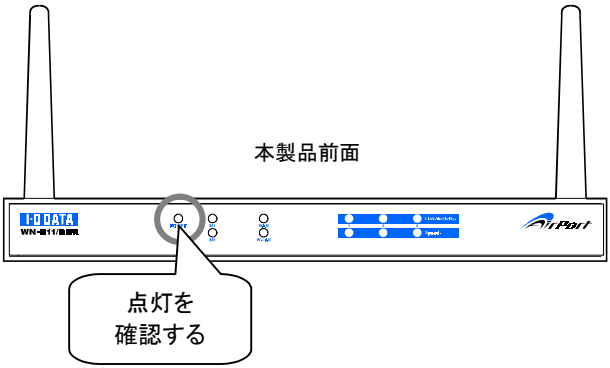


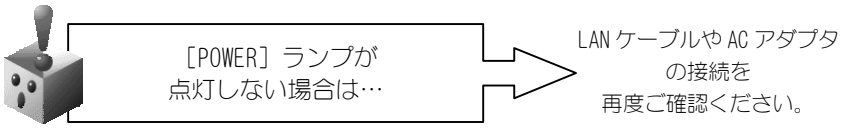


注意！

・AC アダプタは必ず添付のものをご使用ください。
・LAN ケーブルを接続してから AC アダプタを接続してください。
AC アダプタを接続した後に LAN ケーブルを接続すると、本製品を正しく使用できません。
・モデムの電源が入っている状態で接続してください。
電源が入っていないと、本製品を正しく使用できません。
・モデムとの接続は、必ず[WAN]コネクタで接続してください。
他のコネクタに接続すると、本製品を正しく使用できません。

5 接続後しばらくすると、
本製品の[POWER]ランプが緑色に点灯することを確認してください。





この後....

有線LANから設定する場合は、設定用パソコンを本製品へ接続します。次ページ【ステップ5】へお進みください。
無線LANから設定する場合は以上でLANケーブルの接続は終了です。【第3章】(23ページ)へお進みください。

ステップ 5

接続②

有線 LAN から設定する場合の接続

本製品は最初に設定する必要がありますが、設定は有線LANおよび無線LANのどちらからでも設定できます。

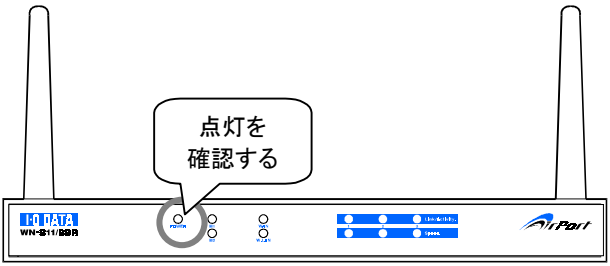
ここでは、有線LANから本製品を設定する場合の本製品とパソコン（***設定用パソコン***）との接続手順について説明します。

参考

無線 LAN から設定する場合は、以下の接続作業は必要ありませんので、【第3章】(23ページ)へお進みください。

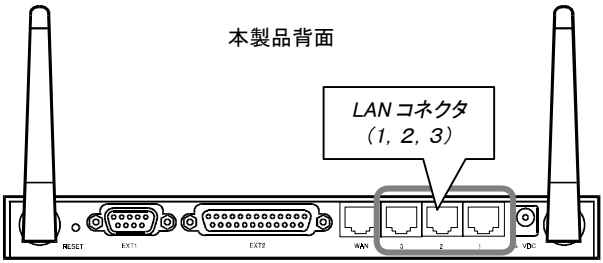
1 パソコンの電源が切れていることを確認します。

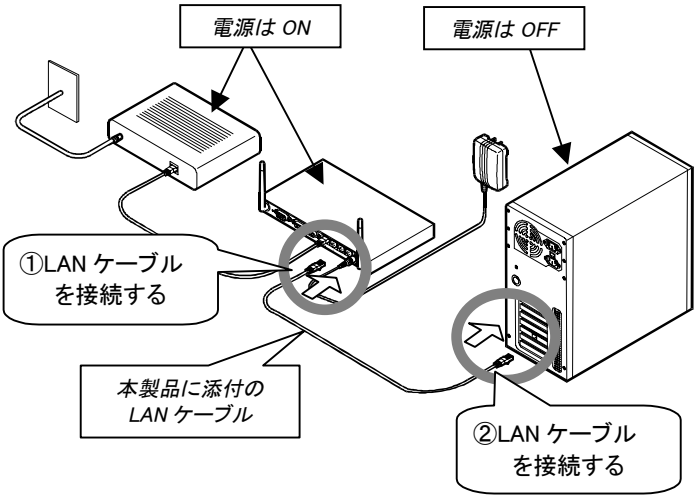
2 本製品の[POWER]ランプが緑色に点灯していることを確認します。



本製品前面

3 添付のLANケーブルで
本製品のLANコネクタ（1、2，3のいずれか）とパソコンを接続します。（次ページ図参照）





注意！

・パソコンの電源はこの後の【第4章】で入れます。
パソコンの電源を入れる際は、必ず本製品の電源が入っている状態で、かつ、LAN ケーブルを接続している状態で行ってください。
・パソコンと本製品を接続する LAN ケーブルは、添付のケーブルを使用してください。また、市販の LAN ケーブルでも使用できます。通常はストレート用 LAN ケーブルを使用します。

参考

パソコンと接続する本製品側の LAN コネクタ([1]～[3])は、いずれのコネクタでもご利用いただけます。
([WAN]コネクタは、本製品とモデムを接続するコネクタです。)

この後、添付のPCカードを準備します。
【第3章】(23ページ)へお進みください。

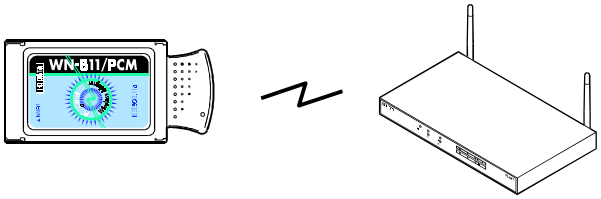
MEMO

第3章

添付の PC カードを準備する

本製品には、無線LAN PCカードアダプタ（WN-B11/PCM）を添付しています。添付のPCカード（WN-B11/PCM）をご利用になれば、本製品と無線LANで接続でき、また、本製品を設定することもできます。

※パソコンにPCカードスロットが必要です。また、対応OS・対応機種その他詳細については、別冊【WN-B11/PCM取扱説明書】を参照してください。



ここでは、添付のPCカード（WN-B11/PCM）の準備の概要について説明します。

PC カードの準備手順

PCカードの準備を行います。
以下の個所を参照してください。

・*Windows XPでご使用になる場合* → 次ページ参照
・*Windows 2000、Windows Me/98/95、Windows NT 4.0でご使用になる場合* → 26ページ参照



注意！

・他の OS から Windows XP へアップグレードおよび新規に Windows XP をインストールする場合は、PC カードを取り外した状態で行ってください。
また、インストールした PC カードの「設定ユーティリティ」は削除してから Windows XP へアップグレードしてください。

・Windows XP でご使用になる場合は、添付の冊子【Windows XP でのご使用について】を参照し、インストールおよび設定を行ってください。(「WN-B11/PCM 取扱説明書」の記載とは異なります。)
なおインストールする際は、同梱の「Windows XP 用サポートソフト」をご使用ください。

・添付の[WN-B11/PCM 設定ユーティリティ①、②、③]は Windows 2000、Windows Me/98/95 および Windows NT 4.0 用です。
Windows XP ではご使用になれません。(インストールしないでください。)
Windows XP では、Windows XP 標準の設定ユーティリティをご使用ください。

・添付の PC カードを含め、無線 LAN で本製品に接続する場合は、[Infrastructure]モードでのみ接続できます。([Ad Hoc]モードおよび[802.11 Ad Hoc]モードでは本製品に接続できません。)

WindowsXP で使用する場合

以下のステップに従って、PCカード（WN-B11/PCM）を設定してください。

ステップ 1 ……添付の冊子【Windows XP でのご使用について】の【Windows XP で使う手順】の個所参照

PC カードを使用するには、「Windows XP 用サポートソフト」のインストールが必要です。冊子【Windows XP でのご使用について】を参照してインストールしてください。

ステップ 2 ……添付の冊子【Windows XP でのご使用について】の【ワイヤレスネットワークの設定】の個所参照

インストール後、PC カードは無線 LAN ネットワークの無線 LAN 設定に合わせてください。

なお、PC カードを利用して本製品を設定する場合は、以下の無線 LAN 設定にしておく必要があります。

【出荷時の本製品を設定する場合の PC カードの無線 LAN 設定】

モード	Infrastructure
SS ID	default
暗号化キー	無効

Windows XP の ワイヤレスネットワークのプロパティ画面



作業終了

ここまでで、PCカードの作業は終了です。

PCカードの設定を変更する場合は冊子【Windows XPでのご使用について】を参照してください。（電波の状態は、タスクトレイのアイコンをダブルクリックすれば確認できます。）

Windows 2000/Me/98/95/NT 4.0 で使用する場合

以下のステップに従って、PCカード（WN-B11/PCM）を設定してください。

ステップ1 ……WN-B11/PCM 取扱説明書【動作環境を確認する】参照
PC カードが使用できる OS や機種をご確認ください。

↓

ステップ2 ……WN-B11/PCM 取扱説明書【使う前の準備(インストール)】参照
PC カードを使用する上で必要な添付の「WN-B11/PCM 設定ユーティリティ①、②、③」のインストール作業を行ってください。

↓

作業終了

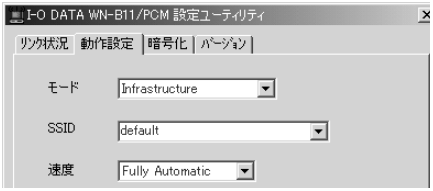
ここまでで、PCカードの作業は終了です。
インストールした後のPCカードの無線LAN設定は、本製品の出荷時の無線LAN設定と同じ設定となっています。
PCカードを利用して本製品を設定する場合は、インストールした状態の設定のままにしておいてください。
また、PCカードの設定を変更する場合はWN-B11/PCM取扱説明書【本製品を設定する】の個所を参照してください。

参考

「設定ユーティリティ」のインストール時、ウィザード画面（インストール中に表示される画面）を初期値のまま実行すると、以下のような設定となります。

モード	Infrastructure
SS ID	default
暗号化キー	無効

WN-B11/PCM の
設定ユーティリティ画面



第4章

設定用パソコンを設定する

～ 設定用パソコンの LAN アダプタ設定 ～

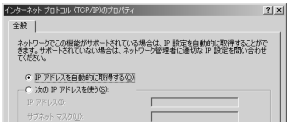
この章では、本製品を設定する設定用パソコンの設定について説明します。

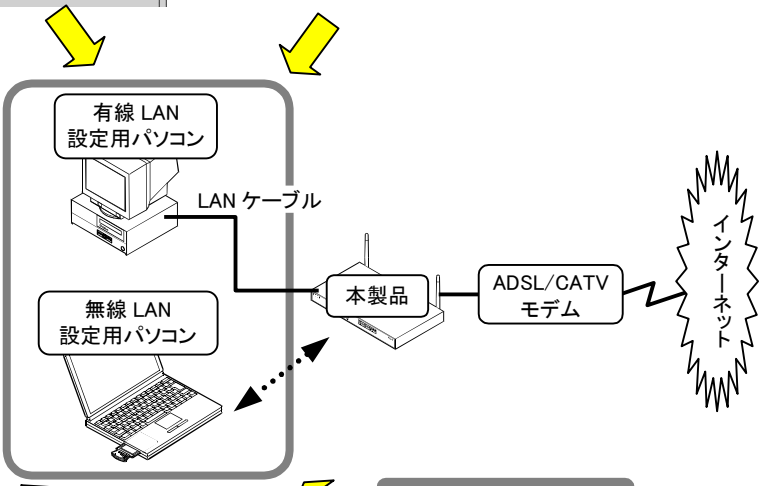
この章で行うこと

①無線 LAN の設定

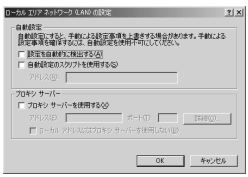


②IP アドレスの設定





③Web ブラウザの設定



④設定画面の起動



設定の流れ

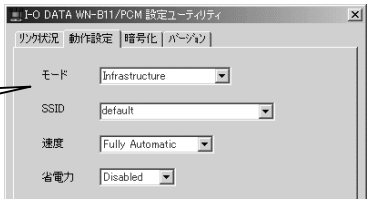
以下のステップに従って、設定用パソコンを設定してください。

ステップ1 ‥【無線 LAN 設定（無線 LAN から設定する場合のみ）】(30 ページ)

無線LAN/パソコンから設定する場合の無線LANの設定をします。

※有線LANから設定する場合は必要ありません。

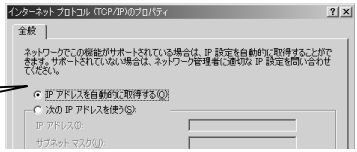
無線 LAN の設定



ステップ2 ‥‥‥‥‥‥【設定用パソコンの IP アドレスを設定する】(34 ページ)

本製品を設定する設定用パソコンの IP アドレスを設定します。

IP アドレスの設定



ステップ3 ‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥【設定した IP アドレスを確認する】(47 ページ)

【ステップ2】で設定した設定用パソコンの IP アドレスを確認します。

IP アドレスの確認

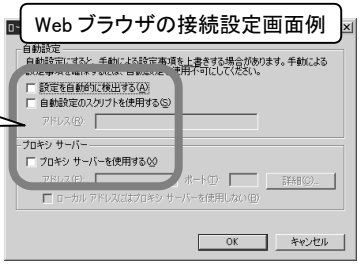


ステップ4 ‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥【Web ブラウザを設定する】(52 ページ)

設定は Web ブラウザを使用して行いますが、Web ブラウザの接続設定をしておく必要があります。

接続設定

Web ブラウザの接続設定画面例



ステップ5 ……【Web ブラウザから設定画面を起動する】(59 ページ)

本製品の設定画面をWebブラウザで表示させます。

設定画面の起動



第5～6章へ

ステップ 1

設定用パソコンの準備①

無線 LAN 設定 *(無線 LAN から設定する場合のみ)*

本製品は有線LAN、無線LANのどちらからでも設定できますが、無線LANから本製品を設定する場合は、まず最初に無線LANの設定用パソコンから本製品と無線LANで通信できように設定する必要があります。



参考

- **有線 LAN から設定する場合は、本ステップの設定は必要ありません。【ステップ2】(34 ページ)へお進みください。**
- **【第3章】(23 ページ)で設定した添付の PC カード(WN-B11/PCM)を接続したパソコンを設定用パソコンとする場合は、次ページ表の設定となっていることを確認後、【ステップ 2】(34 ページ)へお進みください。**
- **添付の PC カード(WN-B11/PCM)以外の無線 LAN アダプタで本製品を設定する場合は、各製品の取扱説明書を参照して、インストールおよび設定をすべて終了しておいてください。なお、設定は次ページ表の設定にしてください。**
- **すでに弊社製無線 LAN アダプタ製品(WN-B11/PCM、WN-B11/USB、WN-B11/PCI)をお使いの場合で、Windows XP から本製品をご利用になる場合は、弊社ホームページ上の「サポートソフト」や「ファームウェアソフト」が必要になります。**
  詳細は、弊社ホームページの「サポートライブラリ」(*http://www.iodata.jp/lib/*)を参照し、必要なソフトウェアを入手してください。

無線 LAN アダプタ側の無線 LAN を設定する

無線LANから設定する場合、最初は本製品側での無線LAN設定ができないため、無線LANを搭載（接続）したパソコン（無線LANアダプタ）側を設定する必要があります。

設定は、パソコン（無線LANアダプタ）側の設定を本製品の以下の初期値と一致させる作業です。

次ページ以降の手順で設定してください。

・無線LANから設定する場合の設定内容

項目	本製品の初期値	無線LANアダプタ側で設定する値
通信モード	Infrastructure	[Infrastructure](インフラストラクチャ)に設定します。
SSID (ESS-ID)	default	[default]に設定します。
チャンネル	6 ch	設定の必要はありません。 ※無線LANアダプタをインフラストラクチャモードで動作させる場合は、無線LANアダプタが本製品のチャンネルへ自動的に合わせるので設定の必要はありません。 ※弊社製無線LANアダプタの場合は、インフラストラクチャモードの場合、チャンネルを設定できない仕様となっています。
暗号鍵 (WEP Key)	無効	[無効]に設定します。

1 無線LANの設定用パソコンの電源を入れます。

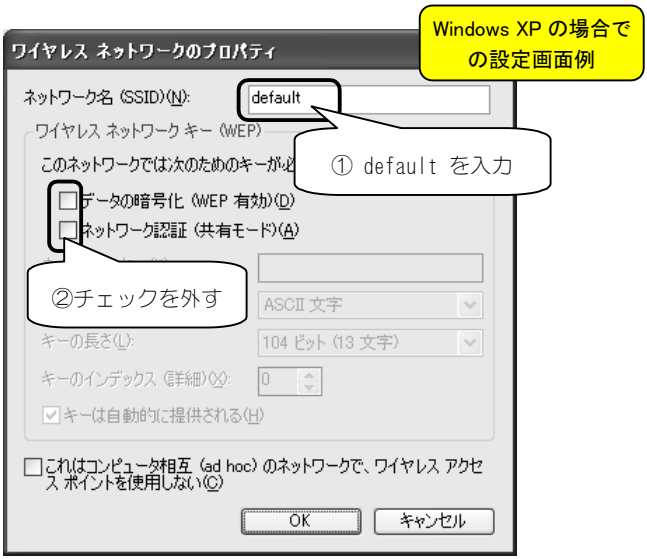
2 設定用パソコンへインストールした無線LANアダプタの設定ユーティリティを起動します。

3 無線LANアダプタの設定ユーティリティで、前ページの表に従って本製品の初期値に合わせてください。

※以下および次ページは【第3章】で設定した添付のPCカード（WN-B11/PCM）での設定画面例です。

※設定の保存方法など、詳細は各無線LANアダプタの取扱説明書をご覧ください。

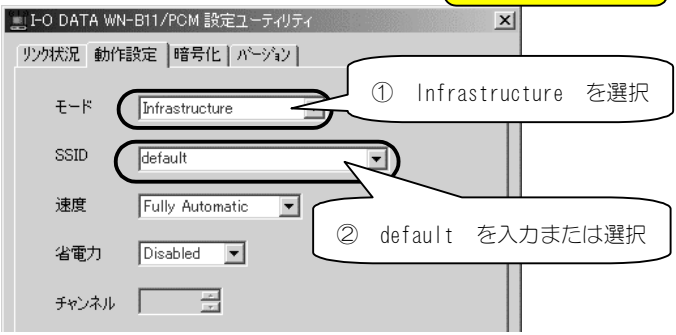
・*Windows XPでの画面例*（*Windows XP標準のソフトウェア*）



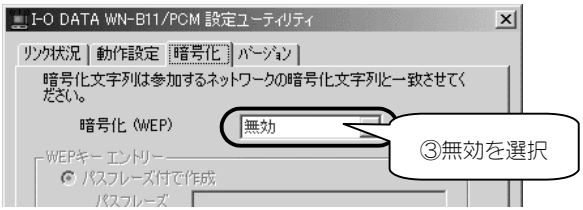
・設定ユーティリティでの画面例

通信モードと SSID の設定

弊社製 WN-B11/PCM
での設定画面例



暗号鍵(暗号化)の設定



この後、設定用パソコンのIPアドレスを設定します。
次ページ【ステップ2】へお進みください。

ステップ 2

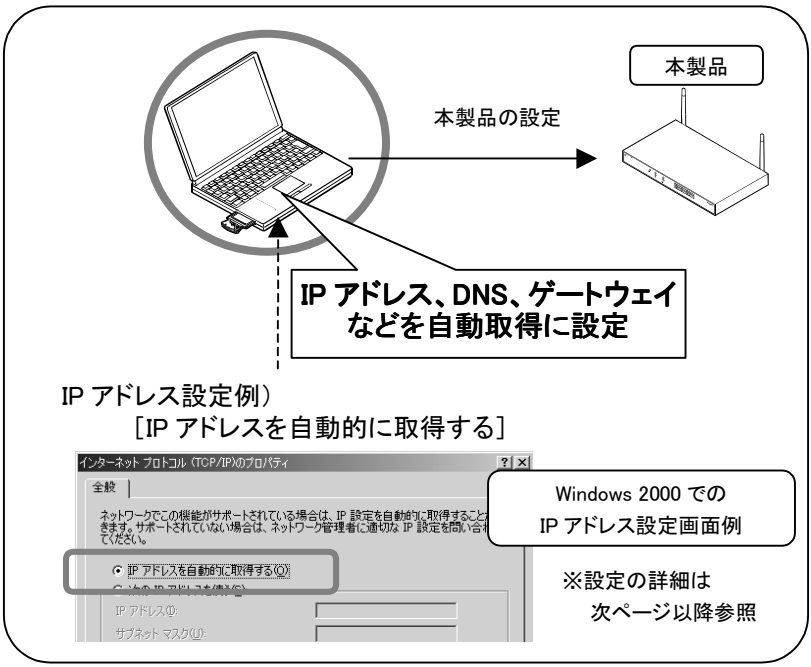
設定用パソコンの準備②
設定用パソコンの IP アドレスを設定する

本製品を使用するには、設定用パソコンのIPアドレスを、自動的に取得する設定（[IPアドレスを自動的に取得]、[DHCPサーバーから取得]など）にする必要があります。

参考

本製品を使用するには、有線 LAN および無線 LAN に限らず、また、設定用パソコンを含め接続するすべてのパソコンの IP アドレスを設定する必要があります。
本製品購入時には、本製品が[DHCP サーバー]という IP アドレスをパソコンに"自動的に割り振る"設定となっていますので、パソコン側では、「IP アドレスを自動的に取得する」設定（[IP アドレスを自動的に取得]、[DHCP サーバーから取得]など）にしておけば、パソコン起動時に、自動的に本製品から IP アドレスを取得できるようになります。
本書では、本製品を[DHCP サーバー]、パソコン側を IP アドレスを自動的に取得する設定[DHCP クライアント]として設定する方法を説明します。
DHCP については、128 ページを参照してください。

次ページ以降の手順で設定してください。



1 設定用パソコンの電源を入れます。

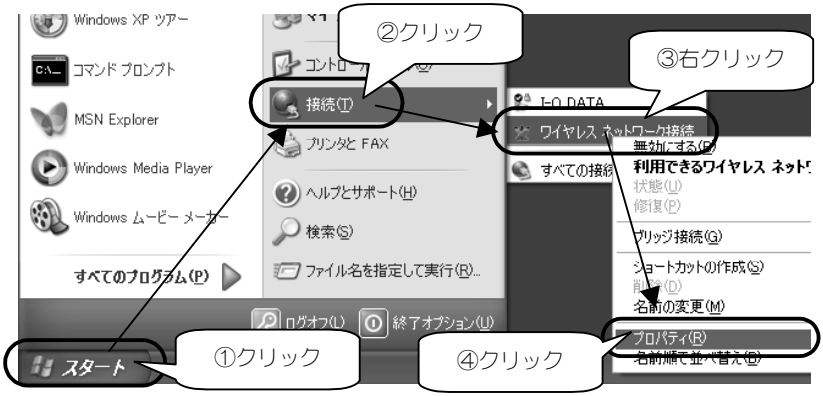
2 設定用パソコンのIPアドレスを設定します。
設定はご使用のOSによって異なります。以下の該当する個所へお進みください。

- *Windows XPをお使いの場合* → 次ページを参照してください。
- *Windows 2000をお使いの場合* → 38ページを参照してください。
- *Windows Me/98/95をお使いの場合* → 41ページを参照してください。
- *Windows NT 4.0をお使いの場合* → 44ページを参照してください。

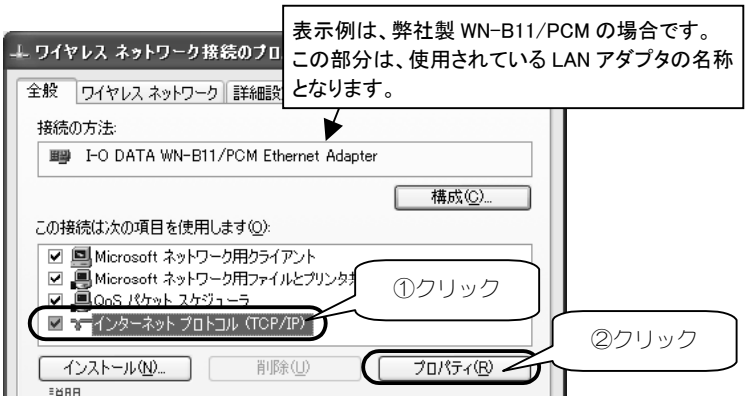
Windows XP で IP アドレスを設定する

1 コンピュータの管理者のアカウントでログオンします。

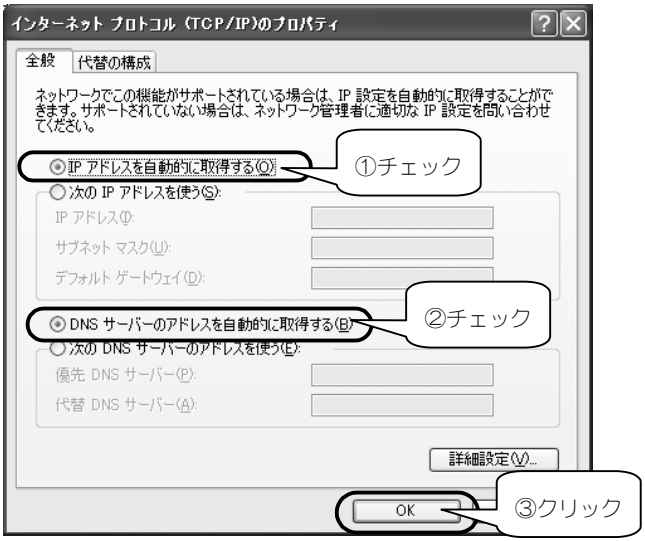
2 [スタート]→[接続]をクリックし、
表示された[ワイヤレスネットワーク]を右クリック後、
[プロパティ]をクリックします。



3 [全般]タブで[インターネットプロトコル]をクリック後、
[プロパティ]ボタンをクリックします。



4 [IPアドレスを自動的に取得する]をチェックし、
[DNSサーバーのアドレスを自動的に取得する]をチェック後、
[OK]ボタンをクリックします。



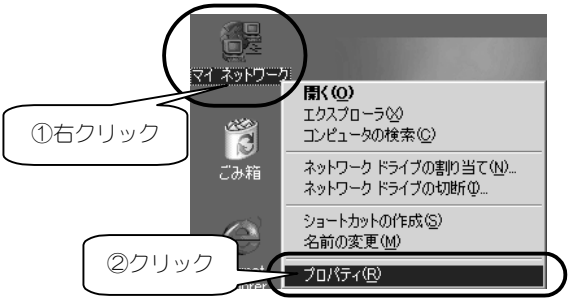
5 すべての画面を閉じて、
パソコンを一度再起動します。

この後、【ステップ3】(47 ページ)を参照して、パソコンに IP アドレスが正常に取得されているか確認してください。

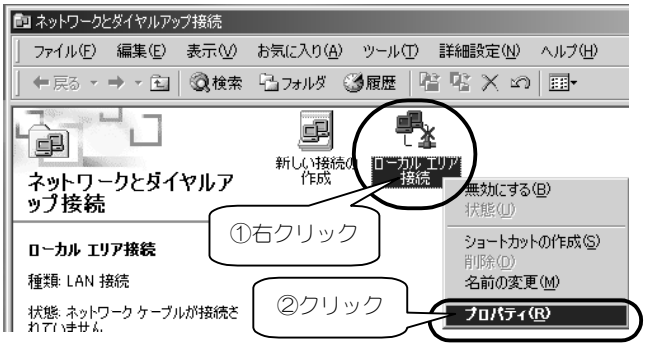
Windows 2000 で IP アドレスを設定する

1 Administrator権限でWindows 2000にログオンします。

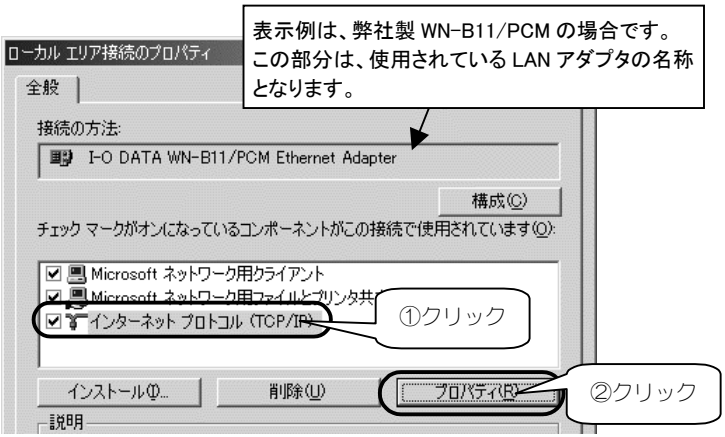
2 [マイ ネットワーク]を右クリックし、
メニュー内の[プロパティ]をクリックします。



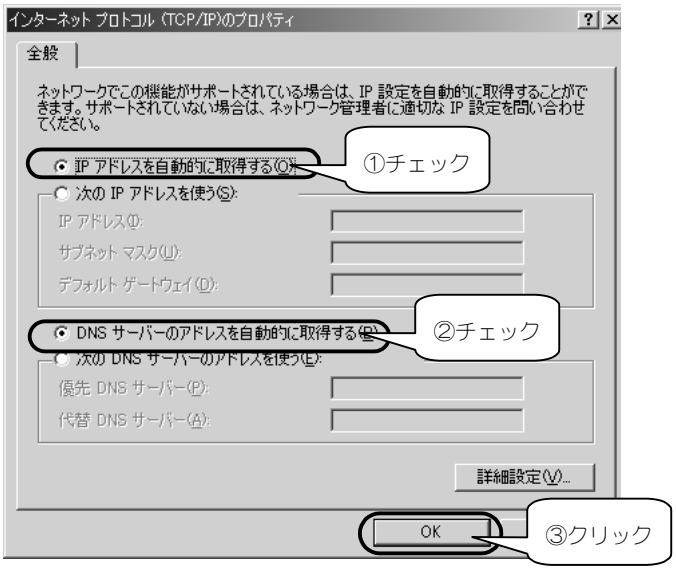
3 [ローカルエリア接続]を右クリックし、メニュー内の
[プロパティ]をクリックします。



4 [インターネットプロトコル（TCP/IP）]をクリックし、
[プロパティ]ボタンをクリックします。



5 [IPアドレスを自動的に取得する]をチェックし、
[DNSサーバーのアドレスを自動的に取得する]をチェック後、
[OK]ボタンをクリックします。

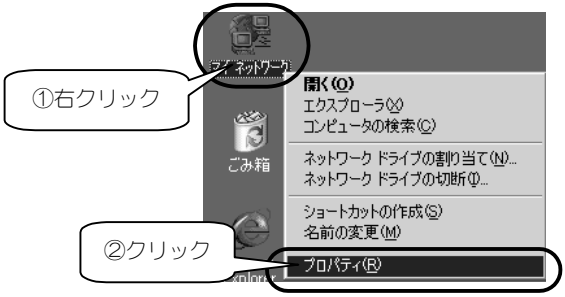


6 すべての画面を閉じて、
パソコンを一度再起動します。

この後、【ステップ3】(47 ページ)を参照して、パソコンに IP アドレスが正常に取得されているか確認してください。

Windows Me/98/95 で IP アドレスを設定する

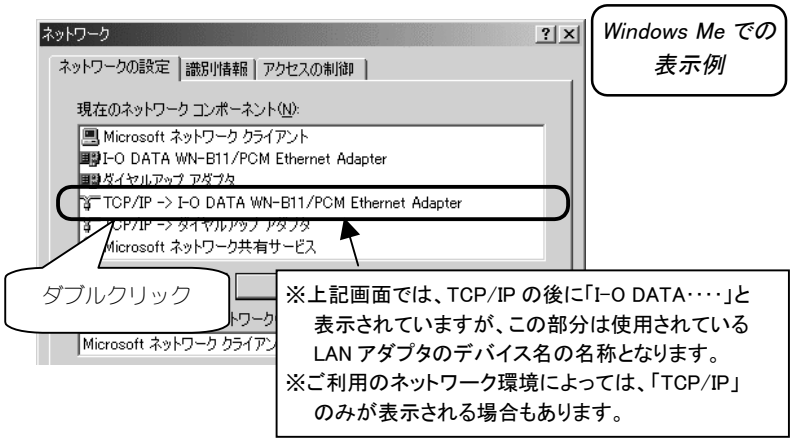
1 [マイ ネットワーク](または[ネットワークコンピュータ])を右クリックし、メニュー内の[プロパティ]をクリックします。



2 [TCP/IP](あるいは[TCP/IP -> xxxxxxx])をダブルクリックします。

(xxxxxxxxはLANアダプタのデバイス名の名称です。)

※アダプタが複数ある場合に、[TCP/IPー>xxxxxxxx]と表示されます。
[TCP/IPー>xxxxxxxx]をダブルクリックしてください。

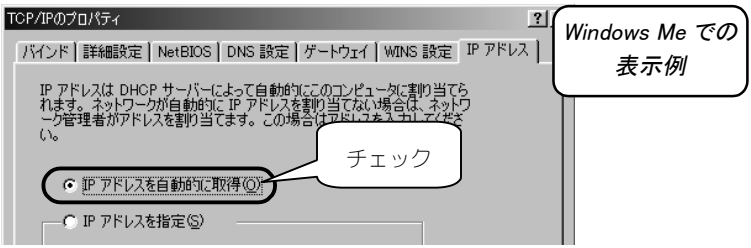




Windows Me/98/95 で TCP/IP が表示されていない場合は…

【困ったときには】の 116 ページをご参照ください。

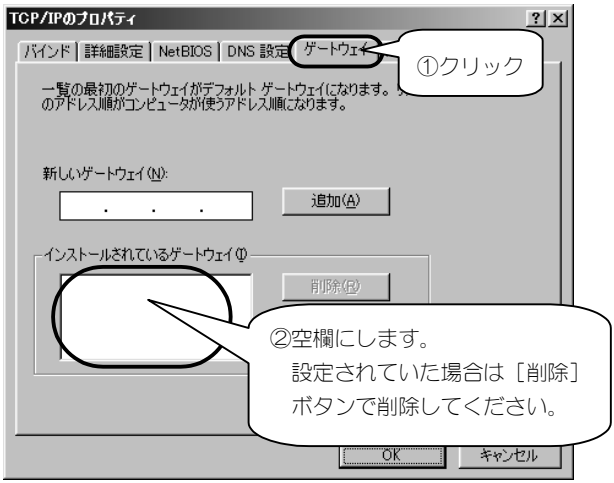
3 [IPアドレスを自動的に取得]をチェックします。



4 [DNS設定]タブをクリック後、
[DNSを使わない]をチェックします。



5 [ゲートウェイ]タブをクリック後、
すでに設定されているゲートウェイがある場合は、[削除]ボタンで設定を削除してください。



6 [OK]ボタンをクリック後、パソコンを一度再起動します。

この後、【ステップ3】(47 ページ)を参照して、パソコンに IP アドレスが正常に取得されているか確認してください。

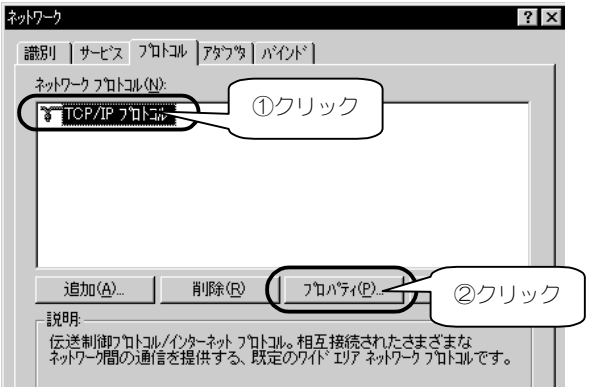
Windows NT 4.0 で IP アドレスを設定する

1 Administrator権限でWindows NT 4.0にログオンします。

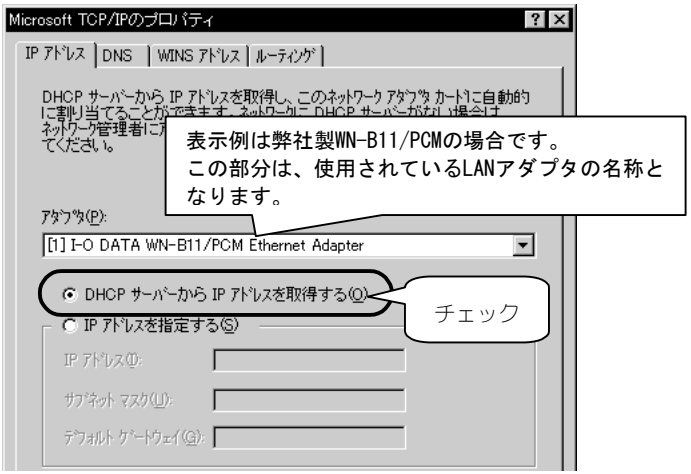
2 [ネットワークコンピュータ]を右クリックし、
メニュー内の[プロパティ]をクリックします。



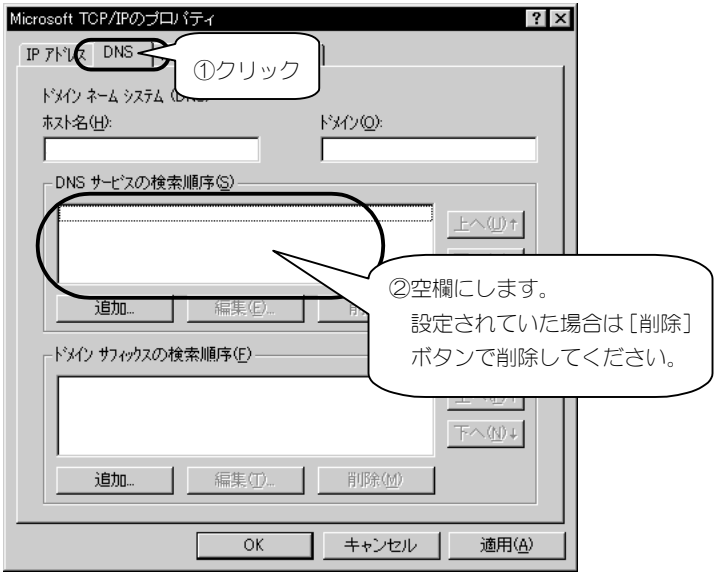
3 [TCP/IP プロトコル]をクリックし、
[プロパティ]ボタンをクリックします。



4 [IPアドレス]タブで
[DHCPサーバーからIPアドレスを取得する]をチェックします。



5 [DNS]タブをクリック後、
すでに設定されているDNSサービスがある場合は、[削除]ボタンで削除してください。



6 ［OK］ボタンをクリック後、パソコンを一度再起動します。

この後、次ページ【ステップ3】を参照して、パソコンに IP アドレスが正常に取得されているか確認してください。

ステップ 3

設定用パソコンの準備③

設定した IP アドレスを確認する

ここでは、【ステップ2】（34 ページ）で自動的に取得する設定にした IP アドレスが、正常に取得できているかを確認します。

- *Windows XP/2000/NT 4.0の場合* → 以下を参照してください。
- *Windows Me/98/95の場合* → 50ページを参照してください。

Windows XP/2000/NT 4.0 での IP アドレスの確認

1 [コマンドプロンプト]を起動します。

・*Windows XPの場合*

[スタート]→[すべてのプログラム]→[アクセサリ]→[コマンドプロンプト]をクリックします。

・*Windows 2000の場合*

[スタート]→[プログラム]→[アクセサリ]→[コマンドプロンプト]をクリックします。

・*Windows NT 4.0の場合*

[スタート]→[プログラム]→[コマンドプロンプト]をクリックします。

2 IPCONFIG –ALL
と入力し、[ENTER]キーを押します。
（Windows NT 4.0の場合は、1画面に収まらないため、
IPCONFIG –ALL | MORE と入力してください。）

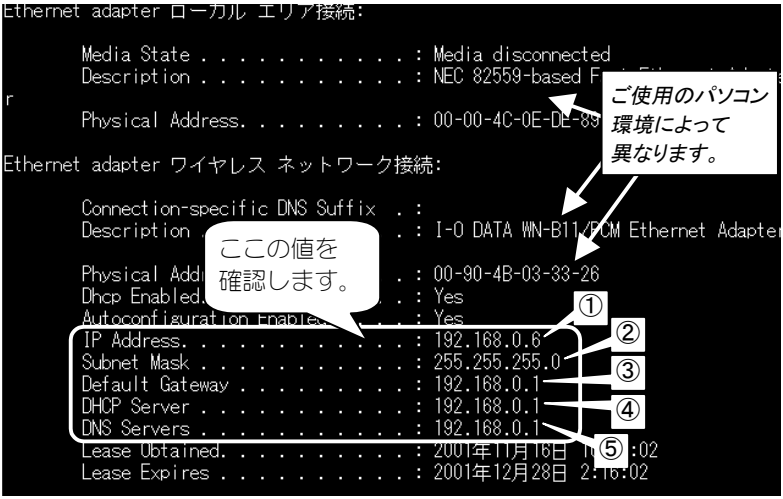


3 以下および次ページのような画面が表示されます。

以下および次ページの画面で、それぞれ次の値（アドレス）となっていることを確認します。

①	IP Address	192.168.0.xxx　（xxx は2～32）
②	Subnet Mask	255.255.255.0
③	Default Gateway	192.168.0.1
④	DHCP Server	192.168.0.1
⑤	DNS Servers	192.168.0.1

（Windows XPでの画面例）



正常に［IP Address］が取得（表示）されていない場合は…

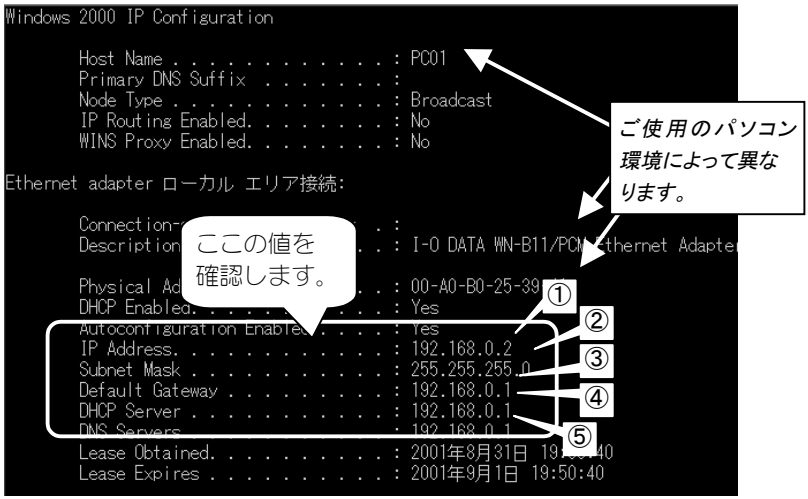
【困ったときには】の 114 ページをご参照ください。

参考

上記はそれぞれ以下の内容です。

①[IP Address]…本製品から割り当てられたパソコンの IP アドレス値
②[Subnet Mask]…本製品から割り当てられたパソコンのサブネットマスク値
③[Defalt Gateway]…本製品から割り当てられたパソコンのデフォルトゲートウェイ値（本製品の IP アドレスです。）
④[DHCP Server]…本製品から割り当てられたパソコンの DHCP サーバ値（本製品の IP アドレスです。）
⑤[DNS Server]…本製品から割り当てられたパソコンの DNS サーバ値（本製品の IP アドレスです。プロバイダへ接続後に IP アドレスを取得した場合は、プロバイダの DNS アドレスが割り当てられます。）

（Windows 2000での画面例）



正常に［IP Address］が取得（表示）されていない場合は…

【困ったときには】の114ページをご参照ください。

参考

上記はそれぞれ以下の内容です。

①[IP Address]…本製品から割り当てられたパソコンのIPアドレス値
②[Subnet Mask]…本製品から割り当てられたパソコンのサブネットマスク値
③[Defalt Gateway]…本製品から割り当てられたパソコンのデフォルトゲートウェイ値（本製品のIPアドレスです。）
④[DHCP Server]…本製品から割り当てられたパソコンのDHCPサーバ値（本製品のIPアドレスです。）
⑤[DNS Server]…本製品から割り当てられたパソコンのDNSサーバ値（本製品のIPアドレスです。プロバイダへ接続後にIPアドレスを取得した場合は、プロバイダのDNSアドレスが割り当てられます。）

4 EXIT と入力後、[Enter]キーを押して画面を閉じます。

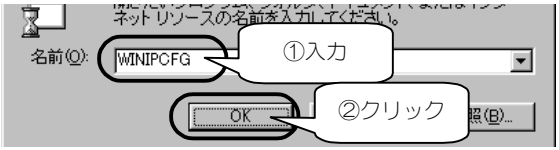


この後、【ステップ4】(52ページ)を参照して、Webブラウザを設定してください。

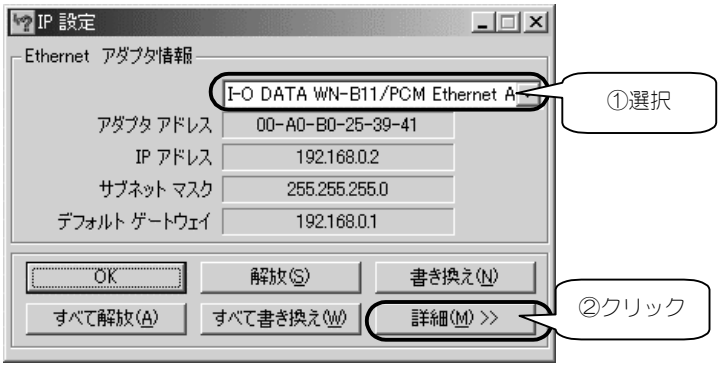
Windows Me/98/95 での IP アドレスの確認

1 [スタート]→[ファイル名を指定して実行]をクリックします。

2 [名前]に WINIPCFG と入力し、[OK]ボタンをクリックします。



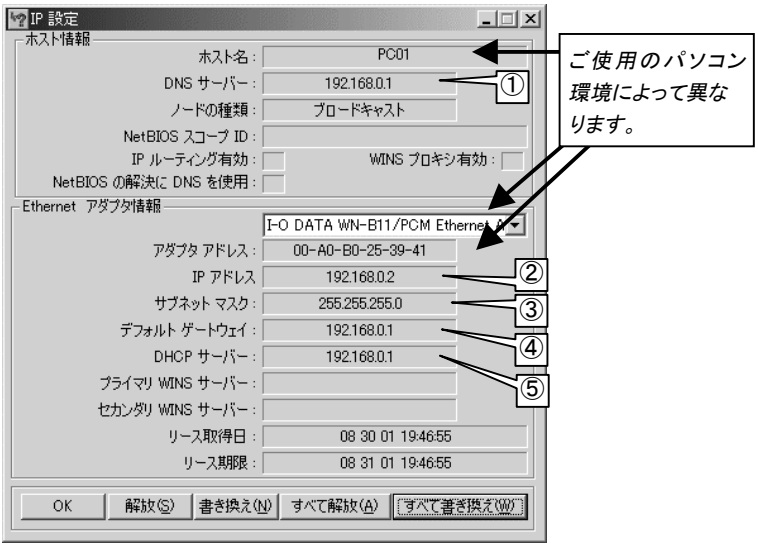
3 お使いのLANアダプタを選択し、[詳細]ボタンをクリックします。

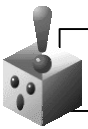


4 [IP設定]画面では、それぞれ次の値(アドレス)となっていることを確認します。

①	DNSサーバー	192.168.0.1
②	IPアドレス	192.168.0.xxx　(xxx は2～32)
③	サブネットマスク	255.255.255.0
④	デフォルトゲートウェイ	192.168.0.1
⑤	DHCPサーバー	192.168.0.1

(WINIPCFGの画面例)





正常に IP アドレスが取得（表示）されていない場合は…

【困ったときには】の 114 ページをご参照ください。



参考

上記の①～⑤の値はすべて本製品から割り当てられた値(アドレス)です。
上記①、④、⑤は本製品の IP アドレスの値です。ただし、①の値は、プロバイダへ接続後に IP アドレスを取得した場合は、プロバイダの DNS アドレスが割り当てられます。

5 [OK]ボタンをクリックし、画面を閉じます。

確認後、次ページ【ステップ4】を参照して、Web ブラウザを設定してください。

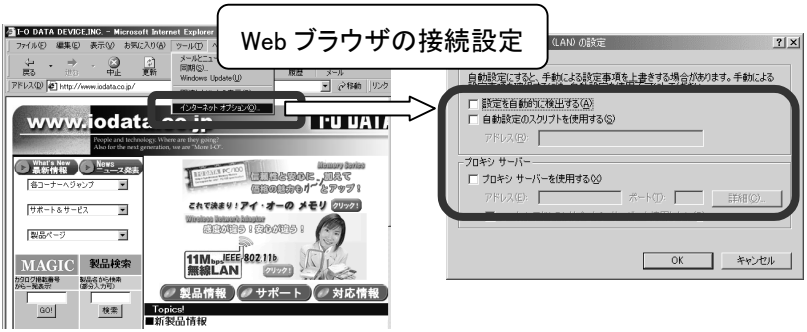
ステップ 4

設定用パソコンの準備④
Web ブラウザを設定する

本製品の設定や本製品経由でインターネットに接続するには、Web ブラウザ（Internet Explorer や Netscape など）の接続設定をしておく必要があります。

下記２点に注意し設定してください。

①LAN を使用してインターネットに接続する。
②プロキシサーバーを設定する。



注意！

Internet Explorer および Netscape の Web ブラウザをお使いになる場合は、【本製品を導入する上で必要なもの】の【設定時に必要なソフトウェア】（5ページ）の項を参照して、必要なバージョンをご確認ください。
なお、本製品に Web ブラウザは添付しておりません。
Web ブラウザがない、あるいは Web ブラウザのバージョンが古い場合は、正常に設定できませんので、必ず必要なバージョン以降をご用意ください。

Web ブラウザの設定

注意！

プロバイダによっては、プロキシについての設定を指示している場合があります。
まず、プロバイダから入手した資料をご用意ください。

Internet Explorer での手順

1 [Internet Explorer]画面を表示させます。

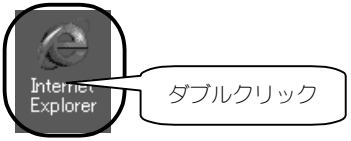
・*Windows XPの場合*

[スタート]→[すべてのプログラム]→[Internet Explorer]（または[インターネット Internet Explorer]）をクリックします。



・*Windows 2000、Windows Me/98/95、Windows NT 4.0の場合*

デスクトップ画面上の[Internet Explorer]アイコンをダブルクリックします。



注意！

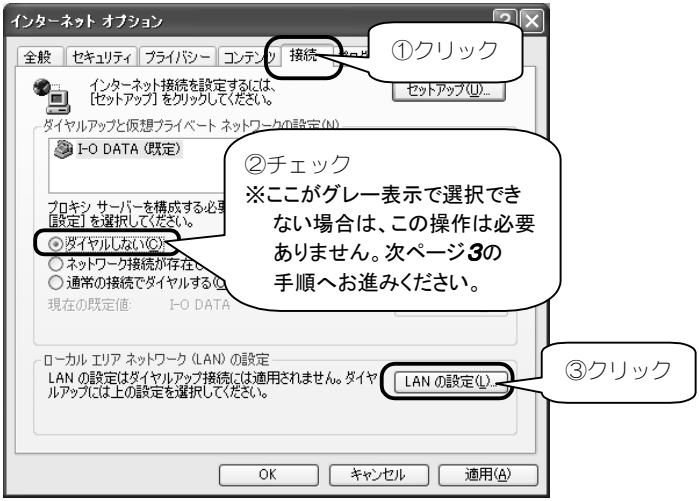
この時点でインターネットに接続されていない場合は、「ページを表示できません」など正常に画面が表示されませんが、ここでは Internet Explorer 自体の設定を行うため、この時点で正常に画面が表示されていなくても問題ありません。

2 [Internet Explorer]画面の
[ツール]メニューの[インターネット オプション]をクリックします。

※本手順以降、画面は[Internet Explorer 6.0]を例にしています。

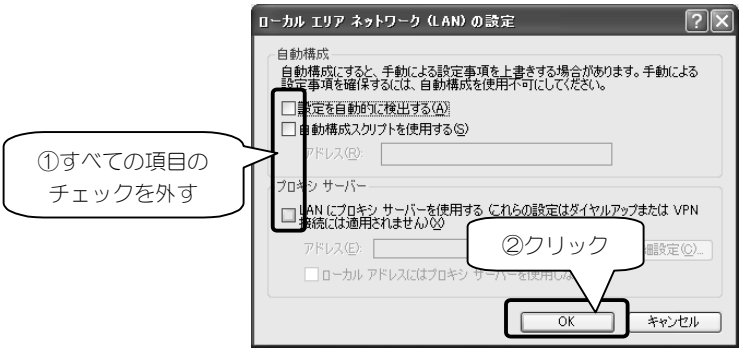


3 [接続]タブをクリックし、
[ダイヤルしない]をチェックします。続けて、[LANの設定]ボタンをクリックします。

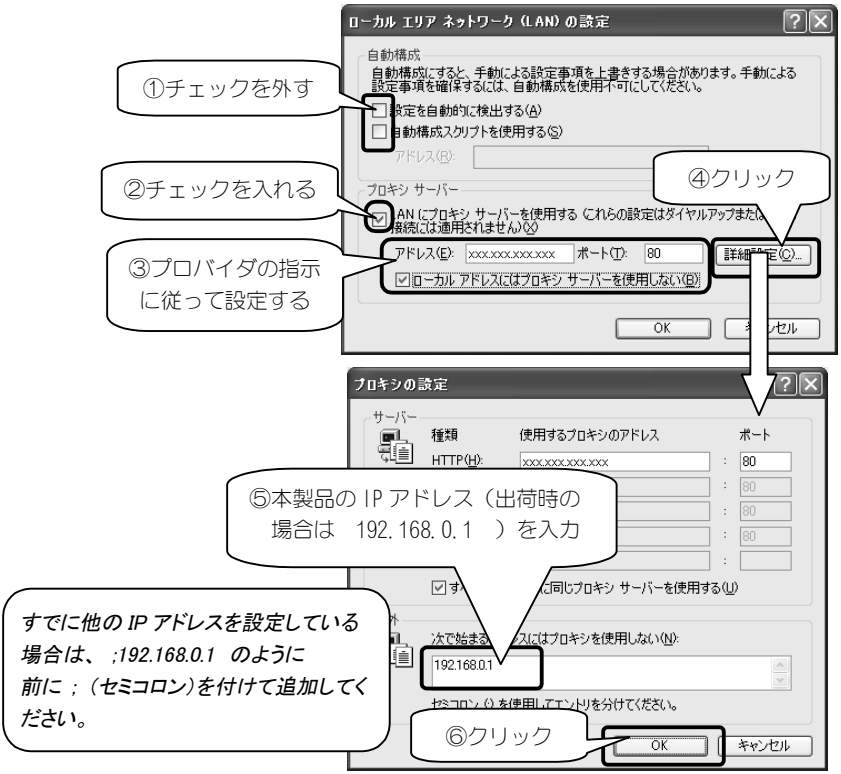


4 プロバイダからの資料を参照し、[プロキシ]に関する設定の指示がないか確認し、以下の設定を行います。

・*プロバイダから[プロキシ]に関する設定の<u>指示がない</u>場合*



・*プロバイダから[プロキシ]に関する設定の<u>指示がある</u>場合*



5 [ローカルエリアネットワーク(LAN)の設定]画面で[OK]ボタンをクリックし、画面を閉じてください。

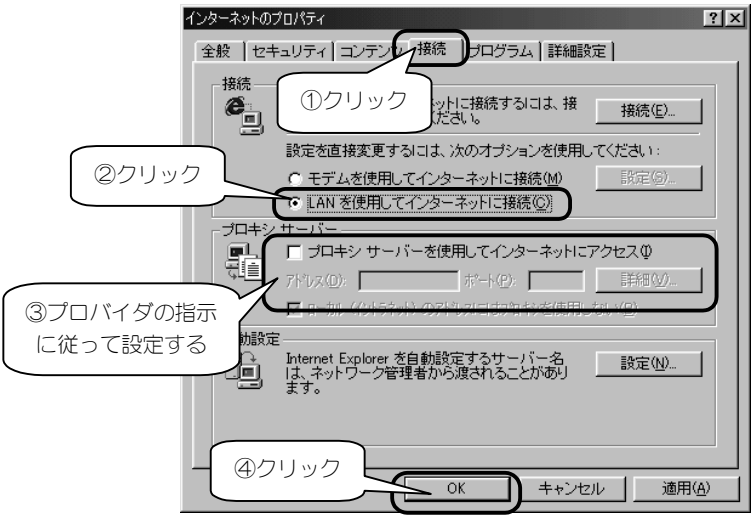
6 [インターネット オプション](または[インターネットのオプション])画面へ戻りますので、[OK]ボタンをクリックし、画面を閉じてください。

設定後、【ステップ5】(59 ページ)へお進みください。

参考

Internet Explorer のバージョンによっては、4の手順の時に以下の画面となる場合があります。
その場合は、[接続]タブで[LAN を使用してインターネットに接続]をチェックします。
その後、以下の手順を行います。

- **プロバイダからプロキシに関する設定の指示がない場合**
  [プロキシサーバーを使用してインターネットにアクセス]のチェックを外し、[OK]ボタンをクリックします。
- **プロバイダからプロキシに関する設定の指示がある場合**
  [プロキシサーバーを使用してインターネットにアクセス]をチェックし、[アドレス]と[ポート]を入力後、[詳細]ボタンをクリックします。
  [プロキシの設定]画面での設定は、前ページを参照してください。
  設定後、[OK]ボタンをクリックします。



Netscape での手順

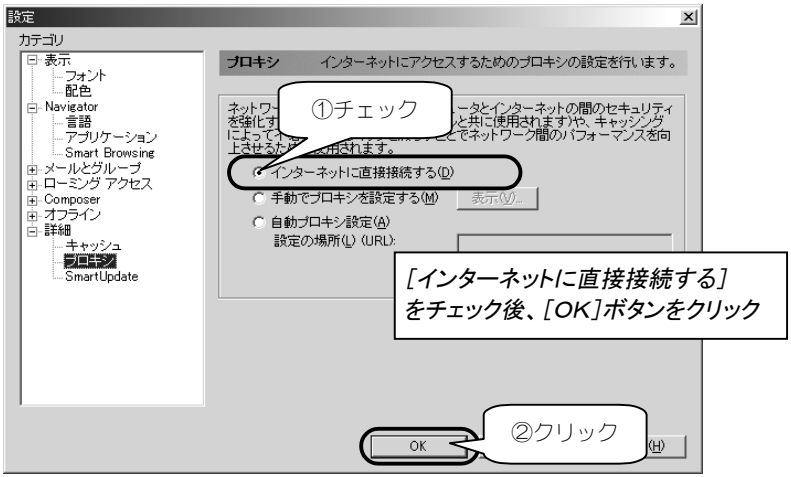
1 Netscapeを起動します。

2 [編集]→[設定]を選択します。

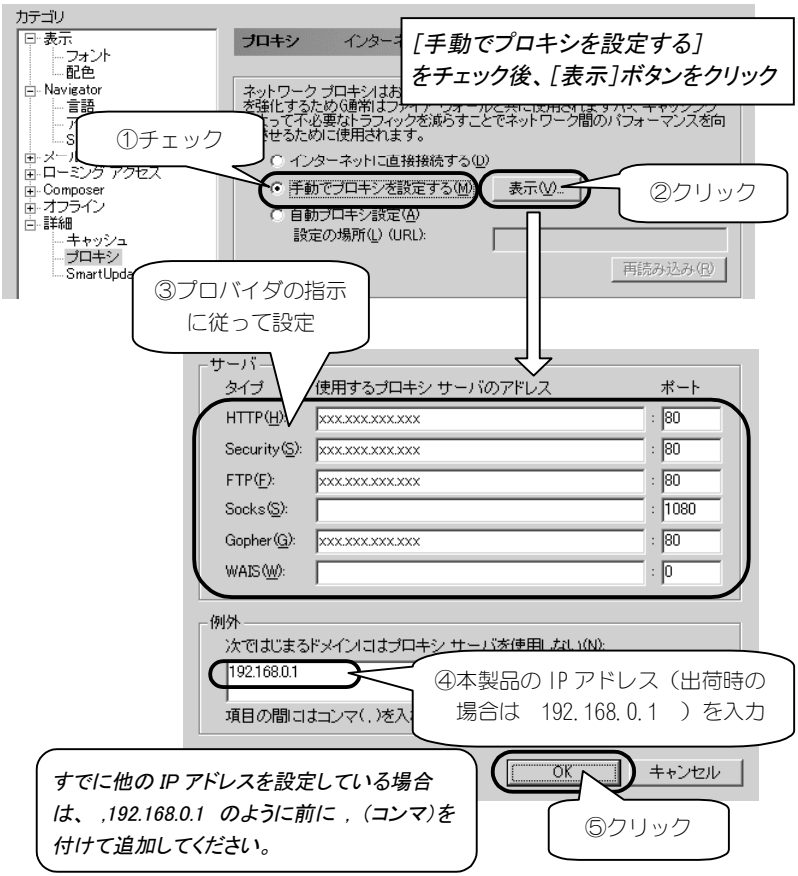
3 [カテゴリ]欄で[詳細]をダブルクリックし、
[プロキシ]をクリックします。

4 プロバイダからの資料を参照し、[プロキシ]に関する設定の
指示がないか確認し、以下の設定を行います。

・プロバイダから[プロキシ]に関する設定の指示がない場合



・プロバイダから[プロキシ]に関する設定の指示がある場合



5 ［設定］画面で[OK]ボタンをクリックし、画面を閉じてください。

設定後、次ページ【ステップ5】へお進みください。

ステップ 5

設定用パソコンの準備⑤
Web ブラウザから設定画面を起動する

本製品を使用するには、Internet Explorer や Netscape などの Web ブラウザから設定画面を起動して各種設定を行う必要があります。

1 パソコンの電源を入れます。

2 Webブラウザを起動して以下を開きます。
「http://192.168.0.1/」

（Internet Explorerでの例）



注意！

1)Internet Explorer および Netscape の Web ブラウザをお使いになる場合は、【本製品を導入する上で必要なもの】の【設定時に必要なソフトウェア】（5ページ）の項を参照して、必要なバージョンをご確認ください。
なお、本製品に Web ブラウザは添付しておりません。
Web ブラウザがない、あるいは Web ブラウザのバージョンが古い場合は、正常に設定できませんので、必要なバージョン以降をご用意ください。

2)上記 IP アドレスは、本製品内部にある設定画面を呼び出す IP アドレスです。
パソコンに LAN ケーブルで本製品が接続されていれば（インターネットに接続されていなくても）呼び出すことができます。

3 以下の画面が表示されます。
何も入力せずに[ログイン]ボタンをクリックします。

パスワード	空白（何も入力する必要はありません。） ※工場出荷時は未設定です。



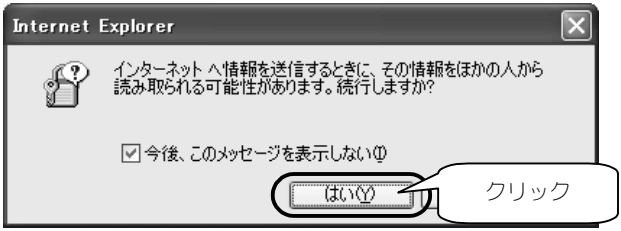
参考

パスワードは管理者以外が設定できないようにしたり、誤って設定したりすることを防ぐためのものです。パスワードは出荷時は[空白]ですが、後で変更することをおすすめします。変更方法の詳細は、100 ページを参照してください。

上記の画面が
表示されない場合は…

【困ったときには】の
113 ページを
ご参照ください。

4 以下の画面が表示された場合は、内容を確認後、
[はい]ボタンをクリックします。

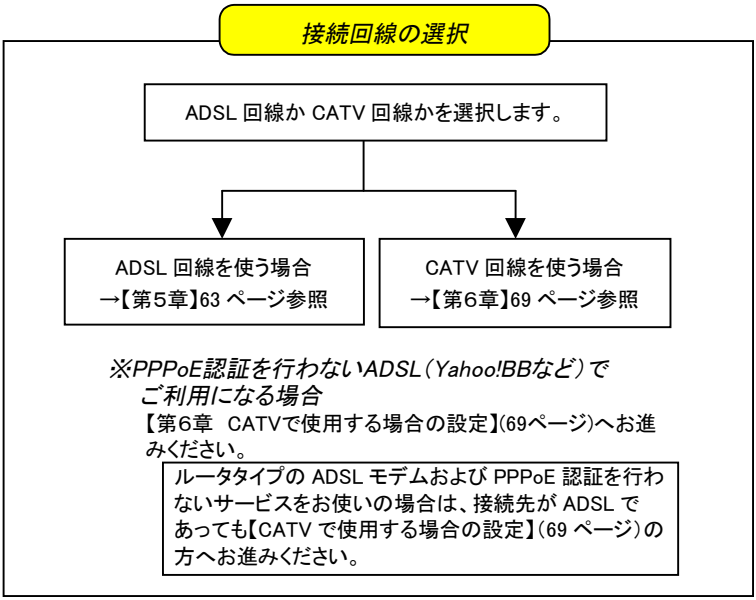


5 設定画面が表示されます。
この画面から各種設定を行います。



●次の章に進む前に…

本製品の設定画面を表示した後は各接続形態にあわせて本製品を設定します。
接続する回線により手順が異なりますので、インターネット接続を行うための接続回線を選択し、各章を参照してください。



第5章

ADSL で使用する場合の設定

～ *PPPoE 認証の ADSL 接続設定* ～

この章では、PPPoE認証を行うADSLで本製品を使用するための設定方法を説明します。
前もってプロバイダからの情報を用意した上で本製品の設定を行います。

ADSL に接続するには、本製品の設定が必要です。



参考 1

本製品を使用するには、IP アドレス、DHCP などのネットワークの知識が必要です。お分かりにならない場合は、【付録3　TCP/IP の基礎知識】(124 ページ)を参照してください。



参考 2

「PPPoE」とは
→ネットワーク（Ethernet）上で、ダイヤルアップ接続（PPP 接続）のような利用者のユーザー名、パスワードのチェックを行うために作り出された規格です。

設定時に必要なもの

設定用パソコンに接続する際には、以下をご用意ください。

・*プロバイダからの資料*
※本製品設定時に、プロバイダから入手した資料で、[ユーザーID]や[パスワード]を設定します。

ADSL で使用する場合の設定

ここでは、ADSL 接続で使用する場合の設定について説明します。

最初に、以下の個所へお進みください。

- *PPPoE認証のADSLでご利用になる場合*
  以下の手順へお進みください。

- *PPPoE認証を行わないADSLでご利用になる場合*
  【第6章　CATVで使用する場合の設定】(69ページ)へお進みください。
  ※ルータタイプのADSLモデムおよびPPPoE認証を行わないサービスをお使いの場合は、接続先がADSLであっても【CATVで使用する場合の設定】(69ページ)の方へお進みください。

注意！

ルータタイプの ADSL モデムをお使いの場合や PPPoE 認証を行わないサービスをお使いの場合は、以下の設定ではできません。【CATV で使用する場合の設定】(69 ページ)を行ってください。

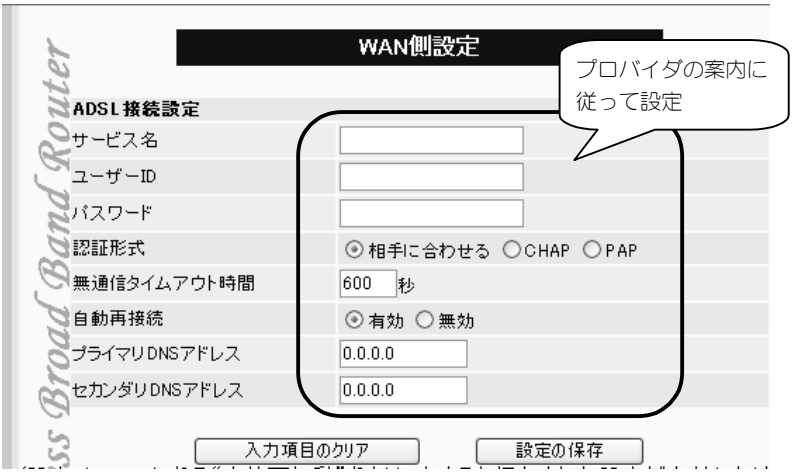
1 [設定メニュー]欄の[WAN側設定]をクリックし、[ADSL接続設定]をチェック後、[設定を保存して次へ]をクリックします。



参考

WAN 側とは、ADSL および CATV のプロバイダ側のことです。

2 プロバイダから案内されている資料をもとに、
以下の設定を行ってください。
特に設定のない個所は空欄（または初期値）のまま変更する必要はありません。



サービス名	PPPoE サービス名が指定されている場合は PPPoE サービス名を入力します。 通常は初期値の空欄のままで問題ありません。
ユーザーID	プロバイダ指定のユーザー名を入力します。*（必須）* 基本的に、プロバイダの接続マニュアルに記載のユーザー名と同じものを入力してください。 フレッツ ADSL の場合は、@から後ろもすべて入力してください。
パスワード	プロバイダ指定の接続パスワードを入力します。*（必須）*
認証方式	プロバイダ指定の認証方式を選択します。 特に指定のない場合は、[相手に合わせる]に設定します。
無通信タイムアウト時間	オンデマンド接続時に自動切断を行う時間を設定します。 ブラウザやメーラが全く通信を行っていない場合、この項目で設定した時間を超えると自動的に切断します。 ※[自動再接続]が[有効]に設定されている場合は無視されます。

自動再接続	常時接続の場合は[有効]をチェックします。 オンデマンド接続を行う場合は[無効]をチェックします。
プライマリ DNS アドレス	プロバイダ指定のプライマリ DNS アドレスを入力します。 特に指定のない場合は、設定する必要はありません。
セカンダリ DNS アドレス	プロバイダ指定のセカンダリ DNS アドレスを入力します。 特に指定のない場合は、設定する必要はありません。



参考

[接続形態]について

常時接続…接続の要求にかかわらず、常に接続された状態になります。

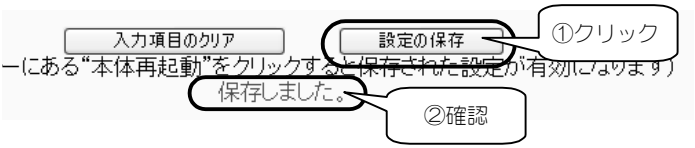
オンデマンド接続…・接続の要求に応じて接続を行います。

[認証形式]について

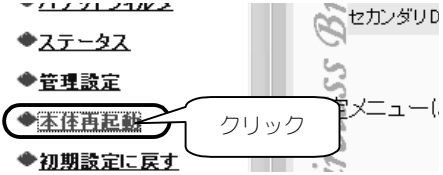
PAP…・最も簡単な認証方式ですが、通信回線をモニタされるとユーザー名とパスワード情報が盗まれる可能性があります。

CHAP…PAP と違って、ユーザー名やパスワード情報をそのまま渡さない(流さない)ため、安全性が高い。

3 設定したら、画面下の[設定の保存]ボタンをクリックします。
しばらくすると、「保存しました」と表示されます。



4 [設定メニュー]欄の[本体再起動]をクリックします。



注意！

前ページ3の手順での[設定の保存]だけでは本製品に設定が反映されません。
上記の[本体再起動]を行ってはじめて本製品に設定が反映されます。

参考

[本体再起動]では、設定した内容を本製品に反映後、本製品内部で再起動(リスタート)を行う処理です。パソコン側の再起動とは無関係です。

5 以下の画面で[OK]ボタンをクリックします。
設定画面上に「再起動しています」と表示されます。
表示が消えるまでしばらくお待ちください。



6 再起動が終了すると、以下の画面が表示されます。
[接続状態]に時間が表示されていることを確認してください。



●[接続状態]に時間が表示されている場合

ADSL接続が完了し、インターネットに接続できる状態です。

●[接続状態]が「ー」表示のままの場合

プロバイダとの接続が切れている、もしくは正常に接続できていない状態です。
設定が正しくできていない可能性があります。再度[ユーザー名]や[パスワード]を確認してください。



設定したのに、［接続状態］の
表示が「ー」のまま場合は…

【困ったときには】の
119 ページを
ご参照ください。

7 以上でADSLに接続されます。
インターネットなどをご利用ください。



注意！

本製品を DHCP サーバーとしてご利用になっている場合は、必ず本製品の電源を入れた後で、パソコンの電源を入れてください。

第6章

CATV で使用する場合の設定

～ CATV(ケーブルモデム)接続設定 ～

この章では、CATVで本製品を使用するための設定方法を説明します。
前もってプロバイダからの情報を用意した上で本製品の設定を行います。



注意！

PPPoE 認証を行わない ADSL(Yahoo!BB など)でご利用になる場合はこの章で設定してください。

※ルータタイプの ADSL モデムおよび PPPoE 認証を行わないサービスをお使いの場合は、接続先が ADSL であってもこの章で設定してください。

設定時に必要なもの

設定用パソコンに接続する際には、以下をご用意ください。

・*プロバイダからの資料*

※本製品設定時に、プロバイダから入手した資料で、[IPアドレス]や[DNSアドレス]を設定します。

CATV で使用する場合の設定

1 [設定メニュー]欄の[WAN側設定]をクリック後、
[CATV接続設定]をチェックします。



参考

WAN 側とは、ADSL および CATV のプロバイダ側のことです。

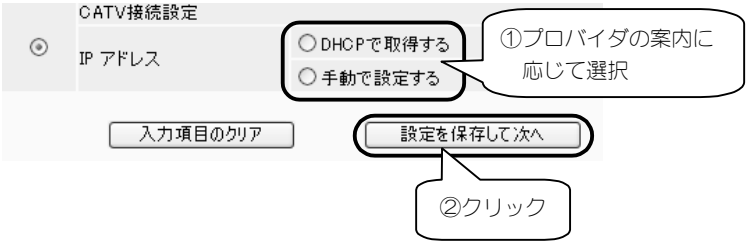
2 プロバイダの案内に応じて以下を行います。

・*プロバイダから指示されたインターネット用(WAN側)のIPアドレスが自動取得の場合*

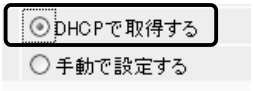
→ [DHCPで取得する]をチェック後、[設定を保存して次へ]ボタンをクリックします。

・*プロバイダから指示されたインターネット用(WAN側)のIPアドレスが固定の場合*

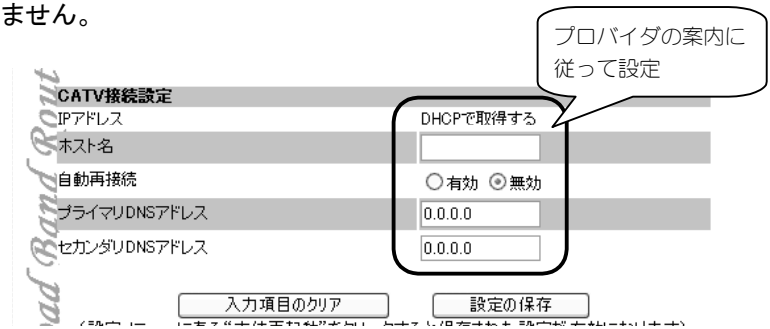
→ [手動で設定する]をチェック後、[設定を保存して次へ]ボタンをクリックします。



・IPアドレスが自動取得の場合



プロバイダから案内されている資料をもとに、以下の設定を行ってください。
特に設定のない個所は空欄（または初期値）のまま変更する必要はありません。



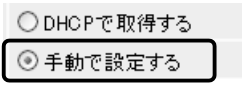
ホスト名	プロバイダ指定のホスト名を必要に応じて入力します。
自動再接続	常時接続の場合は[有効]をチェックします。 オンデマンド接続を行う場合は[無効]をチェックします。
プライマリ DNS アドレス	プロバイダ指定のプライマリ DNS アドレスを入力します。 特に指定のない場合は、設定する必要はありません。
セカンダリ DNS アドレス	プロバイダ指定のセカンダリ DNS アドレスを入力します。 特に指定のない場合は、設定する必要はありません。

参考

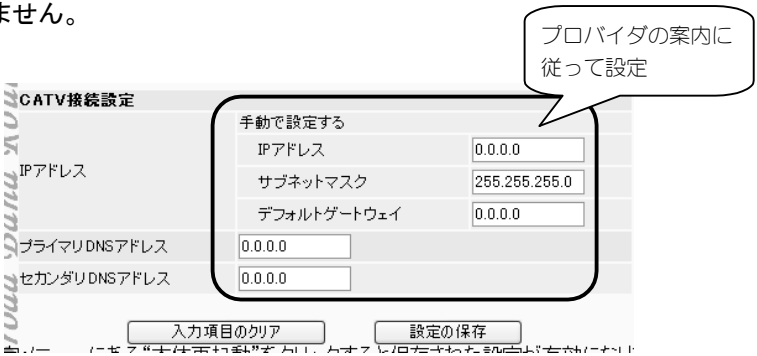
[接続形態]について

常時接続…接続の要求にかかわらず、常に接続された状態になります。
オンデマンド接続・・・・接続の要求に応じて接続を行います。

・IPアドレスが固定の場合

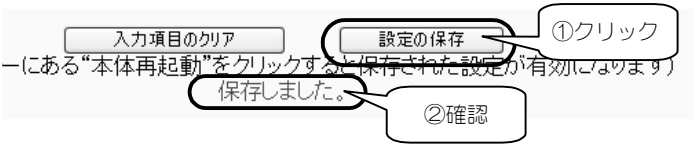


プロバイダから案内されている資料をもとに、以下の設定を行ってください。
特に設定のない個所は空欄（または初期値）のまま変更する必要はありません。

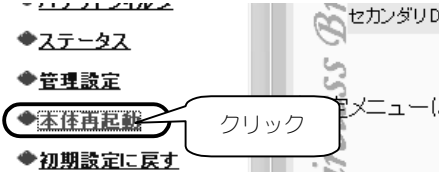


IP アドレス	プロバイダ指定のインターネット用（WAN 側）IP アドレスを入力します。*（必須）*
サブネットマスク	プロバイダ指定のサブネットマスクを入力します。
デフォルトゲートウェイ	プロバイダ指定のデフォルトゲートウェイを入力します。
プライマリ DNS アドレス	プロバイダ指定のプライマリ DNS アドレスを入力します。 特に指定のない場合は、設定する必要はありません。
セカンダリ DNS アドレス	プロバイダ指定のセカンダリ DNS アドレスを入力します。 特に指定のない場合は、設定する必要はありません。

3 設定したら、画面下の[設定の保存]ボタンをクリックします。
しばらくすると、「保存しました」と表示されます。



4 [設定メニュー]欄の[本体再起動]をクリックします。



注意！

上記3の手順での[設定の保存]だけでは本製品に設定が反映されません。
上記の[本体再起動]を行ってはじめて本製品に設定が反映されます。

参考

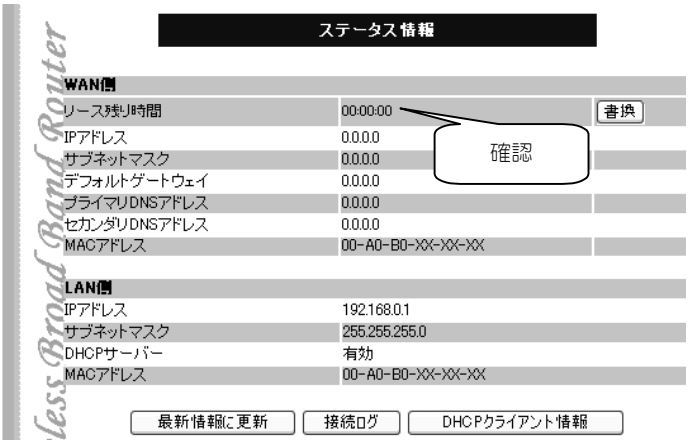
[本体再起動]では、設定した内容を本製品に反映後、本製品内部で再起動(リスタート)を行う処理です。パソコン側の再起動とは無関係です。

5 以下の画面で[OK]ボタンをクリックします。
設定画面上に「再起動しています」と表示されます。
表示が消えるまでしばらくお待ちください。



6 再起動が終了すると、以下の画面が表示されます。
[WAN側]の[リース残り時間](または[IPアドレス])がプロバイダから取得されている(「0」以外の表示となっている)ことを確認してください。

・IPアドレスが自動取得の場合の画面

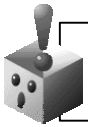


●[WAN側]の{リース残り時間}が取得されている場合

CATV接続が完了し、インターネットに接続できる状態です。

●[WAN側]の{リース残り時間}を取得できていない(「00.00.00」のままとなっている)場合

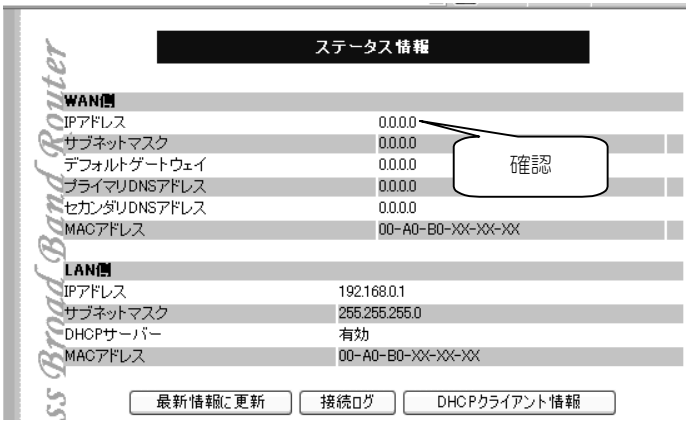
プロバイダとの接続が切れている、もしくは正常に接続できていない状態です。設定が正しくできていない可能性があります。再度[LAN側接続設定]を確認してください。



設定したのに、表示が
「0」のままの場合は…

【困ったときには】の
121 ページを
ご参照ください。

・IPアドレスが固定の場合の画面

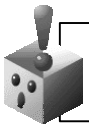


●[WAN側]の{IPアドレス}が正しく表示されている場合

CATV接続が完了し、インターネットに接続できる状態です。

●[WAN側]の{IPアドレス}が正しく表示されていない(「0.0.0.0」のままとなっている)場合

プロバイダとの接続が切れている、もしくは正常に接続できていない状態です。設定が正しくできていない可能性があります。再度[LAN側接続設定]を確認してください。



設定したのに、表示が
「0. 0. 0. 0」のままの場合は…

【困ったときには】の
121 ページを
ご参照ください。

7 以上でCATVに接続されます。
インターネットなどをご利用ください。



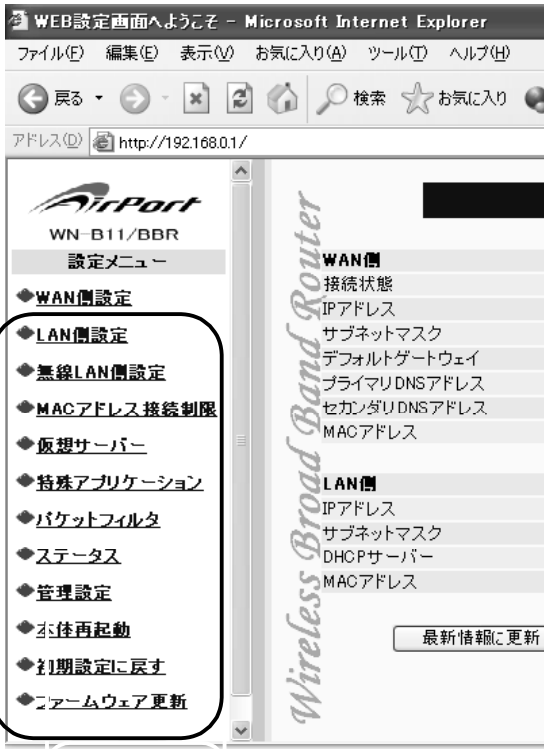
注意！

本製品を DHCP サーバーとしてご利用になっている場合は、必ず本製品の電源を入れた後で、パソコンの電源を入れてください。

第7章

その他の設定

ここでは、ADSLおよびCATV接続以外のその他の設定について説明します。



LAN 側設定
（本製品の IP アドレスや DHCP サーバー機能を設定する）

ここでは、[設定メニュー]の[LAN側設定]について説明します。





IP アドレス	本製品の IP アドレスを入力します。 初期値：192.168.0.1
DHCP サーバー	本製品の DHCP サーバー機能の有効・無効を設定します。 初期設定では、192.168.0.2～192.168.32 の 31 台までを割り当てる設定となっています。 ・[開始 IP アドレス]は、クライアントに割り当てる最初の IP アドレス ・[終了 IP アドレス]はクライアントに割り当てる最初の IP アドレス
プライマリ WINS アドレス	WINS サーバーを併用して運用されている場合は、ここにプライマリ WINS サーバーアドレスを入力します。
セカンダリ WINS アドレス	WINS サーバーを併用して運用されている場合は、ここにセカンダリ WINS サーバーアドレスを入力します。
IP アドレスを固定する MAC アドレス	[設定]をクリックすると[MAC アドレス接続制限]を行うことができます。 詳細は、[MAC アドレス接続制限]（88 ページ）の項を参照してください。

無線 LAN 側設定
（本製品の無線 LAN を設定する）

ここでは、[設定メニュー]の[無線LAN側設定]について説明します。





SSID	SS ID を設定します。 半角英数字で 32 文字まで入力できます。（大文字、小文字の区別もあります。） 複数のアクセスポイントがあり、自動的に電波の強いアクセスポイントへ接続を切り替えるローミング機能を使用する場合は、すべてのアクセスポイントの SS ID を統一します。 グループ毎にアクセスポイントを分ける場合などは、アクセスポイント毎に別々の SS ID を設定してください。設定後、本製品と通信する無線 LAN 製品は、すべてその値を設定してください。
チャンネル	通信チャンネル（使用する電波の周波数帯域を分割して、それぞれの帯域に番号を割り当てたもの）の設定を行います。 本製品以外にアクセスポイントやアクセスポイント内蔵機器がない場合は、初期値のまま変更する必要はありません。 本製品以外にアクセスポイントやアクセスポイント内蔵機器がある場合にのみ、それぞれのネットワークで別々の通信チャネルの値を設定してください。（電波の干渉を防ぐため5チャンネル間隔を空けることをおすすめします。） 初期値：6　　設定値： 1～14

WEP	送受信する無線データの暗号化の設定です。 64bit より 128bit の方がより高いセキュリティレベルを確保できますが速度は低下します。 *[無効]* （初期値） 送受信するデータの暗号化を行いません。 *[64bit 共有キー]* 送受信するデータを 64bit で暗号化します。 *[128bit 共有キー]* 送受信するデータを 128bit で暗号化します。
キー1 キー2 キー3 キー4	直接暗号キーを 10 桁の 16 進数（0～9、A～F）で入力します。 無線 LAN アダプタなど通信相手側と同じ暗号キーを入力する必要があります。 暗号化の設定方法は次ページ以降を参照してください。



注意！

・本製品を無線 LAN で設定する場合は、無線 LAN 設定を変更後、以前の無線 LAN 設定と異なるため、通信できなくなります。
その場合、無線 LAN 設定用パソコン側で再度無線 LAN の設定を、変更した内容に合わせれば再度無線 LAN で接続できます。ただし、変更した内容を忘れた場合など、無線 LAN で本製品に接続できなくなった場合は、有線 LAN から接続しなおすか、本製品を出荷時状態に戻す必要がありますので、変更した内容はわすれないようご注意ください。
・初期設定では無線 LAN 製品（弊社製「WN-B11/PCM」や「WN-B11/USB」等）側の[SS ID]の設定を[ANY]とした場合、本製品で設定した SS ID の値にかかわらず、無線でアクセスできるようになります。不正アクセスを防ぐためにも、通信の暗号化や通信できる。パソコンを制限することをおすすめします。
・本製品にアクセスする無線 LAN 製品は、すべて同じ SS ID にする必要があります。
・SS ID は半角英数字で 32 文字まで入力できます。（大文字、小文字の区別もあります。）
・SS ID は、ご購入時[default]に設定されていますが、セキュリティのため、変更することをおすすめします。
・SS ID およびチャンネルの値が他の無線 LAN と重なると、他の無線 LAN に通信の内容が流れる、あるいは他の無線 LAN の通信が来てしまいます。
そのために起こったトラブルに対しては弊社は一切責任を負いかねますので、あらかじめご了承ください。

暗号化の設定

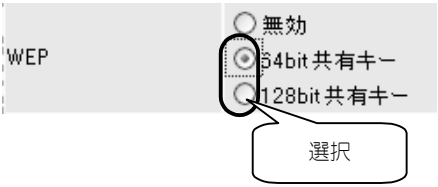
ここでは暗号化の設定例について説明します。

注意！

本製品を無線 LAN で設定している場合は、暗号化キーを変更後、以前の無線 LAN 設定と異なるため、通信できなくなります。
その場合、無線 LAN 設定用パソコン側で再度暗号化キー設定を、変更した内容に合わせれば再度無線 LAN で接続できます。ただし、変更した内容を忘れた場合など、無線 LAN で本製品に接続できなくなった場合は、有線 LAN から接続しなおすか、本製品を出荷時状態に戻す必要がありますので、設定する暗号化キーはメモにとることをおすすめします。

1 [WEP]欄から暗号化キーの種類([64bit共有キー][128bit共有キー])をチェックします。

すでに無線LANの暗号化キーをお使いで、そのキーに合わせる場合は、そのキーの種類をチェックしてください。
はじめて暗号化キーを設定する場合などは、以下の【参考】を参照してチェックしてください。



参考

[64bit 共有化キー]より[128bit 共有化キー]の方がより高いセキュリティレベルを確保できますが速度は低下します。
また、ご使用の無線 LAN 製品によっては、[128bit 共有キー]に対応していない製品(弊社製 WN-B11/USB など)があります。

2 [キー1]欄に暗号化キーを入力します。

・*[64bit共有キー]の場合*

10桁の16進数のキーを入力します。

・*[128bit共有キー]の場合*

26桁の16進数のキーを入力します。

すでに無線LANの暗号化キーをお使いで、そのキーに合わせる場合は、そのキーを入力してください。
はじめて暗号化キーを設定する場合などは、キーを入力後、キーの種類とキー自体をメモにとってください。その内容を他の無線LANアダプタ側に設定するためです。



[64bit 共有キー]の場合:
10 桁の 16 進数　例)0123456789
[128bit 共有キー]の場合:
26 桁の 16 進数　例)01234567890123456789123

3 設定後、画面下の[設定の保存]ボタンで設定を保存します。

4 [設定メニュー]の[本体再起動]で設定が有効になります。

注意！

書き取った 16 進数の暗号化キーは、無線 LAN アダプタで暗号化を行う際に使用します。
本製品ではパスフレーズによる暗号化はできませんので、必ず無線 LAN アダプタ側では、[16 進]による暗号化キーを使用してください。

参考： 暗号化キー入力方式の異なる他社製品との暗号化について

本製品を含む WN-B11 シリーズでは暗号化キーとして 16 進コードでの暗号化キー入力方式を採用していますが、他社製品には、[64bit 共有キー]の場合は5文字、[128bit 共有キー]の場合は 13 文字の英数字・記号で暗号化キーを指定する方式や、文字列から 16 進コードへ変換する際、本製品と変換方式の異なる製品があります。

これらの製品と暗号化を行う場合は、最初に英数字・記号の[64bit 共有キー]の場合は5文字、[128bit 共有キー]の場合は 13 文字で暗号化キーに使用する文字列を決め、16 進コードを入力できない他社製品はこの5文字の文字列を入力します。

WN-B11 シリーズや 16 進コードを入力可能な他社製品にはこの5文字の文字列を下記対応表に基づき、16 進コードに変換したうえで入力することで通信可能となります。

各文字と 16 進コードの対応については下記の表を参照してください。

〈例〉 [64bit 共有キー] での文字で "PLANT" と設定している場合、
16 進コードでは [50 4c 41 4e 54] となります。

文字	16進	文字	16進	文字	16進	文字	16進	文字	16進	文字	16進	文字	16進
!	21	/	2f	=	3d	K	4b	Y	59	g	67	u	75
"	22	0	30	>	3e	L	4c	Z	5a	h	68	v	76
#	23	1	31	?	3f	M	4d	[	5b	I	69	w	77
$	24	2	32	@	40	N	4e	¥	5c	j	6a	x	78
%	25	3	33	A	41	O	4f	]	5d	k	6b	y	79
&	26	4	34	B	42	P	50	^	5e	l	6c	z	7a
'	27	5	35	C	43	Q	51	_	5f	m	6d	{	7b
(	28	6	36	D	44	R	52	`	60	n	6e	|	7c
)	29	7	37	E	45	S	53	a	61	o	6f	}	7d
*	2a	8	38	F	46	T	54	b	62	p	70	~	7e
+	2b	9	39	G	47	U	55	c	63	q	71		
,	2c	:	3a	H	48	V	56	d	64	r	72		
-	2d	;	3b	I	49	W	57	e	65	s	73		
.	2e	<	3c	J	4a	X	58	f	66	t	74		

参考: 無線 LAN アダプタ側での暗号化設定

無線 LAN アダプタ側での暗号化の設定の詳細は、無線 LAN アダプタの取扱説明書をご覧ください。

ここでは、参考として、弊社製無線 LAN アダプタ「WN-B11/PCM」、「WN-B11/PCI」および「WN-B11/USB」での設定例について説明します。

（詳細については、各製品の取扱説明書を参照してください。）

・WN-B11/PCM および WN-B11/PCI

（Windows 2000、Windows Me/98/95、Windows NT 4.0 の場合）

①「WN-B11/PCM 設定ユーティリティ」の［暗号化］タブをクリックします。

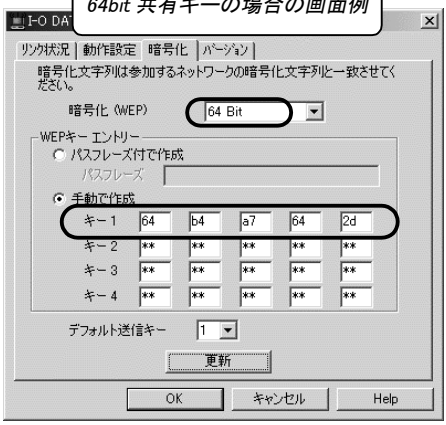
②［暗号化(WEP)］は本製品に設定した暗号化の種類（［64bit 共有キー］［128bit 共有キー］）の設定に合わせて［64 Bit］［128 Bit］を選択します。

③［手動で作成］を選択します。

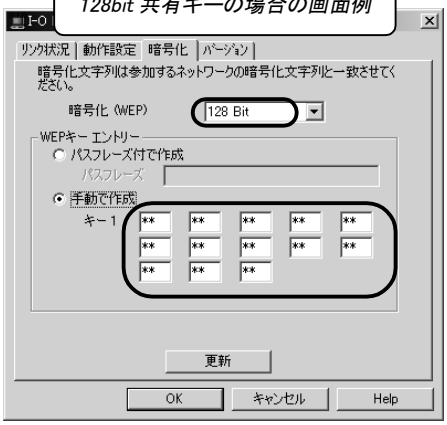
④メモに書き取った暗号化キーを［キー1］へ入力します。

⑤［更新］ボタンをクリックします。

64bit 共有キーの場合の画面例



128bit 共有キーの場合の画面例



※［更新］ボタンのクリック後、キー2～4 には［0］が自動的に入力されます。

・WN-B11/USB の場合

（Windows 2000、Windows Me/98/95、Windows NT 4.0 の場合）

①「WN-B11/USB 設定ユーティリティ」の［暗号化］タブをクリックします。

②［WEP］は［キー#1］を選択します。

③［モード］は［オプション］を選択します。

④［認証形式］は［共有鍵］を選択します。

⑤メモに書き取った暗号化キーを［キー#1］へ入力します。

⑥［更新］ボタンをクリックします。



注意！

WN-B11/USB は［64bit 暗号化キー］のみ対応です。
［128bit 暗号化キー］には対応しておりません。

・*WN-B11/PCM、WN-B11/USB および WN-B11/PCI*
（Windows XP の場合）

[ワイヤレスネットワークのプロパティ]画面で以下を設定します。
（次ページ画面参照）
※別冊[WindowsXP でご使用の場合]の[暗号化の設定]の項も参照してください。

①[データの暗号化（WEP 有効）]と[ネットワーク認証（共有モード）]の両方にチェックを入れます。
②[キーは自動的に提供される]のチェックを外します。
③[キーの形式]は[16 進数]を選択します。
④[キーの長さ]は以下を選択します。
・本製品の暗号化キーを[64bit 共有キー]で使用 → [40 ビット（10 桁）]
・本製品の暗号化キーを[128bit 共有キー]で使用 → [104 ビット（26 桁）]
⑤[キーのインデックス（詳細）]は以下を選択します。
・本製品の暗号化キーの[キー1]で使用する場合 → [0]
・本製品の暗号化キーの[キー2]で使用する場合 → [1]
・本製品の暗号化キーの[キー3]で使用する場合 → [2]
・本製品の暗号化キーの[キー4]で使用する場合 → [3]
⑥[ネットワークキー]欄に④で選択した桁数に応じた暗号キーを入力します。
・④で[40 ビット（10 桁）]を選択した場合 → 10 桁の 16 進数を入力します。
・④で[104 ビット（26 桁）]を選択した場合 → 26 桁の 16 進数を入力します。
⑦[OK]ボタンをクリックすれば設定されます。


ワイヤレス ネットワークのプロパティ
ネットワーク名 (SSID)(N):
default
ワイヤレス ネットワーク キー (WEP)
このネットワークでは次のためのキーが必要:
データの暗号化 (WEP 有効)(D)
ネットワーク認証 (共有モード)(A)
ネットワーク キー(K):
キーの形式(F):
16 進数
キーの長さ(L):
40 ビット (10 桁)
キーのインデックス (詳細)(X):
0
キーは自動的に提供される(H)
これはコンピュータ相互 (ad hoc) のネットワークで、ワイヤレス アクセス ポイントを使用しない(C)
OK
①この2つとも チェック
②このチェック を外します。
③ [16 進数] を選択
④選択
⑤選択
⑥入力
⑦クリック

MAC アドレス接続制限
（接続できるパソコンを限定する）

ここでは、[設定メニュー]の[MACアドレス接続制限]について説明します。

◆MACアドレス接続制限

この機能は、有線および無線LANアダプタのMACアドレス毎に、本製品への接続の許可・禁止をすることによって、特定のパソコンのみしか、本製品やインターネットに接続できなくすることができます。



LAN 接続制限	チェックした場合、有線および無線 LAN で接続しているパソコン（LAN アダプタ）の接続制限を行います。
無線 LAN 接続制限	チェックした場合、無線 LAN で接続しているパソコン（無線 LAN アダプタ）の接続制限を行います。

接続	有線 LAN および無線 LAN で接続しているパソコンの接続を許可する場合にチェックします。 接続を禁止する場合はチェックを外します。
無線	無線 LAN で接続しているパソコンの接続を許可する場合にチェックします。 接続を禁止する場合はチェックを外します。
MAC アドレス	接続を制限するパソコン（LAN アダプタ）の MAC アドレスを入力します。
IP アドレス	接続を制限するパソコンの IP アドレスを入力します。 IP アドレスを指定しない場合は空欄にしてください。

仮想サーバー
（Web サーバーなどをインターネット上で公開する）

ここでは、[設定メニュー]の[仮想サーバー]について説明します。

◆仮想サーバー

[仮想サーバー]設定では、Web サーバー・FTPサーバー・e-mail サーバーなどを自設する場合に、該当のサービスポートとプライベートIPアドレスを設定して、使用することができます。

[サーバーIPアドレス]は固定で使用してください。（DHCPで割り当てる範囲外のIPアドレスとしてください。）



有効	チェックを入れると設定した内容が有効になります。
ID	設定の見出し番号です。
サービスポート番号	Web や FTP など、どのサービスに対してポートを開けるかをポート番号で指定します。
サーバーIP アドレス	Web サーバや FTP サーバなど、公開するサーバの IP アドレスを指定します。

特殊アプリケーション
（特殊なアプリケーションのポート設定をする）

ここでは、[設定メニュー]の[特殊アプリケーション]について説明します。

◆特殊アプリケーション

特殊アプリケーション設定は、複数のポートを有効にすることを設定できます。特定のアプリケーションで、NATなどのファイヤウォール下で通信機能が動作できない場合に利用します。詳細設定内容については、各アプリケーションの取扱説明書を参照してください。



有効	チェックを入れると設定した内容が有効になります。
番号	設定の見出し番号です。
トリガ	ここで指定したポートへアプリケーションからの要求があるとアプリケーションに必要な全てのポートが開かれます。
インカミング ポート番号	アプリケーションが使用するポートの番号を入力します 複数および範囲指定ができます。(連続していない複数のポートは ，(カンマ)で区切り、範囲を指定する場合は － を使います。) 例） 25,80,120-150

注意！

特殊アプリケーションを有効にすると、同時に2台以上のインターネット接続ができなくなります。

パケットフィルタ
（使用できるアプリケーションを限定する）

ここでは、[設定メニュー]の[パケットフィルタ]について説明します。

◆パケットフィルタ

LAN に外部からの接続を許す際には、セキュリティに充分配慮する必要があります。***パケットフィルタ機能*** を使った簡易ファイヤウォールにて、以下のことができます。

・LANから外部に出て行くパケットを制限する（次ページ参照）
・外部からLANに入るパケットを制限する（94ページ参照）

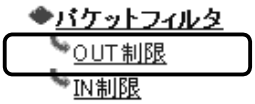
本製品でこの機能が有効になっていると、IP パケットを単にルーティングするだけでなく、パケットのヘッダ情報を調べて、送信元や送信先の IP アドレス、プロトコルの種類（TCP/UDP ）、ポート番号などに基づいて、パケットを通過させたり破棄したりすることができます。
このようなパケットフィルタ機能は、コンピュータやアプリケーション側の設定を変更する必要がないために、ユーザがパケットフィルタの存在を意識することなく、簡単に利用できます。

・パケットフィルタ設定時のポイント・注意

・一般的には、すべてのパケットの通過を禁止しておき、ユーザに提供したいサービス（アプリケーション）のパケットだけが通過できるように、フィルタリングを設定します。
・本製品は IP パケットのみをフィルタリング制御の対象とします。
その他のレイヤー3 プロトコルは、すべて遮断します。
・工場出荷の状態では、フィルタは設定されていません。ユーザは OUT/IN それぞれ8個までのフィルタを設定することができます。

LAN から外部に出て行くパケットを制限する

ここでは、[設定メニュー]の[パケットフィルタ]の下の[OUT制限]でLANから外部に出て行くパケットを制限することができます。



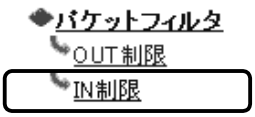


パケットフィルタ OUT 制限	パケット OUT 方向（LAN→WAN[インターネット]方向）のフィルタ制限を行うか否かを選択します。
パケットの通過	フィルタの条件に合致したとき、そのパケットを通過させるか破棄するかを選択します。 ・*通過させる* すべてのパケットを通過させます。ただし、設定を有効にしたパケットは拒否します。 ・*破棄する* すべてのパケットを破棄します。ただし、設定を有効にしたパケットは通過させます。

有効	チェックを入れると設定した内容が有効になります。
ID	設定の見出し番号です。
送信元 IP アドレス	フィルタリングの条件として、パケットの送信元のIPアドレスを設定します。入力方法は以下のとおりです。 *単一のアドレスを指定する場合:* 送信元 IP アドレス *アドレスの範囲を指定する場合:* 送信元アドレス始点－送信元アドレス終点(ハイフンで結ぶ) すべての送信元を対象とする場合は、空欄にします。
ポート番号	フィルタリング対象とする送信元のポートを選択します。 ポート番号を直接指定してください。範囲での指定も可能です。 また、ポート番号の前に“T”を入力すると TCP のみ、“U”を入力すると UDP のみが対象となります。
受信先 IP アドレス	フィルタリングの条件として、パケットの受信先(あて先)IPアドレスを設定します。入力方法は以下のとおりです。 *単一のアドレスを指定する場合:* 送信元IPアドレス *アドレスの範囲を指定する場合:* 送信元アドレス始点－送信元アドレス終点(ハイフンで結ぶ) すべての送信元を対象とする場合は空欄にします。
ポート番号	フィルタリング対象とする受信元のポートを選択します。 ポート番号を直接指定してください。範囲での指定も可能です。 また、ポート番号の前に“T”を入力するとTCPのみ、“U”を入力するとUDPのみが対象となります。

外部から LAN に入るパケットを制限する

ここでは、[設定メニュー]の[パケットフィルタ]の下の[IN制限]で外部からLANに入るパケットを制限することができます。





パケットフィルタIN制限	パケット IN 方向(WAN[インターネット]→LAN 方向)のフィルタ制限を行うか否かを選択します。
パケットの通過	フィルタの条件に合致したとき、そのパケットを通過させるか破棄するかを選択します。 ・*通過させる* すべてのパケットを通過させます。ただし、設定を有効にしたパケットは拒否します。 ・*破棄する* すべてのパケットを破棄します。ただし、設定を有効にしたパケットは通過させます。

有効	チェックを入れると設定した内容が有効になります。
ID	設定の見出し番号です。
送信元 IP アドレス	フィルタリングの条件として、パケットの送信元のIPアドレスを設定します。入力方法は以下のとおりです。 *単一のアドレスを指定する場合:* 送信元 IP アドレス *アドレスの範囲を指定する場合:* 送信元アドレス始点－送信元アドレス終点(ハイフンで結ぶ) すべての送信元を対象とする場合は、空欄にします。
ポート番号	フィルタリング対象とする送信元のポートを選択します。 ポート番号を直接指定してください。範囲での指定も可能です。 また、ポート番号の前に“T”を入力すると TCP のみ、“U”を入力すると UDP のみが対象となります。
受信先 IP アドレス	フィルタリングの条件として、パケットの受信先(あて先)IPアドレスを設定します。入力方法は以下のとおりです。 *単一のアドレスを指定する場合:* 送信元IPアドレス *アドレスの範囲を指定する場合:* 送信元アドレス始点－送信元アドレス終点(ハイフンで結ぶ) すべての送信元を対象とする場合は空欄にします。
ポート番号	フィルタリング対象とする受信元のポートを選択します。 ポート番号を直接指定してください。範囲での指定も可能です。 また、ポート番号の前に“T”を入力するとTCPのみ、“U”を入力するとUDPのみが対象となります。

ステータス
（現在の接続・設定状態を確認する）

ここでは、[設定メニュー]の[ステータス]について説明します。

◆ステータス

[ステータス]では、接続/切断状況や本製品の設定内容を表示することができます。



・WAN側

接続状態	現在の接続状態が表示されます。
リース残り時間 *（CATV 接続設定で[IP アドレスを DHCP で取得する]時のみ）*	DHCP サーバーから取得した IP アドレスのリース残り時間を表示します。
[接続]ボタン [切断]ボタン	ADSL(PPPoE)の場合は、[接続][切断]のボタンをクリックすることにより、手動で接続/切断作業が行えます。（オンデマンド接続）
[書換]ボタン *（CATV 接続設定で[IP アドレスを DHCP で取得する]時のみ）*	CATV（DHCP で取得）の場合は、[書換]ボタンをクリックすることにより、手動で DHCP サーバーより IP アドレスの書き換えを行います。（オンデマンド接続）

IP アドレス	現在、WAN 側にてプロバイダから取得または手動設定されている IP アドレスを表示します。
サブネットマスク	現在、WAN 側にてプロバイダから取得または手動設定されているサブネットマスクを表示します。
デフォルトゲートウェイ	現在、WAN 側にてプロバイダから取得または手動設定されているデフォルトゲートウェイを表示します。
プライマリDNSアドレス	現在、WAN 側にてプロバイダから取得または手動設定されているプライマリ DNS アドレスを表示します。
セカンダリDNSアドレス	現在、WAN 側にてプロバイダから取得または手動設定されているセカンダリ DNS アドレスを表示します。
MACアドレス	本製品の WAN 側の MAC アドレスを表示します。

・*LAN側*

IP アドレス	本製品に割り当てられている IP アドレスを表示します。
サブネットマスク	本製品に割り当てられているサブネットマスクを表示します。
DHCP サーバー	本製品の DHCP サーバー機能の有効・無効を表示します。
MAC アドレス	本製品の LAN 側の MAC アドレスを表示します。

[最新情報に更新]ボタン	表示を最新に更新します。
[接続ログ]ボタン	[接続ログ]画面では本製品のシステム上で発生したイベントや情報を表示することができます。(次ページ参照)
[DHCP クライアント情報]ボタン	DHCP クライアント情報を表示します。(99 ページ参照)

・接続ログ

本製品の接続に関しての簡易ログが表示されます。



・DHCPクライアント情報

DHCPサーバーが割り当てを行っているクライアントリストが表示されます。

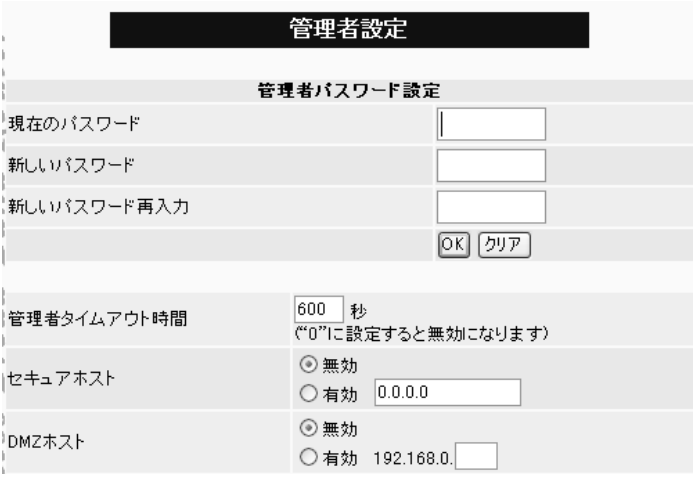


管理設定
（パスワード、セキュアホスト、DMZ ホストを設定する）

ここでは、[設定メニュー]の[管理設定]
について説明します。

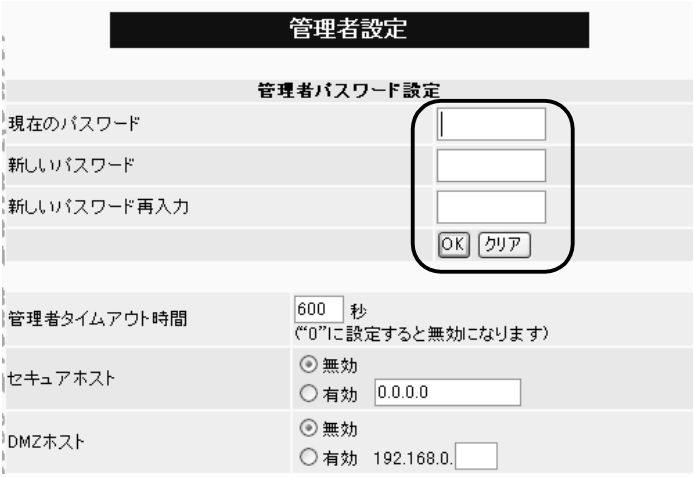
◆管理設定

管理設定では、管理者パスワードの変更や管理者タイムアウト時間、セキュアホスト、DMZホストを設定することができます。



パスワードを設定する

本製品の設定は、装置が接続されているネットワークのセキュリティにも影響を与えます。したがって、設定内容が無断で変更されたりしないよう、セキュリティに責任を持つネットワーク管理者だけが変更できるようにする必要があります。
本製品の場合、設定画面起動時に入力するパスワードによって部外者からの設定変更を防ぐことができます。
工場出荷時のパスワードは設定されていませんので、パスワードを設定することをおすすめします。



注意！

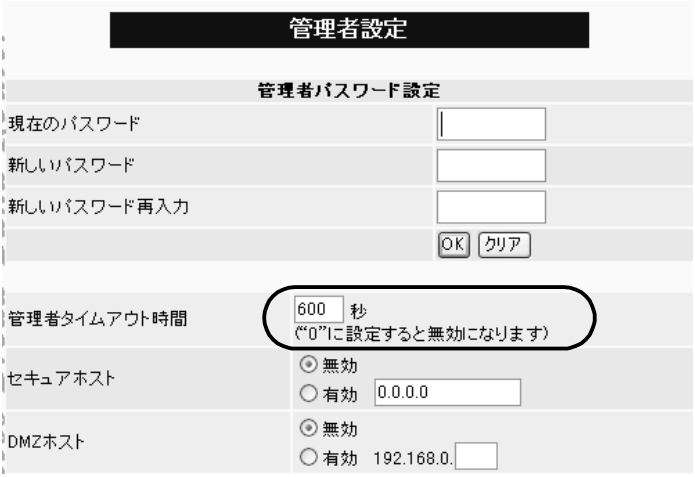
パスワードは、設定なしに変更することはできません。

参考

パスワードは必ずメモなどして忘れないようにしてください。
お忘れになった場合は、【[RESET]ボタンによる初期設定への戻し方】(108 ページ)を参照して購入時の「パスワード設定なし」の状態に戻すことができますが、すべての設定した内容が購入時の状態に戻りますので、最初からすべて設定しなおす必要があります。

管理者のタイムアウト時間を設定する

設定された時間、設定画面にアクセスを行わないと自動的にログアウトします。
再度設定を行いたい場合は、ログインしなおしてください。

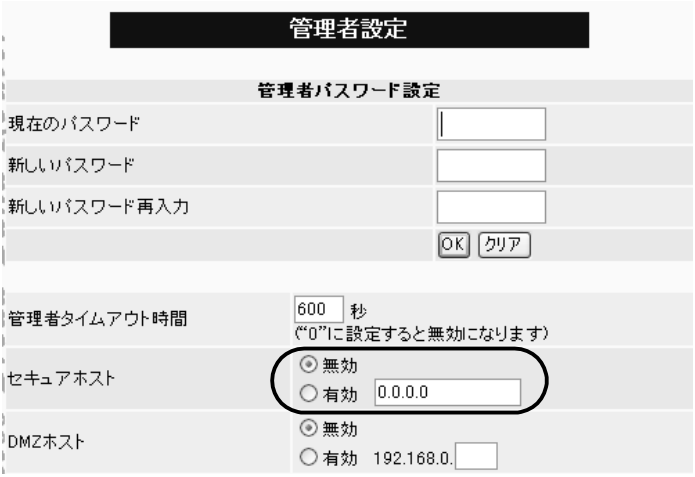


参考

"0"に設定するとタイムアウトは無効になります。

セキュアホストを設定する

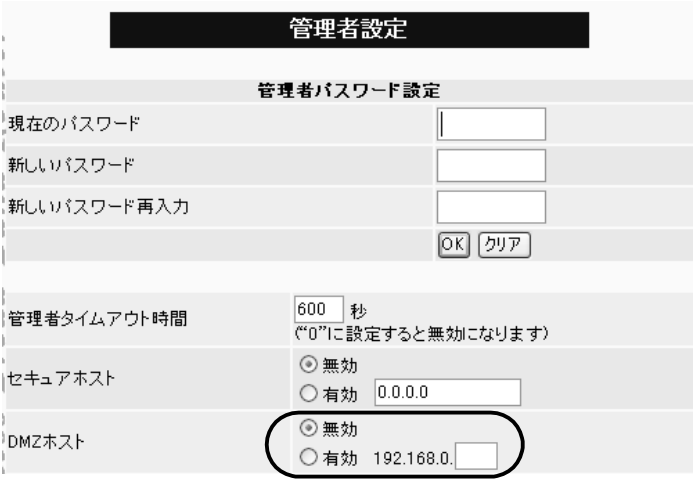
セキュアホストとは、NATを使用している場合でもインターネット側から本製品にアクセスして、リモートで本製品の設定を変更できるようにする機能のことです。



セキュアホスト	セキュアホストを有効にした場合、セキュアホスト機能を利用する IP アドレスを指定します。 始点 IP アドレスに「0.0.0.0」を設定すると、インターネット上の全てのホストから本製品にアクセスできます。 （*危険な設定です。！*） このとき Web アクセスポートは“81”に変更になります。 “10.1.2.0/24”のようにサブネットマスクビットを指定すると特定の IP アドレスグループを指定することができます。

DMZ ホストを設定する

[DMZホスト]設定では、インターネットゲーム（対話型）やテレビ会議などの双方向で使用する場合に、 使用パソコンのプライベートIPアドレスを指定します。
セキュリティ上、必要な時以外は、使用しないでください。
IPアドレスは固定で使用してください。（DHCPで割り当てる範囲外のIPアドレスとしてください。）



DMZ ホスト	有効にした場合は、DMZホスト機能を有効にするパソコンのIPアドレスを入力します。

本体再起動
（本製品内部で再起動させる）

ここでは、[設定メニュー]の[本体再起動]
について説明します。

◆本体再起動

設定した内容を本製品に反映させるには、必ず再起動が必要です。

[本製品再起動]をクリックすると以下の画面が表示されます。
[OK]ボタンをクリックします。
設定画面上に「再起動しています」と表示されます。
正常に再起動が終了すると、ステータス画面に戻ります。



初期設定に戻す
（設定をすべて初期の設定に戻す）

ここでは、[設定メニュー]の[初期設定に戻す]について説明します。

◆初期設定に戻す

設定をすべてはじめから行いたい場合などに行います。

注意！

・以下の手順を行うと、変更した設定内容は、すべて元どおりになります。設定画面で最初からすべて設定し直してください。

・管理者パスワードのみ初期化されません。管理者パスワードを含めたすべてを初期化する場合は、[RESET]ボタンによる初期化を行ってください。（【[RESET]ボタンによる初期設定への戻し方】108 ページ参照）

[初期設定に戻す]をクリックすると以下の画面が表示されます。
[OK]ボタンをクリックします。
設定がすべて初期設定に戻ります。



ファームウェア更新
（本製品のファームウェアを更新する）

ここでは、[設定メニュー]の[ファームウェアの更新]について説明します。

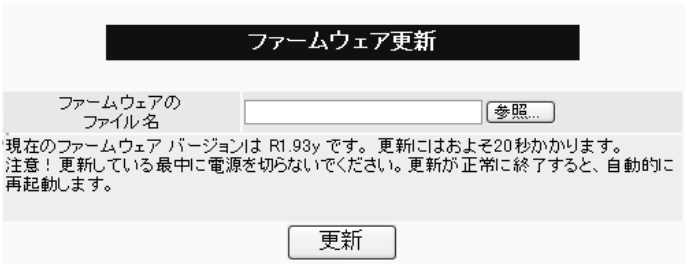
◆ファームウェア更新

本製品のファームウェアを最新のファームウェアにアップデートすることができます。

1 弊社ホームページの「サポートライブラリ」（ *http://www.iodata.jp/lib/* ）より、最新のファームウェアファイルを入手してください。

2 入手後、[設定メニュー]の[ファームウェアの更新]をクリックします。

3 以下の画面が表示されます。
[参照]ボタンでファームウェアファイルの場所を指定します。
指定後、[更新]ボタンをクリックします。20秒ほどそのままお待ちください。



注意！

更新中は、絶対に本製品の電源を切らないでください。
故障の原因となります。

4 更新が正常に終了すると、本製品は再起動を行います。

[RESET]ボタンによる初期設定への戻し方
（本製品背面の[RESET]ボタンでの操作）

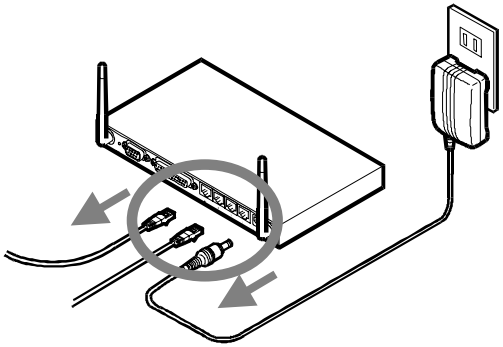
ここでは、本製品背面の[RESET]ボタンで本製品を初期設定に戻す手順について説明します。
[設定メニュー]の[初期設定に戻す]でも本製品を初期設定に戻すことができますが、設定画面が起動しないなど、手動で行うしかない場合に以下の手順を行ってください。

注意！

以下の手順を行うと、変更した設定内容は、すべて初期設定（出荷時設定）となります。設定画面で最初からすべて設定し直してください。

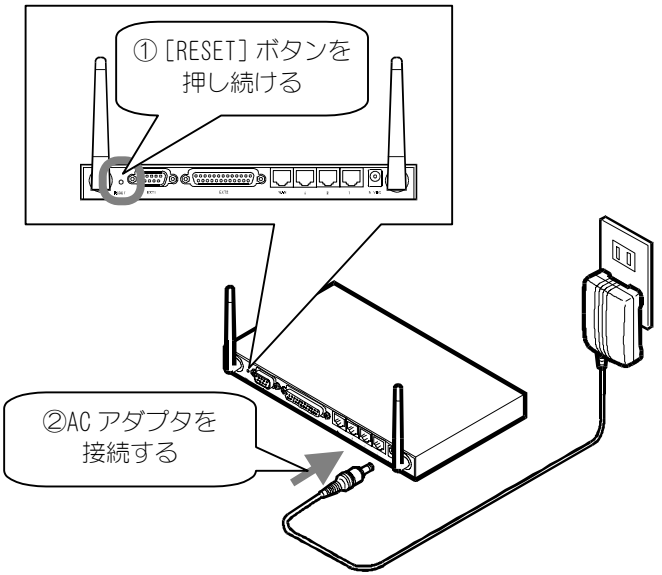
1 本製品を使っていないことを確認します。

2 本製品からACアダプタやプリンタケーブルを取り外します。



3 [RESET]ボタンをシャープペンの先などで押し続けながら、ACアダプタを接続(本製品の電源を入れる)します。

※[RESET]ボタンは[POWER]ランプが点灯したら離します。



以上で本製品を初期設定に戻す設定は終了です。
再度最初から本製品を設定し直してください。

MEMO

付録 1

困ったときには

本製品を使用して異常があった場合にご覧ください。

設定時のトラブル

状態	参照頁
設定画面が表示されない	113
CATV 局がユーザを[コンピュータ名]で管理している場合の設定方法がわからない	114
パソコンを IP アドレスなどの自動取得(DHCP クライアント)として設定しているのに、IP アドレスなどを取得できない	
PPPoE 接続で取得したグローバル IP アドレスを調べたい	115
LAN 側(LAN コネクタ[1]～[3]側)の IP アドレスを変更したら接続できなくなった	
管理者の[パスワード]を忘れた	
設定画面で文字が入力できない	116
[TCP/IP]が表示されていない　(Windows Me/98/95 の場合)	

ADSL および CATV 接続時のトラブル

状態	参照頁
ADSL モデム（ブリッジタイプ）を使ってインターネットに接続できない 本製品の状態：［M2］ランプ： 消灯 ［Link/Activity］ランプ ： 点灯	118
ADSL モデム（ブリッジタイプ）を使ってインターネットに接続できない 本製品の状態：［M2］ランプ： 点灯 ［Link/Activity］ランプ ： 点灯	
ADSL モデム（ブリッジタイプ）を設定したのに、［ステータス情報］の［接続状態］の表示が「－」のままとなっている	119
CATV に接続できない 本製品の状態：［M2］ランプ： 消灯 ［Link/Activity］ランプ ： 点灯	120
CATV を設定したのに、［ステータス情報］の［リース残り時間］または［IP アドレス］が取得できない	121
ブラウザを起動すると、以下のエラーが表示される *「モデムが正しく応答していません。モデムが電話回線およびコンピュータに正しく接続されているかどうかを確認してください。」*	

無線 LAN 接続時のトラブル

状態	参照頁
無線 LAN 製品側のパソコンと通信できない	122
暗号化（WEP）を使用したら通信速度が低下した	123
他のアクセスポイントと通信できない	

設定時のトラブル

設定画面が表示されない

原因1	接続が正しく行われていない。
対処	本製品の電源が入っているか（[POWER]ランプが点灯、[M1]ランプが点滅しているか）、接続ケーブルが LAN に接続されているか再度確認してください。（パソコンを接続しているポートの[Link/Activity]ランプが点灯または点滅しているか） （【第 2 章】9 ページ参照）

原因2	Web ブラウザが、プロキシ経由でインターネット接続するようになっている。
対処	WEB ブラウザから本製品の設定を行う場合は、ブラウザの設定でプロキシサーバーを使わない設定にしてください。 ブラウザがプロキシサーバーを使用する設定になっていた場合、本製品の設定画面を呼び出す事ができません。 なおプロバイダからの指示がプロキシサーバーを使用する設定で案内されている場合は本製品の IP アドレスのみ、プロキシサーバーを使用しない設定にする必要があります。 （【Web ブラウザを設定する】52 ページ参照）

原因3	ご使用のパソコンに IP アドレス、ゲートウェイアドレスが割り当てられていない
対処	【設定用パソコンの IP アドレスを設定する】(34 ページ)を参照して、IP アドレスの設定を確認してください。

CATV 局がユーザを[コンピュータ名]で管理している場合の設定方法がわからない

対処	CATV 局からの[コンピュータ名]を、本製品の[ホスト名]に設定してください。 （[WAN 側設定]→[CATV 接続設定]→[DHCP で取得する]→[ホスト名]へ設定してください。）

パソコンを IP アドレスなどの自動取得（DHCP クライアント）として設定しているのに、IP アドレスなどを取得できない

原因	ネットワークの設定に問題がある。
対処	本製品の[Link/Activity]ランプが正しく点灯している場合は、以下の対応方法が考えられます。 ・DHCP でアドレスの解放と書き換えを行う。 ・LAN アダプタのドライバを最新のものへ更新する。 （ドライバの更新、通信方式の変更方法につきましては LAN アダプタのメーカーへお問い合わせください。） ・パソコンとの間にスイッチングハブが入っている場合は、スイッチングハブを初期化する。 （スイッチングハブの初期化方法についてはスイッチングハブのメーカーへお問い合わせください。） これらの方法でも DHCP クライアントとして IP アドレスなどを取得することができない場合は、お手数ですが、固定（手入力）でネットワークの設定を行ってください。なお、固定でネットワークの設定を行う場合は、ネットワークアドレスを合わせる必要があります。 デフォルト値（工場出荷値）で運用する場合は、TCP/IP 設定に以下の値を使用します。 IP アドレス：　192.168.0.2～192.168.0.254 から他の機器と重複しない任意の IP アドレス サブネットマスク：　255.255.255.0 デフォルトゲートウェイ（ルータアドレス）：　192.168.0.1

PPPoE 接続で取得したグローバル IP アドレスを調べたい

対処	Web ブラウザの設定メニューから[ステータス]を選択してください。 PPPoE(IPCP)で取得したグローバル IP アドレス([IP アドレス])、プロバイダ側でゲートとなっているマシンのグローバル IP アドレス([デフォルトゲートウェイ])、DNS サーバーアドレス([プライマリ DNS アドレス]、[セカンダリ DNS アドレス])を確認する事ができます。

LAN 側(LAN コネクタ[1]～[3]側)の IP アドレスを変更したら接続できなくなった

対処	*・パソコンに固定で IP アドレスを設定している場合* 1.パソコンの IP アドレスには、新しく設定した(変更した)ルータの LAN 側 IP アドレスと同じネットワーククラスの IP アドレスを設定してください。 2.パソコンのゲートウェイ(ルータアドレス)と DNS アドレスには、新しく設定した(変更した)ルータの LAN 側 IP アドレスを設定してください。 *・パソコンに IP アドレスを自動的に取得させている場合* パソコンの再起動、または、パソコンが自動的に取得しているアドレスの解放と書き換えを行ってください。

管理者の[パスワード]を忘れた

対処	本製品背面の[初期化スイッチ](RESET)ボタンを押せば、再度新しい設定を行うことができます。(ただし、すべての設定が初期状態に戻ります。) 詳細な手順は 108 ページを参照してください。

設定画面で文字が入力できない

原因1	入力個所をクリックしていない。
対処	一度入力したい個所をクリックしてから入力してください。

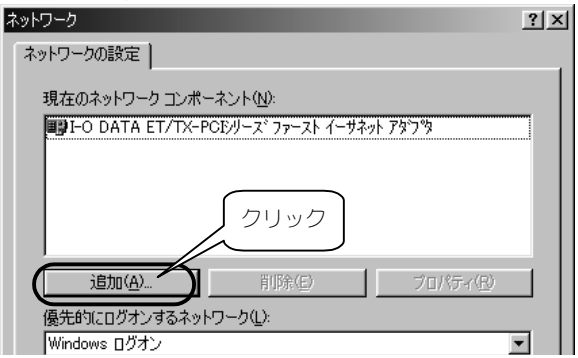
原因2	入力できない文字を入力しようとしている。
対処	入力できる文字かを確認してから入力してください。

[TCP/IP]が表示されていない　（Windows Me/98/95 の場合）

原因	TCP/IP プロトコルがインストールされていない。
対処	下記の手順で TCP/IP をインストールします。

1 「ネットワーク」を起動します。
[スタート]→[設定]→[コントロールパネル]を順にクリックし、
[ネットワーク]アイコンをダブルクリックします。

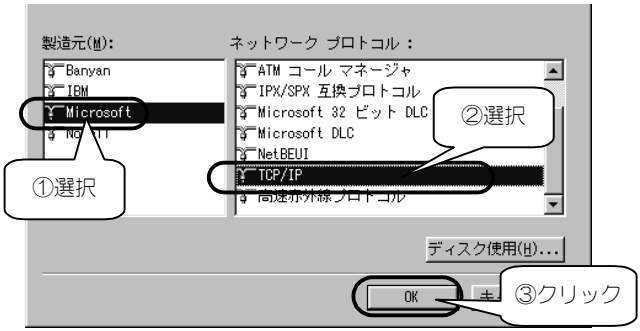
2 [追加]ボタンをクリックします。
※以下の画面は、弊社製ET/TX-PCIシリーズを例にしています。



3 [プロトコル]を選択し、[追加]ボタンをクリックします。



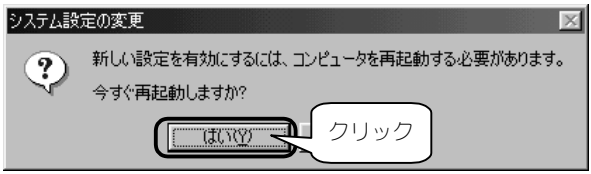
4 [Microsoft]の[TCP/IP]を選択し、[OK]ボタンをクリックします。



5 [OK]ボタンをクリックします。



6 [はい]ボタンをクリックして、パソコンを再起動します。



ADSL および CATV 接続時のトラブル

ADSL モデム(ブリッジタイプ)を使ってインターネットに接続できない

本製品の状態

[M2]ランプ：　消灯
[Link/Activity]ランプ　：　点灯

原因	この状態は、[WAN]側で PPPoE 接続の設定が有効になっていない状態を示しています。
対処	PPPoE 接続の設定を確認してください。 (【ADSL で接続する場合の設定】64 ページ参照)

ADSL モデム(ブリッジタイプ)を使ってインターネットに接続できない

本製品の状態

[M2]ランプ：　点灯
[Link/Activity]ランプ　：　点灯

原因1	パソコン側の TCP/IP 設定に誤りがある
対処	パソコン側の TCP/IP 設定をご確認ください。 IP アドレスを自動的に取得している場合は、IP アドレスの解放と書き換えを行ってください。 IP アドレスを固定で設定している場合は、パソコンに設定した IP アドレス、サブネットマスク、デフォルトゲートウェイ、DNS サーバーのアドレスを確認してください。

原因2	PPPoE の認証に失敗している。
対処	[WAN 側設定]→[ADSL 接続設定]で[ユーザーID]と[パスワード]を再度入力してください。(65 ページ参照)

原因3	接続先のプロバイダの認証方式（[CHAP]または[PAP]）と 本製品の認証方式の違いで、PPPoE の認証に失敗している。
対処	プロバイダに認証方式（[CHAP]または[PAP]のいずれか）を確認してください。 本製品の初期値は[CHAP]認証ですが、プロバイダが[PAP]認証方式の場合は、設定画面の[WAN 側設定]→[ADSL 接続設定]で[認証形式]を[PAP]に変更してください。（65 ページ参照）



参考

CHAP…　ユーザー認証方式の1つで、PAP と違い、ユーザー名やパスワードを暗号化して通信するため、安全性が高い。

PAP…　ユーザー認証方式の1つで、最も簡単な認証方式ですが、通信回線をモニターされるとユーザー名とパスワード情報が盗まれる可能性があります。

原因4	ADSL モデム（ブリッジタイプ）を使用するが、PPPoE 認証を使用しないサービス会社である。
対処	PPPoE 認証を行わないサービス会社の場合はブリッジタイプの ADSL モデムであっても PPPoE の設定を行う必要がありません。 DHCP を使用しますので、設定画面の[WAN 側設定]→[CATV 接続設定]で[DHCP で取得する]で設定してください。（71 ページ参照）

原因5	使用している ADSL モデムがルータタイプのモデムである。
対処	ルータタイプの ADSL モデムと接続する場合には、PPPoE の設定は不要です。 NAT を使用する場合には設定画面の[WAN 側設定]→[CATV 接続設定]で[手動で設定する]で設定してください。（72 ページ参照） [IP アドレス]には、ADSL サービス会社から割り当てられたグローバル IP アドレスを設定してください。

ADSL モデム（ブリッジタイプ）を設定したのに、[ステータス情報]の[接続状態]の表示が「－」のままとなっている

対処	[M2]ランプと[Link/Activity]ランプの状態を確認し、前ページに該当する個所の【対処】を参照してください。

CATV に接続できない

本製品の状態	[M2]ランプ：　消灯 [Link/Activity]ランプ　：　点灯

原因1	[WAN]ポートに IP アドレスが設定されていない。
対処	IP アドレスが固定割り当ての場合は、あらかじめ本製品の[WAN]ポートに CATV 局から割り当てられた IP アドレスを設定する必要があります。パソコンの IP アドレスを本製品の LAN コネクタ[1]～[3]側 IP アドレスと同じクラスのネットワークアドレスに合わせる必要があります。 本製品が工場出荷値の場合、パソコンの TCP/IP 設定に以下の値を使用します。 IP アドレス：　192.168.0.2～192.168.0.254 から任意のもの サブネットマスク：　255.255.255.0 デフォルトゲートウェイ：　192.168.0.1 その後、設定画面で本製品を設定してください。 ブラウザで本製品の設定を行う場合は、ブラウザの設定でプロキシサーバーを使わない設定にしてください。 ブラウザがプロキシサーバーを使用する設定になっていた場合、本製品の設定画面を呼び出す事ができません。 なおプロバイダからの指示がプロキシサーバーを使用する設定で案内されている場合は本製品の IP アドレスのみ、プロキシサーバーを使用しない設定にする必要があります。（【Web ブラウザを設定する】52 ページ参照）

原因2	CATV 局から IP アドレスを取得できていない。
対処	CATV 局によっては、MAC アドレスを登録したネットワーク機器のみでしか CATV に接続できなくしている場合があります。 MAC アドレスは、LAN ボード/カードや本製品などにそれぞれ別々の値が設定されていますが、CATV 局側が、本製品導入以前に接続していたパソコンの LAN ボード/カードの MAC アドレスを登録したままにしていると、本製品を導入しても CATV 局側が本製品の MAC アドレスを認識しません。CATV 局へ本製品の MAC アドレスに登録を変更する手続きを行ってください。 本製品の MAC アドレスは本体底面のシール、または設定メニューの[ステータス]で確認することができます。その際、CATV 局へ報告する MAC アドレスは WAN 側の MAC アドレスとなります。

原因3	ケーブルモデムのメモリ内に以前接続していたパソコンの情報が記憶されている。
対処	ケーブルモデムのメモリ内に以前接続していたパソコンの情報が記憶されているためにケーブルモデムが本製品を認識できないという場合があります。 ケーブルモデムの初期化を行った後、再度接続してみてください。 （初期化の方法についてはケーブルモデムの取扱説明書などをご覧ください）

CATV を設定したのに、[ステータス情報]の[リース残り時間]または[IP アドレス]が取得できない

対処	前ページ【CATV に接続できない】の【対処】を参照してください。

ブラウザを起動すると、以下のエラーが表示される

「モデムが正しく応答していません。モデムが電話回線およびコンピュータに正しく接続されているかどうかを確認してください。」（以下の画面）



Windows Me での表示例

原因	ダイヤルアップネットワークでダイヤルアップする設定となっている。
対処	【Web ブラウザを設定する】(52 ページ)を参照して、Web ブラウザを設定してください。

無線 LAN 接続時のトラブル

無線 LAN 製品側のパソコンと通信できない

原因1	無線 LAN 製品側のパソコンの無線の設定が正しくない。
対処	無線 LAN 製品側のモードが[Infrastructure]に、SS ID を本製品の値と同じにしているか確認してください。 （【無線 LAN 設定】31 ページ参照）

原因2	無線 LAN 製品側のパソコンが Windows Me/98 の場合で、正常にログインしていない。（パソコン起動時の[ユーザー名][パスワード]の入力画面で[キャンセル]ボタンをクリックしている等）
対処	パソコン起動時の[ユーザー名][パスワード]の入力画面で正しい[ユーザー名][パスワード]を入力してください。

原因3	無線 LAN 製品側のパソコンの IP アドレスの設定が正しくない。
対処	無線 LAN 製品側のパソコンで TCP/IP を使用している場合は、正しい IP アドレスを設定してください。IP アドレスが正しいかについては、【設定した IP アドレスを確認する】(47 ページ)も参照してください。

原因4	電波の状態が悪い。
対処	無線 LAN 製品と本製品間の距離を短くしたり、障害物を取り除いて見通しをよくしたりしてみてください。

原因5	暗号化キーの設定があっていない。
対処	本製品と無線 LAN 製品側の暗号化キーの設定を同じ暗号化キーにしてください。 （【無線 LAN 側設定】79 ページ参照）

原因6	無線 LAN 製品側のパソコンの IP アドレスを DHCP サーバーから正しく取得していない。
対処	IP アドレスを DHCP サーバーから取得している場合は、DHCP サーバーが起動していること、本製品の電源が入っていることを確認してから、無線 LAN 製品側のパソコンの電源を入れてください。

暗号化（WEP）を使用したら通信速度が低下した

対処	暗号化通信では、送信するデータをすべて暗号化／復号化する必要がありますので、通信速度が若干低下します。

他のアクセスポイントと通信できない

対処	本製品同士を含むアクセスポイント同士の通信はできません。

付録2

TCP/IP の基礎知識

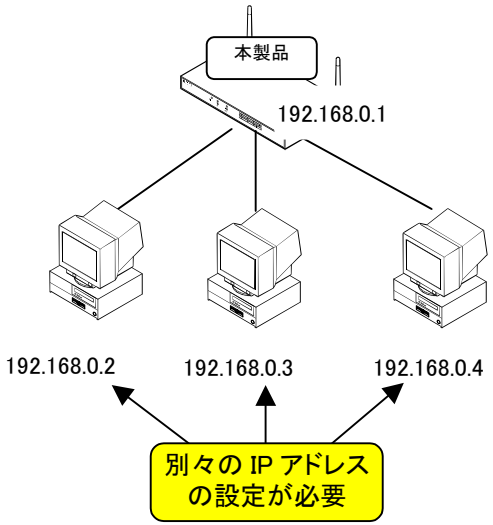
ここでは、本製品を使用する上で必要となるTCP/IPプロトコルのIPアドレスの基礎知識について説明します。必要に応じてお読みください。

・IP アドレス ……125
同じネットワーク上では別々の IP アドレスが必要 ……125
インターネットの IP アドレスと LAN の IP アドレス……126
LAN 内で使用する IP アドレスのクラス ……127
・DHCP ……128
・具体的な IP アドレスの設定例……129
本製品を DHCP サーバーとして使用する場合の例……129
IP アドレスをすべて手動で設定する場合の例……130

IP アドレス

同じネットワーク上では別々の IP アドレスが必要

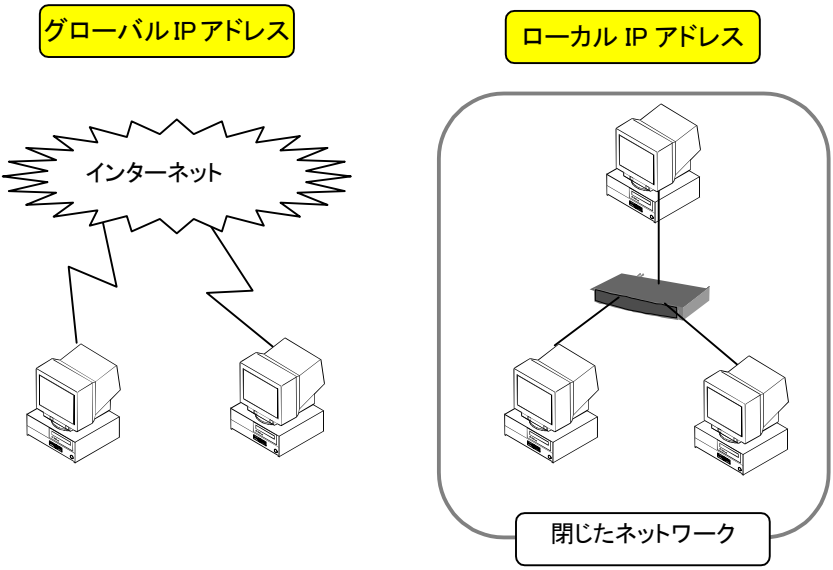
本製品を使用するには、本製品やパソコンにIPアドレスの設定が必要です。
また、設定するIPアドレスは、本製品および本製品に接続したパソコンのすべてに別々のIPアドレスが必要です。
IPアドレスとは、データを送受信するためのパソコン同士で理解できる住所のようなものです。
町の1軒1軒の家が別々の住所を持つように、パソコンも1台1台が別々のIPアドレスを設定する必要があります。もし、同じIPアドレスを持つパソコンがあるとどちらにデータを送ればいいのかわからなくなるためです。
例えば、本製品は出荷時「192.168.0.1」のIPアドレスを持ちますが、ネットワーク上に、同じIPアドレスを設定したパソコンがあると、他のパソコンから本製品やその同じIPアドレスのパソコンにアクセスできなくなります。



インターネットの IP アドレスと LAN の IP アドレス

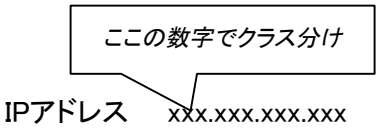
IPアドレスには、「グローバルIPアドレス」と「ローカルIPアドレス」（プライベートIPアドレス）があります。
「グローバルIPアドレス」は、インターネットで使用するIPアドレスです。
「ローカルIPアドレス」は、通常LAN内で使用するIPアドレスです。

グローバル IP アドレス	ネットワーク上で別々の IP アドレスが必要であるように、インターネットを利用する世界中のすべてのパソコンがそれぞれ別々の IP アドレスを使用する必要があります。この IP アドレスがグローバル IP アドレスです。 通常、プロバイダより割り当てられます。
ローカル IP アドレス	インターネットに接続されていない環境（家庭内のみ、会社内のみなど）では、ネットワーク内で別々の自由な IP アドレスを使用することができます。 この IP アドレスがローカル IP アドレスです。



LAN 内で使用する IP アドレスのクラス

IPアドレスは、ネットワークを構成するパソコンの台数に応じて、3つのクラスに分かれます。
大規模なネットワークならば[クラスAのIPアドレス]、中規模なら[クラスBのIPアドレス]、小規模の場合は[クラスCのIPアドレス]となります。
同一のネットワーク内では、同一クラスのIPアドレスである必要があります。
実際には、本製品の出荷時のIPアドレス「192.168.0.1」のように、IPアドレスは、ピリオドで区切られた4つの数字の羅列で構成されていて、4つの数字の最初の数字の値で、クラスが分けられます。



例　本製品の出荷時のIPアドレス「192.168.0.1」の場合は「192」

クラスは以下のように分類されています。

IP アドレスの最初の数字※	クラス	用途（ネットワークを構成するパソコンの台数）
1～127	クラスA	大規模ネットワーク用（最大約 1600 万台）
128～191	クラスB	中規模ネットワーク用（最大約 65000 台）
192～223	クラスC	小規模ネットワーク用（最大約 120 台）

※「224～255」は通常の IP アドレスとしては使われていません。

例えば、数台～数10台で構成されるネットワークでは、クラスCのIPアドレスを使用します。
通常、ネットワークを構成する場合は、以下の特別なローカルIPアドレスを使用します。

クラス	設定する IP アドレス
クラスA	10.0.0.0　～　10.255.255.255
クラスB	172.16.0.0　～　172.31.255.255
クラスC	192.168.0.0　～　192.168.255.255

DHCP

DHCP（Dynamic Host Configuration Protocol）とは、IPアドレスの自動割り当て機能のことです。
DHCPは、DHCPサーバーとDHCPクライアントで構成され、DHCPサーバーがDHCPクライアントに使用可能なIPアドレスを割り当てます。
例えば、本製品をDHCPサーバーとし、複数台のすべてのパソコンをDHCPクライアントに設定した場合、各パソコンは、パソコン起動時に使用可能なIPアドレスを入手し、終了時に開放します。

●DHCP の特徴

・個々のパソコンに IP アドレスをセットする手間が省けます。
・設定できる IP アドレスが変更された場合、DHCP サーバーのみの変更で済みます。
そのため、クライアント側で IP アドレスを考慮する必要がなくなります。
DHCP クライアント側では、DNS やゲートウェイ（ルータ）の IP アドレスも自動で設定されます。
・DHCP クライアント側の IP アドレスは、起動時毎に毎回異なる場合があります。



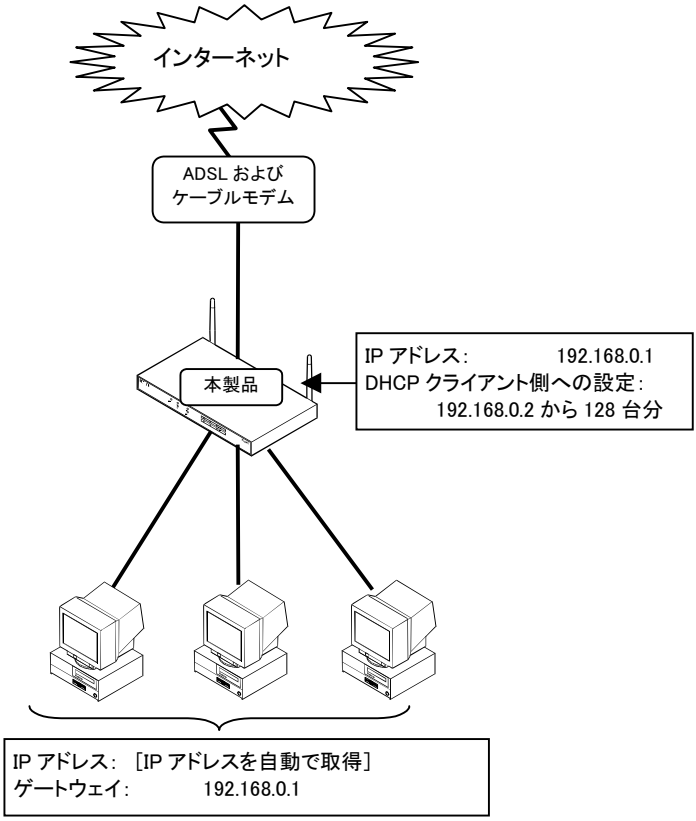
注意！

本製品を DHCP サーバーとした場合は、必ず本製品が正常に起動した後に、パソコンを起動してください。パソコンを先に起動すると IP アドレスが正常に割り当てられなくなる場合があります。

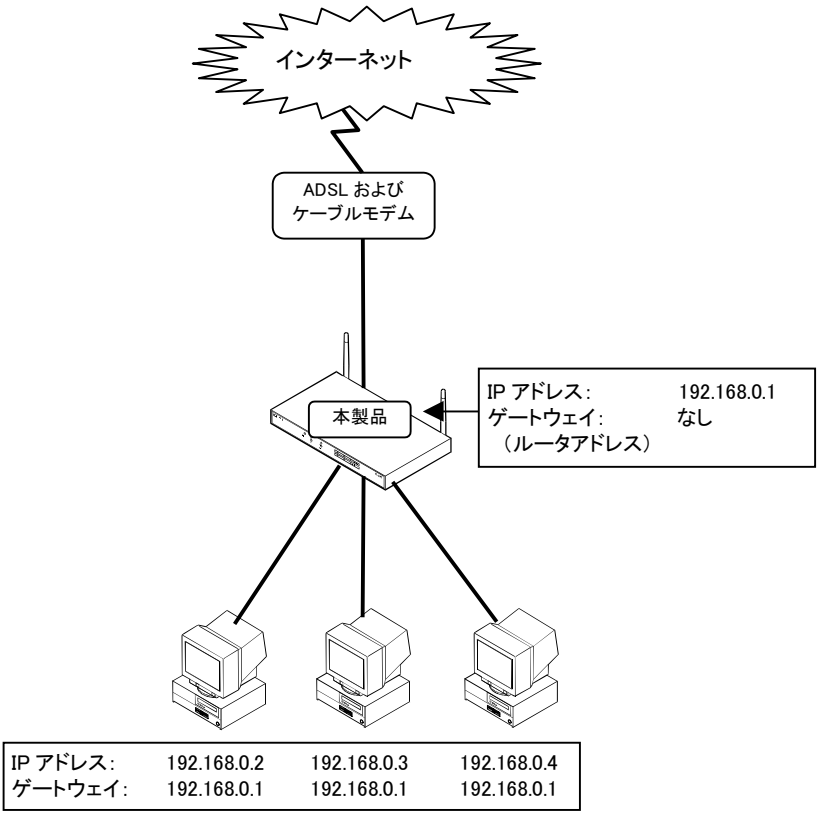
具体的な IP アドレスの設定例

ここでは、小規模ネットワークでの、本製品を使用した場合の IP アドレスの具体的な設定例について説明します。

本製品を DHCP サーバーとして使用する場合の例



IP アドレスをすべて手動で設定する場合の例



付録3

用語解説

ここでは、本製品の関連する用語について説明します。

10BASE-T

ツイストペアケーブル（10BASE-T ケーブル）を使用した Ethernet の通信方式の一つで、最大伝送速度は 10Mbps です。

100BASE-TX

ツイストペアケーブル（100BASE-TX ケーブル）を使用した Ethernet の通信方式の一つで、最大伝送速度は 100Mbps です。

Ad Hoc

「アドホック」といい、アクセスポイントを介さずに、パソコン同士が直接通信しあう形態です。
他にインフラストラクチャモード（Infrastructure mode）があります。

ADSL （*Asymmetric Digital Subscriber Line*）

従来の電話回線（メタルケーブル）を利用し、専用のモデムで高速なデータ伝送を可能にしたデジタル技術の1つです。

CATV （*CAble TV*）

同軸ケーブルによって接続した限定地域に対して、多様なサービスを提供する TV 放送システムです。

DHCP （*Dynamic Host Configuration Protocol*）

自動的にネットワークの設定を行うプロトコル（通信手順）のことです。
DHCP サーバーはネットワークの DHCP クライアントに対して、自動的にネットワークの設定を行います。

DMZ （DeMilitarized Zone）

Web、DNS、FTP などの公開サーバをインターネット側からの不正な攻撃から守るため、ファイヤウォールにより設けられたセグメントです。

DNS （Domain Name System）

TCP/IP ネットワークで使われ、コンピュータについた名前と実際の IP アドレスを関連付けるシステムです。

DNS サーバー

ネットワークのグループについた名前を問い合わせると、その IP アドレスを教えてくれるサーバーのことです。DNS サーバーを使用することにより、WWW ブラウザ等のアドレス入力欄でアドレスを文字で入力することができます。
（IP アドレスの数値を直接入力する必要が無くなります）

DS-SS （Direct Sequence-Spread Spectrum）

「直接拡散・スペクトラム拡散」方式といい、無線通信における変調方式の1つです。干渉がおきにくい、ノイズの影響を受けにくい、などの特徴があります。

Ethernet

Xerox 社、DEC 社、Intel 社の 3 社が仕様を開発した LAN の通信方式で、10BASE-T、10BASE5 等があります。

IEEE802.11

無線 LAN の国際的な標準規格です。
IEEE802.11b では、通信速度が 11Mbps まで拡張されています。

Infrastructure

「インフラストラクチャ」といい、アクセスポイントを介して通信する無線 LAN の形態のことです。

IP アドレス

TCP/IP プロトコル（インターネットで使用されている規約）を使用して構築されるネットワークで、接続されている全ての機器を区別するために付けられるアドレス（番地）のことです。

IP マスカレード

プロバイダから提供された一つのグローバル IP アドレスを複数のプライベート IP アドレスへ変換し、同時に複数台のコンピュータでインターネットに接続できるようにする機能です。NAT とは異なり、同時にインターネットへ接続できるコンピュータの台数は、プロバイダから提供されたグローバル IP アドレスの数には依存しません。
ただし、IP マスカレードでは正しく動作しないアプリケーションもありますので、その場合は NAT を使用します。

ISP *（Internet Service Provider）*

インターネット・サービス・プロバイダの略称です。（単にプロバイダと呼ばれることが多い）
企業や個人に対しインターネットへ接続する通信サービスを提供する回線業者のことです。

LAN *（Local Area Network）*

ローカル・エリア・ネットワークの略称です。小規模なコンピュータネットワークのことです。
LAN に対して WAN(Wide Area Network)があり、WAN は LAN 同士を結ぶ大規模なネットワーク（インターネット等）のことです。

MAC アドレス *（Media Access Control Address）*

Ethernet 機器ごとの固有の物理アドレスです。
MAC アドレスは、先頭からの3バイトのベンダーコードと残り3バイトのユーザコードの6バイトで構成されています。
ベンダーコードは IEEE が管理／割当を行っており、ユーザコードは、Ethernet 機器の製造メーカが独自の番号（重複することのない）で管理を行い、世界中で単一のアドレスが割り当てられています。Ethernet ではこのアドレスを元にしてフレームの送受信を行っています。

NAT （Network Address Translator）

LAN で使用しているプライベート IP アドレスをインターネットで使用できるグローバル IP アドレスへ変換することにより、プライベート IP アドレスしか持たない LAN のコンピュータからインターネットへ接続できるようにする機能です。
NAT の場合、プライベート IP アドレスとグローバル IP アドレスは 1 対 1 で対応していなければなりません。同時にインターネットへ接続できるコンピュータの台数は、ISP や RAS サーバーから提供されたグローバル IP アドレスの数に依存します。

POP （Post Office Protocol）

電子メールをスプールしているシステムから、TCP/IP プロトコルを使ってメールスプールの内容を読み出すためのプロトコルです。
プロトコル仕様は RFC1939 で定義されています。
POP3 サーバとは受信メールサーバのことを指します。

PPPoE （PPP over Ethernet）

ネットワーク（Ethernet）上で、ダイヤルアップ接続（PPP 接続）のような利用者のユーザー名、パスワードのチェックを行うために作り出された規格です。

SMTP （Simple Mail Transfer Protocol）

電子メールを送信するためのプロトコルです。
プロトコル仕様は RFC821 などで定義されています。
SMTP サーバとは送信メールサーバのことを指します。

SS ID （Service Set ID）

複数の無線ネットワークが存在する場合に、それらをグループ化するための識別子（ID）です。
SS ID が一致していないとそのネットワークには参加できません。

TCP/IP （Transmission Control Protocol / Internet Protocol）

通信プロトコルの1つ。
最も普及しているプロトコルで、インターネット上の通信にも使われています。

Telnet

遠隔地からほかのコンピュータにログインして、遠隔操作を行なう仮想端末プロトコルです。
プロトコル仕様は RFC854 で定義されています。
テキストベースの通信を行ない、コマンドを送信する際にはエスケープコードを利用します。一般的には TCP/IP のポート番号 23 番を使用します。

WAN （*Wide Area Network*）

通常は LAN に対比して使用される言葉で、遠隔地にあるコンピュータ同士（LAN 同士）を公衆回線網を使って接続したネットワークのことです。

WEP （*Wired Equivalent Privacy*）

IEEE802.11b に含まれる標準の暗号化方式です。
各無線通信機器同士が共通の暗号鍵を使用して通信データを暗号化します。
暗号鍵を知らないパソコンは通信に参加することができません。

xDSL （*x Digital Subscriber Line*）

ADSL や SDSL、HDSL、VDSL などを総称して呼ぶ言葉です。

アクセスポイント

インフラストラクチャモード（Infrastructure mode）での通信の中継点となるポイントです。
他のパソコンでは、アクセスポイントと通信することで他のパソコンと通信します。
有線 LAN と無線 LAN の中継点ともなります。

クライアント

ネットワーク内で、サービスを受ける側のことです。

グローバル IP アドレス

インターネットを使うことを許された IP アドレスです。

ゲートウェイ

通信手順の異なるネットワーク同士を接続するための機器やシステムです。
ゲートウェイに該当する機器の IP アドレス（ゲートウェイアドレス）をゲートウェイと呼ぶこともあります。

サーバー

ネットワーク内で、他のパソコン（クライアント）からの要求を受け、サービスを提供する側のコンピュータのことです。

サブネットマスク

LAN で使用可能なアドレスの範囲を決めるために、IP アドレスと組み合わせる値です。

スタティックルーティング

ルーティングするための情報をあらかじめルータに設定しておき、常に決まったルートを通って目的のノード（ネットワークに接続されているコンピュータ等）へパケット（ネットワーク内を流れるデータ）を送る方法です。静的ルーティングとも呼びます。

セッション

TCP/IP プロトコルによるデータ処理の単位です。

ダイヤルアップ IP

インターネットへ接続する際に、モデムや TA 等で ISP へ電話をかけて接続する方法です。

チャンネル

無線通信では、使用する周波数帯域を分割して、それぞれの帯域で異なる通信を行うことができます。
チャンネルとは、その分割された個々の周波数帯域のことです。

パケット

ネットワーク内を流れるデータです。

パケットフィルタ

ルータの機能を強化して、個々のパケットの単位で通過させたり、禁止したりできるようにしたものです。

ハブ

10BASE-T ケーブル（RJ-45 規格）を複数本集めて、通信を行うための LAN 機器（集配線装置）です。

ピアツーピア接続

サーバー／クライアントのような上下関係の無い対等な関係で行う通信のことです。

ファイヤウォール

組織内外からの通信すべてに対して、通過させたり、禁止したりすることによって、必要なサービスだけをユーザーに提供しつつ、セキュリティを確保します。
名前の由来は「防火壁（firewall）」に因んでいます。

ファームウェア

本製品内部で動作し、本製品のコントロールを行うプログラムです。

プライベート IP アドレス

組織内部のネットワークアドレスとして、自由に利用できる IP アドレス。
以下のものが利用できるとされています。

ClassA ： 10.0.0.0～10.255.255.255
ClassB ： 172.16.0.0～172.31.255.255
ClassC ： 192.168.0.0～192.168.255.255

ブリッジ

LAN のセグメント間を相互接続する機器で、OSI 参照モデルのデータリンク層で動作します。
パケットの衝突(コリジョン)が増え、パフォーマンスが低下するという事態を回避するためコリジョンドメインを制限して、ネットワークを効率化するために作られたネットワーク機器です。

リンク

各機器間を接続することです。

ルータ

複数の LAN 等、ネットワークを相互に接続するための機器です。
異なるネットワーク間の中継点に設置して、ネットワークを介して送信されるデータをきちんと目的の場所に届ける役目を持っています。
ネットワーク内を流れてきたデータが外部のネットワーク宛であれば、ルータはそのデータを外部に送り出します。
ルータはそのときにどういう経路でデータを配信するかまで判断し、最適なルートに送り出しています。
必要によっては通過させるデータやプロトコルの種類を制限することも可能です。

ルーティング

ネットワークのパケットを、正しく目的ノード（ネットワークに接続されている機器）へ届くように制御することです。

ローミング

複数のアクセスポイントを設置した環境で、各アクセスポイントのサービスエリア間を移動した場合に、自動的にアクセスポイントを切り替える機能です。
その場合、それぞれのアクセスポイントの SS ID と WEP が同じ設定である必要があります。

仮想サーバー

「バーチャルサーバー機能」といい、本製品では Web、DNS、FTP などのサーバーをインターネット上へ公開する場合に使用します。

付録4

仕　様

規格	無線部:IEEE802.11, IEEE802.11b RCR STD-33,ARIB STD-T66 有線部:IEEE802.3u, IEEE802.3
周波数帯域	2.4GHz 帯 （2.412～2.4835GHz）
チャンネル	1ch～14ch
伝送方式	直接拡散・スペクトラム拡散方式（DS-SS）
無線設備の種別	省電力データ通信システム
セキュリティ方式	WEP（Wired Equivalent Privacy） 64/128bit SS ID（Service Set ID）
アクセス方式	インフラストラクチャ[Infrastructure]
アンテナ方式	デュアルダイバシティアンテナ
インターフェース	LAN 側： 10BASE-T/100BASE-TX(RJ-45) × 3 ポート （スイッチングハブ搭載、MDI/MDI-X 自動判別） WAN 側： 10BASE-T/100BASE-TX(RJ-45) × 1 ポート （MDI/MDI-X 自動判別）
対応プロトコル	TCP/IP
DHCP	DHCP サーバー： 最大 253 アドレス割り当て※ *※MAC アドレス指定による固定割り当て可* DHCP クライアント
セッション数	1(PPPoE セッション) 最大 256(IP マスカレードセッション)
MAC アドレス接続制限	最大 32 エントリ
仮想サーバー	最大 20 エントリ DMZ ホスト登録機能
特殊アプリケーション	最大 8 エントリ
パケットフィルタ	OUT/IN 各最大 8 エントリ ポート番号、IP アドレスでの設定

接続方式	常時接続、オンデマンド接続（CATV インターネット、ADSL など※） PPPoE 接続（ADSL など※） *※ご契約のキャリア／プロバイダにより方式が異なります。*
PPPoE	ON/OFF 可
ログ	簡易ログ機能（Web 画面で表示）
電源	DC5V、最大 1.7A
動作温度範囲	0～40℃
保存温度範囲	-10～60℃
動作湿度範囲	10～80%（結露無きこと）
保存湿度範囲	5～90%（結露無きこと）
寸法	214(W)×22(H)×130(D)mm （アンテナ、突起物は除く）
質量	約 800g（本体のみ）

・WN-B11/BBR出荷時設定表

項目		初期値
WAN 側設定	接続	CATV 接続設定
	IP アドレス	DHCP で取得する
	ホスト名	空白
	自動再接続	有効
	プライマリ DNS アドレス	0.0.0.0（自動取得）
	セカンダリ DNS アドレス	0.0.0.0（自動取得）
LAN 側設定	IP アドレス	192.168.0.1
	DHCP サーバ	有効
	DHCP サーバ →開始 IP アドレス	2
	DHCP サーバ →終了 IP アドレス	32
	プライマリ WINS アドレス	0.0.0.0（設定なし）
	セカンダリ WINS アドレス	0.0.0.0（設定なし）
無線 LAN 側設定	SSID	default
	チャンネル	6
	WEP	無効
MAC アドレス接続制限		無効
仮想サーバー		無効
特殊アプリケーション		無効
パケットフィルタ OUT 制限		無効
パケットフィルタ IN 制限		無効
管理者パスワード		設定なし
セキュアホスト		無効
DMZ ホスト		無効

PLANT コールセンターへのお問い合わせ

■お知らせいただく事項

1. お客様の住所・氏名・郵便番号・連絡先の電話番号及び FAX 番号
2. ご使用の弊社製品名と、ハードウェアシリアル No.
3. ご使用のパソコン本体と周辺機器の型番。
4. ご使用の OS とアプリケーションの名称、バージョン及びメーカー名。
5. 現在の状態(どのようなときに、どうなり、今はどうなっているか。画面の状態やエラーメッセージなどの内容)。

■オンライン

インターネット **http://www.iodata.jp/support/**
「PLANT コールセンターお問い合わせ」内のフォームを使用して、E-Mail をお送りください。

■郵便

〒920-8513 石川県金沢市桜田町2丁目84番地 ｱｲ･ｵｰ･ﾃﾞｰﾀ第２ビル
株式会社アイ・オー・データ機器
PLANT コールセンター「WN-B11/BBR」係宛

■電話

電話番号 **金沢 076-260-3644**
東京 03-3254-1144
受付時間 9:30～19:00 月～金曜日(祝祭日を除く)

■FAX

FAX 番号 **金沢 076-260-3360**
東京 03-3254-9055
宛先 株式会社アイ･オー･データ機器
PLANT コールセンター「WN-B11/BBR」係 宛

本製品に関するお問い合わせは、PLANT コールセンターのみで行っています。
予めご了承ください。

ソフトウェアのバージョンアップ

入手方法は以下の通りです。

■オンライン

インターネット　http://www.iodata.jp/lib/

■サービス窓口からの郵送

下記の窓口までお問い合わせください。（送料及び手数料はお客様負担）

住所　〒920-8513　石川県金沢市桜田町2丁目84番地
アイ・オー・データ第２ビル
株式会社アイ・オー・データ機器
「WN-B11/BBR」 サービス窓口　宛
電話番号　076-260-3663
受付時間　9:30～12:00　13:00～17:00
月～金曜日（祝祭日を除く）

■ご注意

●インターネットによるダウンロードはお客様の責任のもとで行ってください。

保証について

■保証期間

保証期間は、お買い上げの日より１年間です。保証期間を過ぎたものや、保証書に販売店印とお買い上げ日の記述のないものは、有償修理となります。また、修理を受ける場合には保証書が必要になりますので、大切に保管してください。
弊社が販売終了を決定してから、一定期間が過ぎた製品は、修理ができなくなる場合があります。

詳細は、ハードウェア保証書をご覧ください。

■保証範囲

次のような場合は、保証の責任を負いかねます。予めご了承ください。

- 本製品の使用によって生じた、データの消失及び破損。
- 本製品の使用によって生じた、いかなる結果やその他の異常。
- 弊社の責任によらない製品の破損、または改造による故障。

修理について

弊社製品の修理につきましては、以下の事項をご確認の上、販売店へご依頼いただくか、または下記修理品送付先までお送りくださいます様、お願い致します。

- 原則として修理品は弊社への持ち込みが前提です。送付される場合は、発送時の費用はお客様負担、修理後の返送費用は弊社負担とさせていただきます。
  また、修理品のデータに関しましては保証いたしかねます。
- 修理品にはご使用の環境や現在の状態(『PLANT コールセンターへのお問い合わせ』の「お知らせいただく事項」)をお書き添えください。
- 保証期間中は無償で修理いたします。ただし、次の場合は有償となります。
  ◇保証書がない場合
  ◇保証書の所定事項が未記入の場合
  ◇逆挿入など誤った操作方法や、お買い上げ後の輸送、落下、取り付け場所の移設による破損、故障の場合
  ◇落雷などの事故による破損の場合
  ◇本製品を改造した場合
- 保証期間後は有償で修理いたします。
  製品によっては主要部品がユニット化(一体化)されている場合があります。これらの製品で故障が主要部品におよんでいた場合、各ユニットの交換を実費で行います。
- 修理品送付先

住所　〒920-8513
石川県金沢市桜田町2丁目84番地　アイ・オー・データ第２ビル
株式会社アイ・オー・データ機器
「WN-B11/BBR」 修理係　宛

※修理品を送付される場合は、輸送時の破損を防ぐため、ご購入時の箱・梱包材を使用してください。また、紛失などのトラブルを避けるため、**宅配便**または**書留郵便小包**でのご送付をお願いいたします。

- 修理品納期問い合わせについて

受付窓口　「WN-B11/BBR」 サービス窓口
電話番号　本社　076-260-3663
受付時間　9:30～12:00　13:00～17:00　月～金曜日（祝祭日を除く）

※申し込まれた修理品の納期をお知りになりたい場合は、上記までお問い合わせください。

WN-B11/BBR 取扱説明書
2001.Nov.22　103104-01
発 行　株式会社アイ・オー・データ機器
〒920-8512 石川県金沢市桜田町３丁目１０番地

© 2001 I-O DATA DEVICE,INC. All rights reserved.
本製品及び本書は著作権法により保護されておりますので
無断で複写、複製、転載、改変することは禁じられています。